

令和6年度  
橿原市政に関する市民アンケート(意識調査)  
調査結果報告書

令和7(2025)年5月

# 目次

1. 調査概要	1
2. 調査結果	3
1. 調査対象者の基本属性	3
(1)性別	3
(2)年代	3
(3)配偶者の有無	4
(4)世帯構成	4
(5)18歳未満の子の同居	4
(6)65歳以上の方の同居	5
(7)職業	5
(8)住居の形態	6
(9)居住年数	6
(10)居住地区	6
(11)出生地	7
2. 檀原市のイメージ・住みやすさについて	8
(1)檀原市の住みやすさなどについて	8
(2)檀原市のイメージについて	17
(3)檀原市のいいところについて	22
(4)檀原市のわるいところ	24
3. 市が目指してきた「まちの姿」について	26
<前期基本計画>	26
(1)全施策の達成状況と今後の重要性	28
(2)「Ⅰ みんなが活躍し、個性輝くまち」の達成状況と今後の重要性	31
(3)「Ⅱ みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち」の達成状況と今後の重要性	34
(4)「Ⅲ みんなが安全に、快適な環境で生活できるまち」の達成状況と今後の重要性	37
(5)「Ⅳ みんなが活力と魅力を生み、賑わいあふれるまち」の達成状況と今後の重要性	40
(6)「Ⅴ 市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営」の達成状況と今後の重要性	43
<総合戦略>	44
(1)基本目標の達成状況と今後の重要性について	45
(2)「基本目標1 地の利を活かしたしごとの場づくり」の達成状況と今後の重要性	47
(3)「基本目標2 新たな人の流れや交流を盛んにする魅力づくり」の達成状況と今後の重要性	48
(4)「基本目標3 安心して子どもを産み育てられる環境づくり」の達成状況と今後の重要性	49
(5)「基本目標4 安心して健康に暮らせるまちづくり」の達成状況と今後の重要性	50
4. 人やまちの元気さや活気について	52
(1)元気さについて	52
(2)活気について	52
5. 日ごろの活動について	53
6. これからのまちづくりについて	54
(1)市政への関心	54
(2)厳しい財政状況下での市民と行政の役割について	55
(3)人口減少下で檀原市が取るべき施策	56

(4)市を特徴づけるキーワード.....	57
(5)これからの檀原市についてのアイデア・意見 .....	60
7. 情報の伝達について .....	60
(1)市に関する情報を入手するために利用する手段.....	60
(2)情報源になっているメディア .....	61
8. 「幸せ」について .....	63
9. 結婚観・子育て観について .....	65
(1)子どもの人数 .....	65
(2)理想とする子どもの人数と現実的に欲しい人数.....	65
(3)理想とする子どもの人数よりも現実的に欲しい人数が少ない理由 .....	66
(4)檀原市の子育て環境について .....	67
10. 仕事について.....	68
(1)就業先に求めること.....	68
(2)仕事全般に関して、行政に求めること.....	68
11. 暮らしている地域における幸福度・満足度について .....	69
(1)地域における幸福度・満足度.....	69
(2)生活環境 .....	74
(3)地域の人間関係 .....	76
(4)自分らしい生き方 .....	77
(5)地域幸福度 well-being指標における主観指標と客観指標 .....	78

# 1.調査概要

## ■ 目的

橿原市では、令和3年度から「はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら」を将来ビジョンとするまちづくりを進めています。前期基本計画の計画期末を迎えるにあたり、現在に至るまでの市の政策・施策に対する満足度や、これから(概ね7年)の市政運営の方向性について、市民の方の率直な意見を把握し、後期基本計画策定に活用することを目的として実施しました。

## ■ 対象、方法、期間

(調査対象者)

令和6年11月1日現在の住民基本台帳及び外国人登録データに登載されている18歳以上の市民5,000人を無作為に抽出

(調査方法)

郵送による配布・回収、WEB回答フォームによる回答

(調査期間)

令和6年11月11日(月)～令和6年11月25日(月)

## ■ 回収の状況

回収数:2,290件

回収率:45.9%(配布数4,990件 住所不明、受取拒否による不達10件を除く)

【参考】前回調査回収状況

回収数:1,759件

回収率:35.3%(配布数4,981件 住所不明による不達19件を除く)

## ■ 調査の精度等について

- アンケート調査では、母集団※1から無作為に抽出した標本データ※2を元に、調査対象の全体を推計するため、得られた回答に誤差が生じる可能性があります。
- その誤差は、標本誤差と呼ばれており、標本誤差の推定が100回のうち95回当たる、すなわちその度合いで正確さが保障できるという場合、信頼度95%と呼びます。
- 通常のアンケート調査の場合は、信頼度95%を用いるのが一般的であり、許容できる標本誤差の範囲は、5%未満が望ましいとされています。

※1…今回の調査では、18歳以上の橿原市民である102,010人(令和7年1月1日時点)

※2…今回の調査では、アンケート回収数である2,290人

### ア. 標本誤差の計算式

母集団がN人、標本データがn人、ある選択肢の回答値がP%とすると、信頼度95%における、標本誤差E%の計算式(母集団が10,000人以上の場合)は、以下の通りとなります。

$$E = 1.96 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}}$$

## イ. 本アンケートでの標本誤差

本アンケート調査では、2,290人からの回答が得られており、例えば、ある選択肢の回答値が50%であった場合、標本誤差は約3.4%※3となるため、母集団すなわち全市民の賛成率は、95%の確率で47.9%(50%-2.1%)から52.1%(50%+2.1%)の間にあると言えます。なお、標本誤差は、回答値が50%の時に最も高く、回答率が0%もしくは100%に近づくほど減少します。

$$\text{※3…標本誤差 } E=1.96 \times \sqrt{\{50 \times (100-50) / 2290\}}=2.0478$$

以上より、本アンケート調査では、標本誤差が最大でも約2.1%となり、許容できる標本誤差の範囲である5%未満に収まるため、母集団に対し妥当な標本データ数を得ることができたと言えます。

## ■ 調査結果の標記について

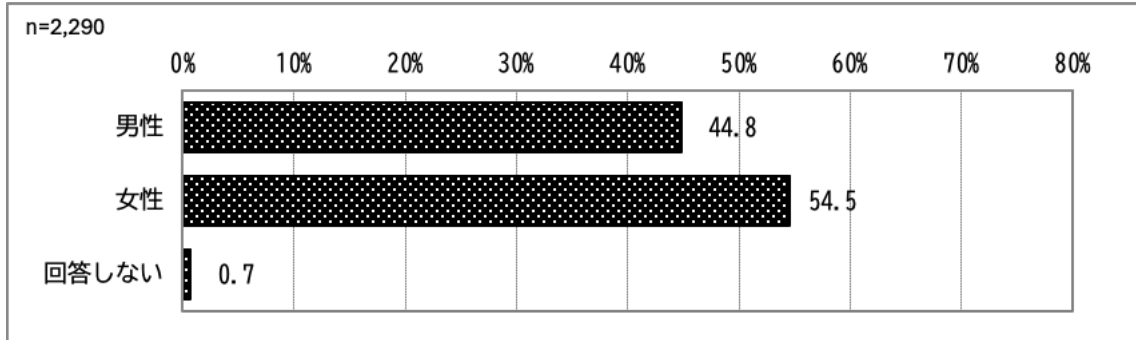
- 比率は全て、各設問の集計対象者数(副問では当該設問回答対象者数)に対する百分率(%)を表しています。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問(複数回答設問)では、百分率(%)の合計は、100.0%を超える場合があります。
- 百分率(%)は小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示しました。1つだけ回答を求める設問(単数回答設問)では、四捨五入の関係上各選択肢の百分率(%)の合計が100.0%にならない場合があります。
- 図表中の「n」は集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を示しています。
- 今回の調査では「19歳以下」の回答者数が著しく少ないため、年代別集計においては当該年代の結果は参考値としています。

## 2.調査結果

### 1.調査対象者の基本属性

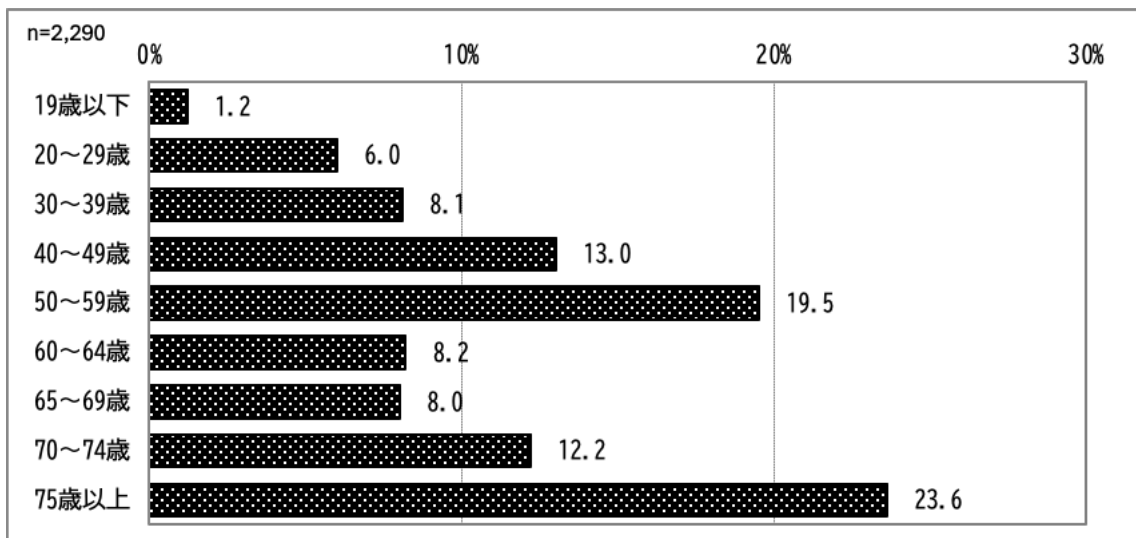
#### (1)性別

「男性」が44.8%、「女性」が54.5%となっています。

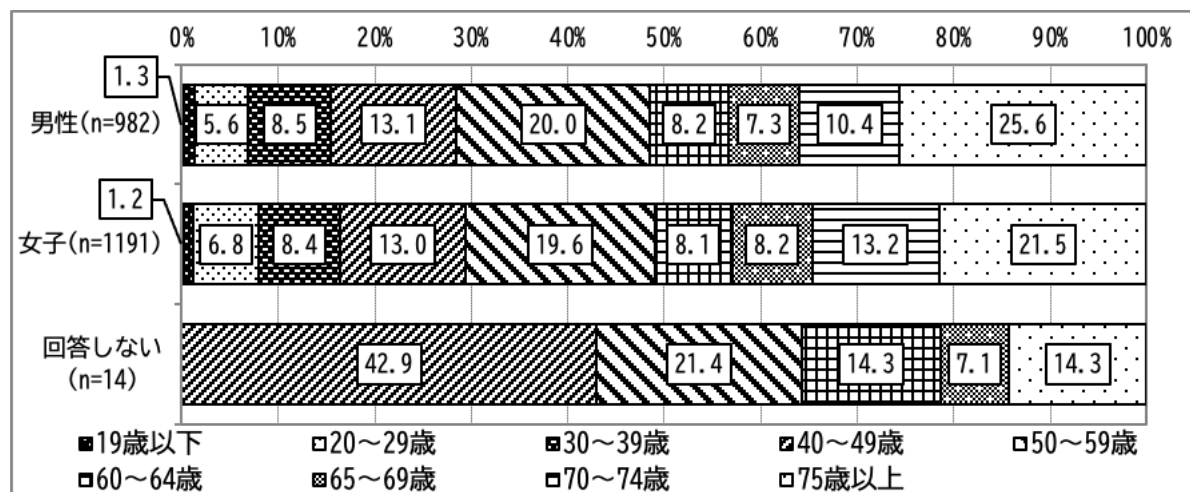


#### (2)年代

「75歳以上」が23.6%と最も多く、次いで「50～59歳」が19.5%、「40～49歳」が13.0%となっています。

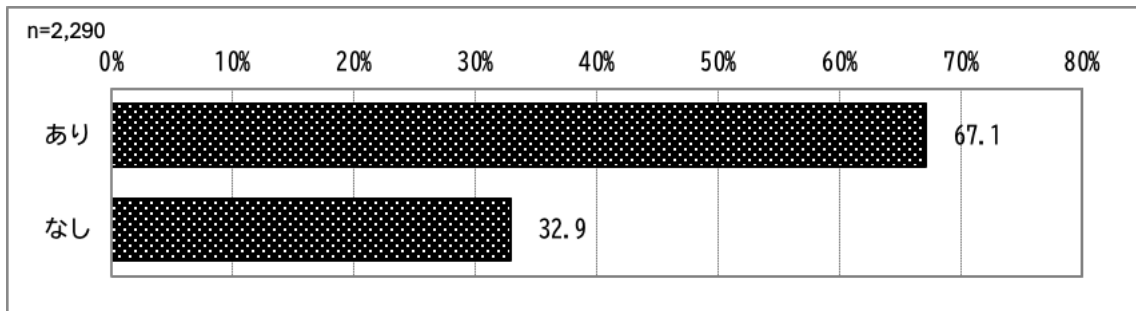


男女別にみると、「男性」、「女性」で「75歳以上」が最も多くなっています。



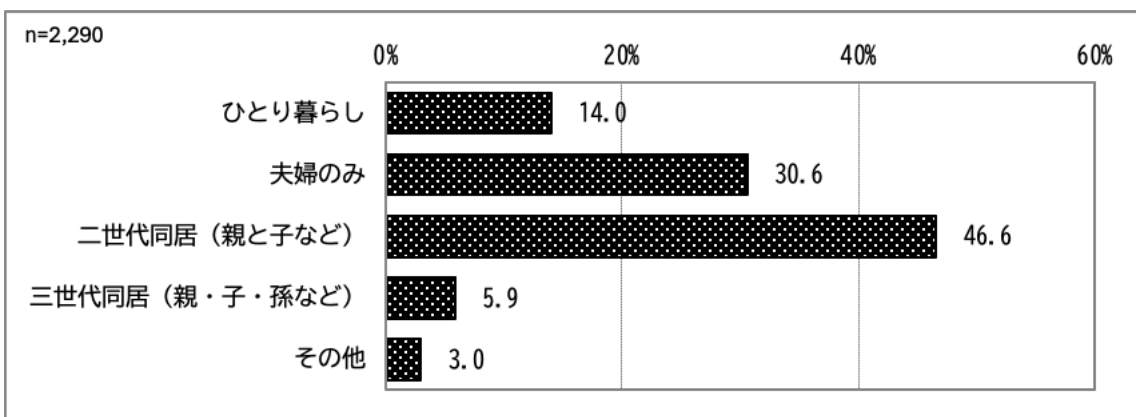
### (3) 配偶者の有無

「あり」が67.1%、「なし」が32.9%となっています。



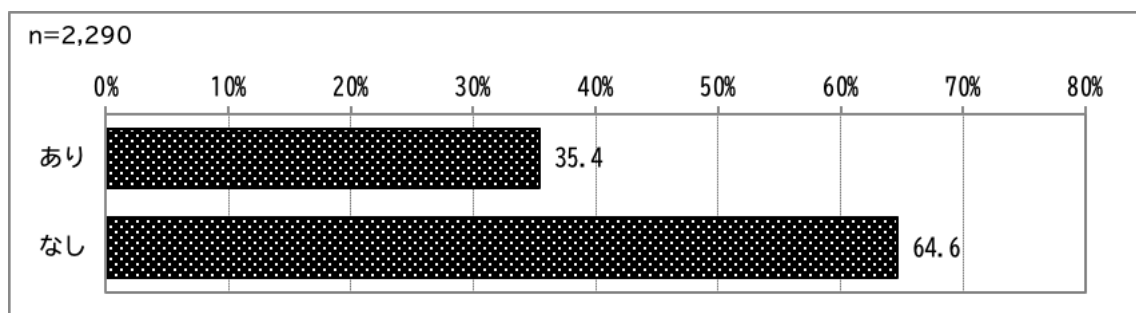
### (4) 世帯構成

「二世世代同居(親と子など)」が46.6%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が30.6%、「ひとり暮らし」が14.0%となっています。

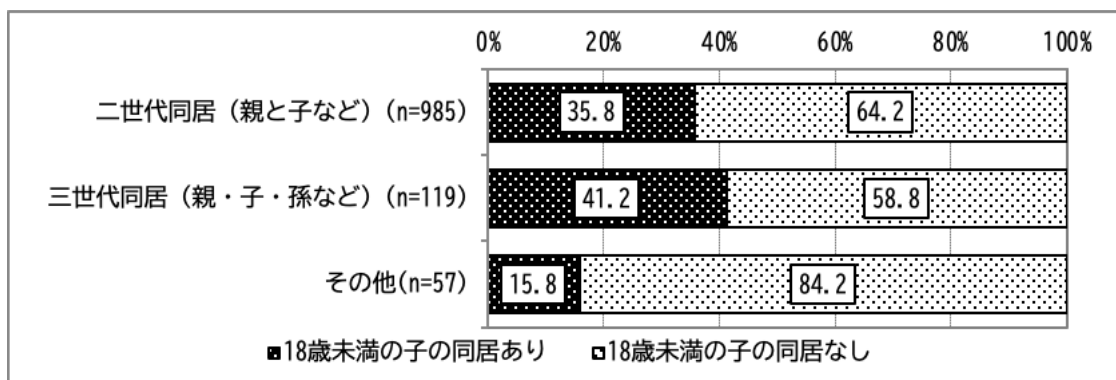


### (5) 18歳未満の子の同居

18歳未満の子が同居する世帯は全体の35.4%となっています。

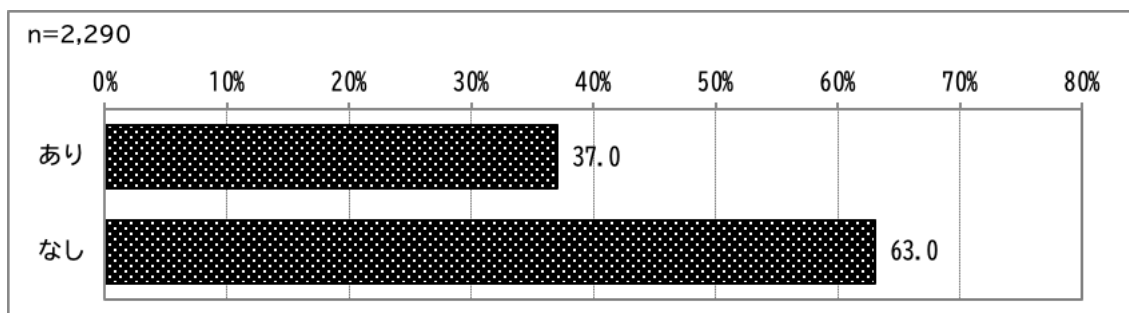


世帯構成別にみると、「二世世代同居」世帯で35.8%、「三世世代同居」で41.2%となっています。

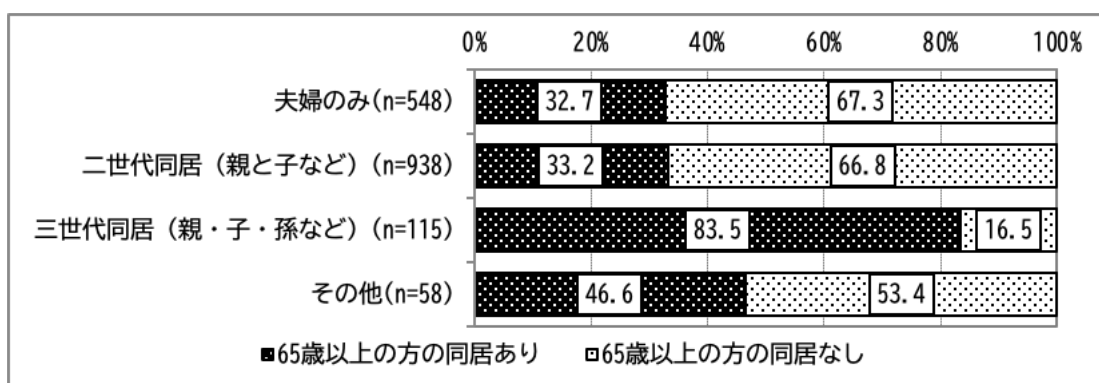


## (6)65歳以上の方の同居

65歳以上の高齢者の方が同居する世帯は全体の37.0%となっています。



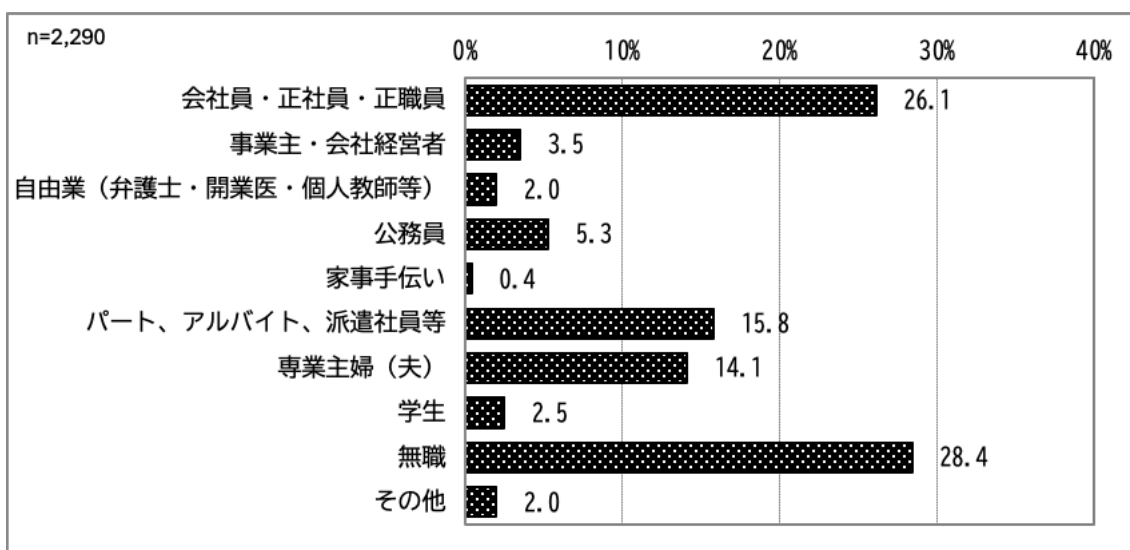
世帯構成別に見ると、「三世代同居」が83.5%と最も多く、次いで「二世帯同居」が33.2%となっています。



## (7)職業

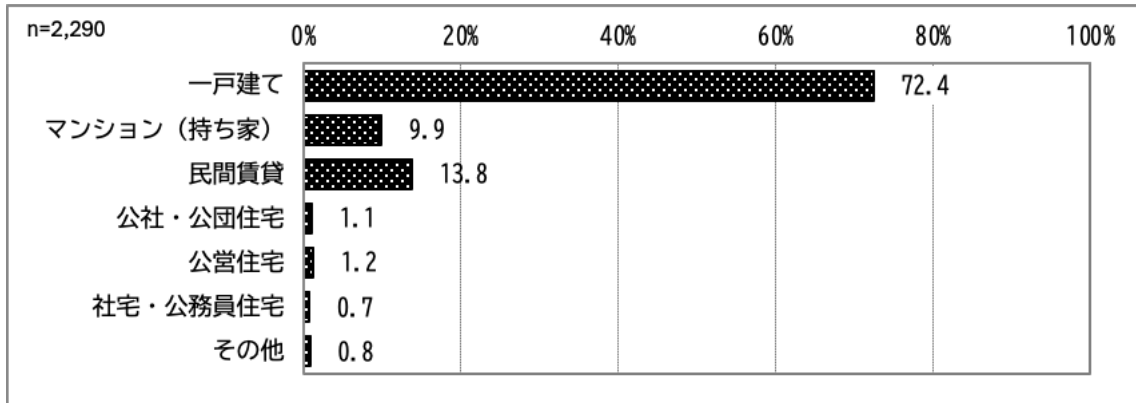
「無職」が28.4%と最も多く、次いで「会社員・正社員・正職員」が26.1%、「パート、アルバイト、派遣社員等」が15.8%となっています。

なお、「無職」が最も多い理由として、回答者の40%以上が高齢者(65歳以上)であることが要因と推測されます。



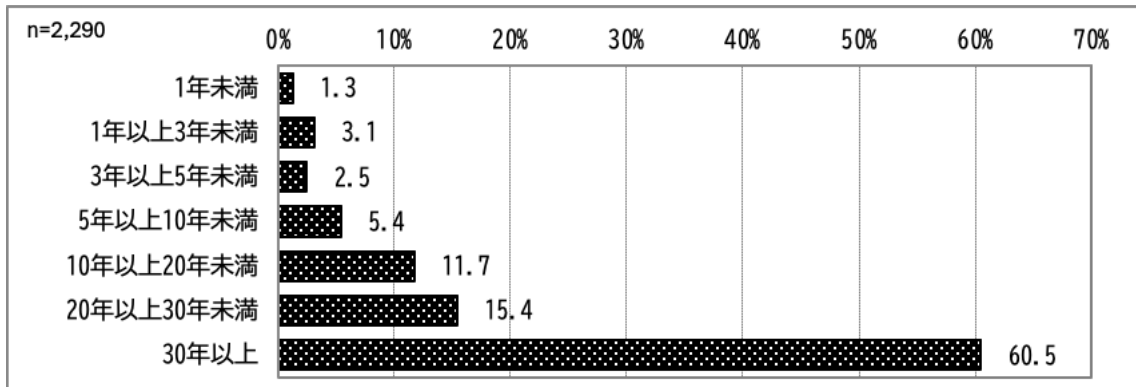
### (8)住居の形態

「一戸建て」が72.4%と最も多く、次いで「民間賃貸」が13.8%、「マンション(持ち家)」が9.9%となっています。



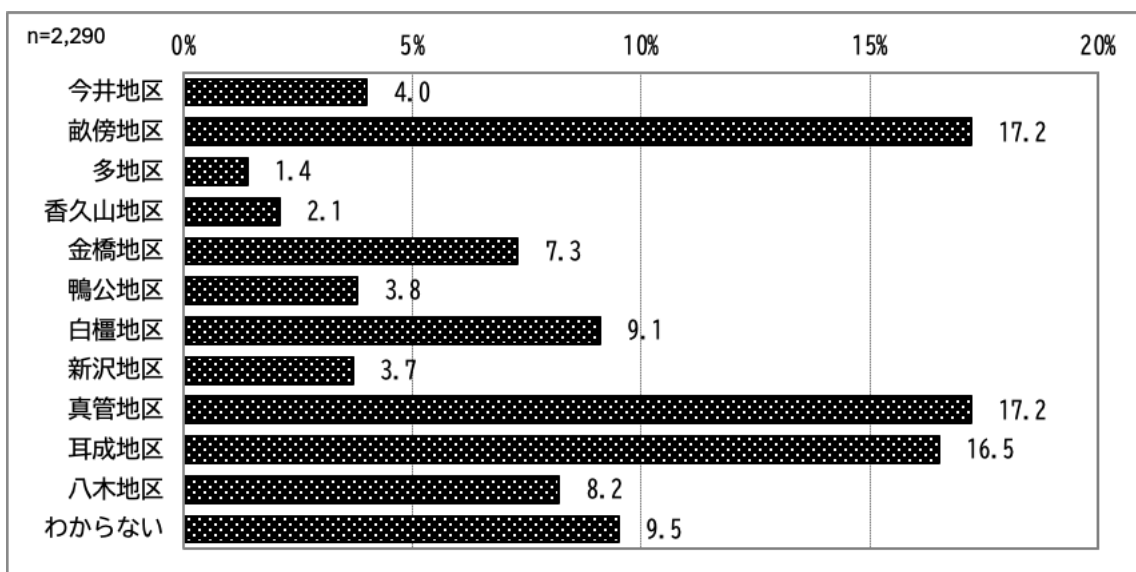
### (9)居住年数

「30年以上」が60.5%と最も多く、次いで「20年以上30年未満」が15.4%、「10年以上20年未満」が11.7%となっています。

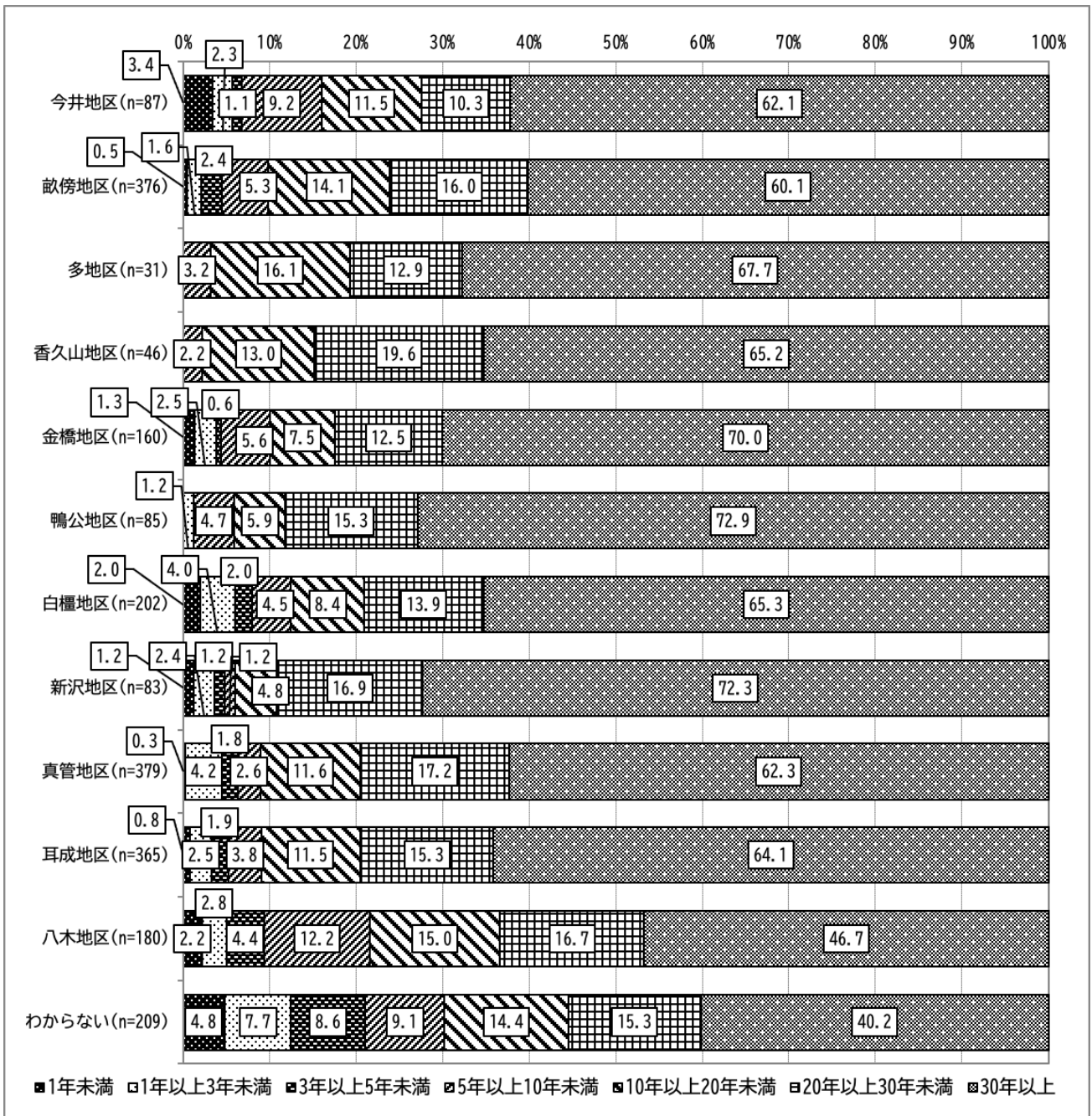


### (10)居住地区

「畝傍地区」、「真菅地区」が17.2%とも最も多く、次いで「耳成地区」が16.5%、「白檀地区」が9.1%となっています。

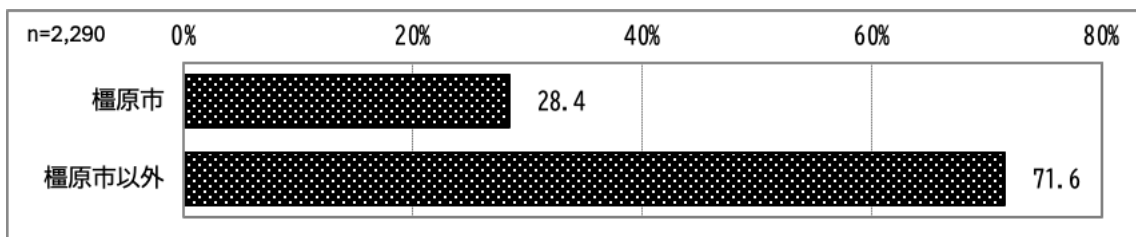


居住地区別に居住年数をみると、すべての地区で「30年以上」が最も多くなっています。



### (11) 出生地

「榿原市」が28.4%、「榿原市以外」が71.6%となっています。



## 2. 檀原市のイメージ・住みやすさについて

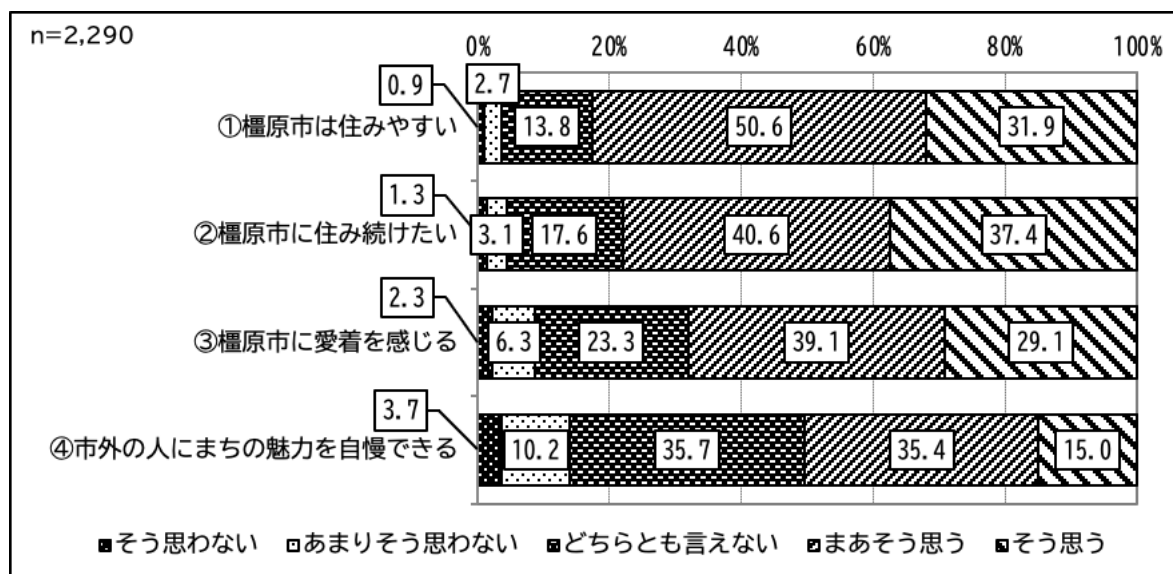
### (1) 檀原市の住みやすさなどについて

「①檀原市は住みやすい」について、『そう思う』(「そう思う」「まあそう思う」の合計)が82.5%、『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計)が3.6%となっています。

「②檀原市に住み続けたい」について、『そう思う』(「そう思う」「まあそう思う」の合計)が78.0%、『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計)が4.4%となっています。

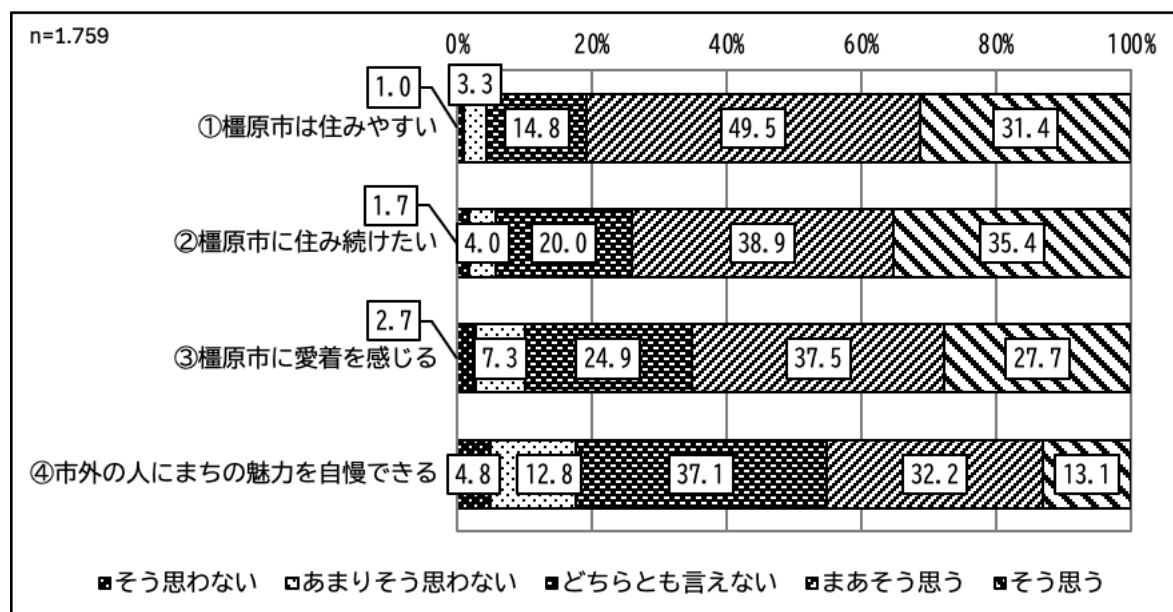
「③檀原市へ愛着を感じる」について、『そう思う』(「そう思う」「まあそう思う」の合計)が68.2%、『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計)が8.6%となっています。

「④市外の人にまちの魅力を自慢できる」について、『そう思う』(「そう思う」「まあそう思う」の合計)が50.4%、『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計)が13.9%となっています。



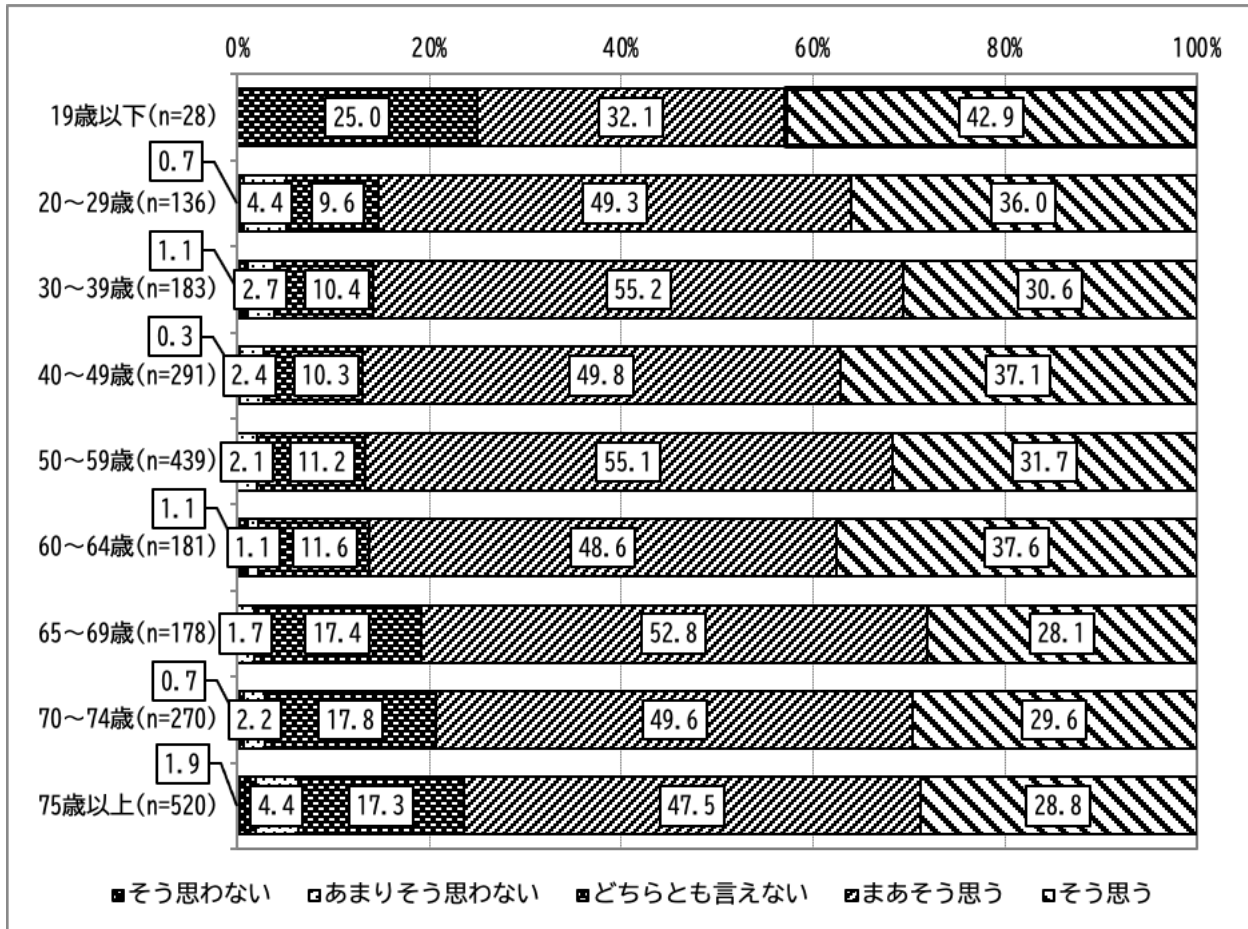
H31年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

【参考:H31年度調査結果 ※不明・無回答を除き再集計】

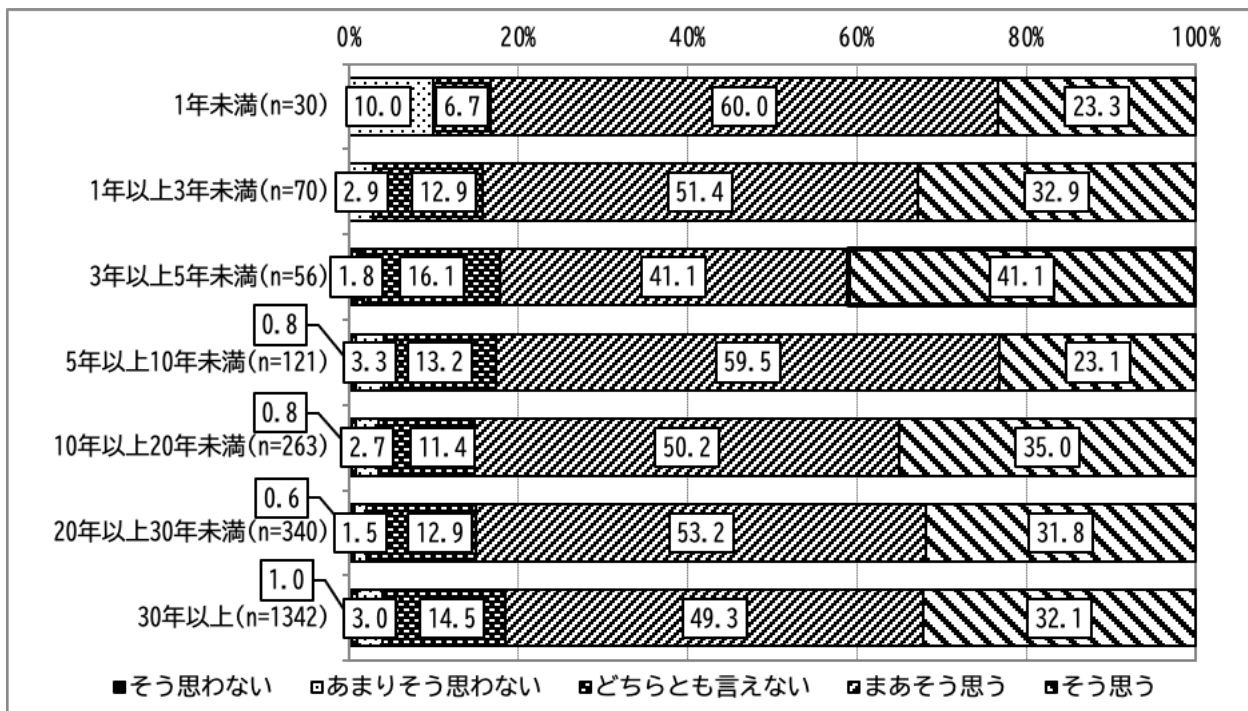


■「①檀原市の住みやすさ」について

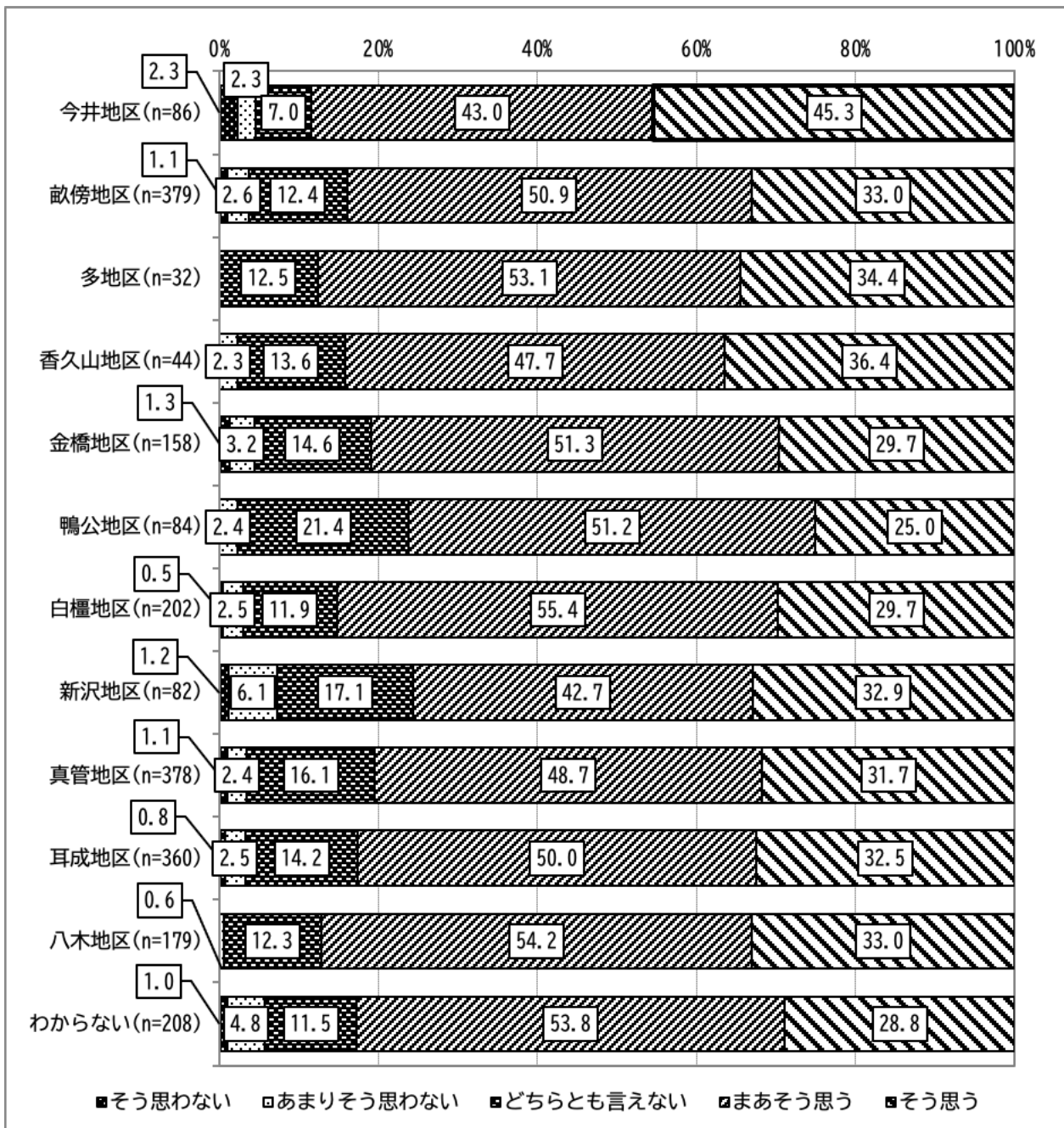
年代別にみると、「20～29歳」、「40～49歳」、「60～64歳」で「そう思う」が多くなっています。



居住年数別にみると、「3年以上5年未満」で「そう思う」が多くなっています。

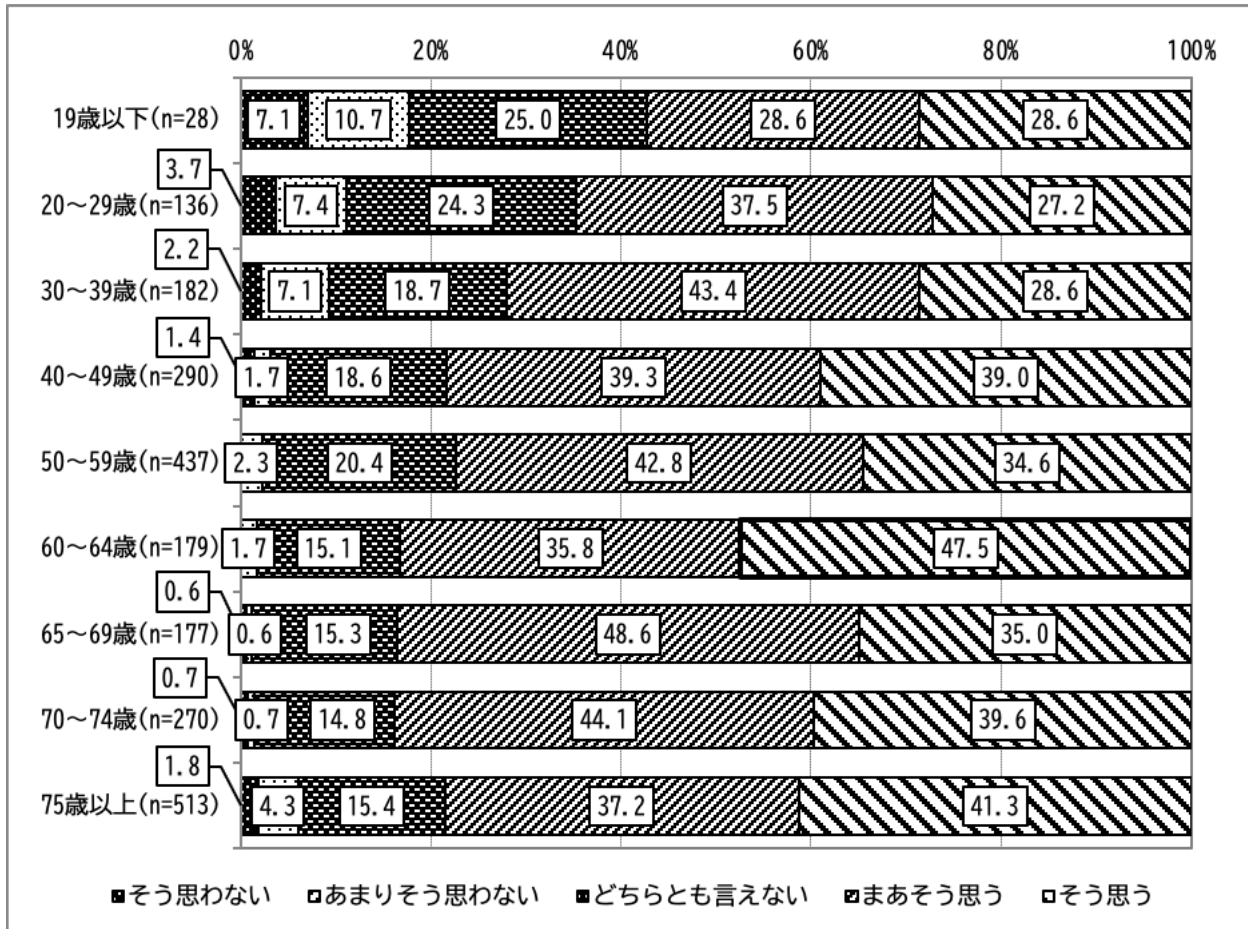


居住地区別にみると、「今井地区」で「そう思う」が多くなっています。

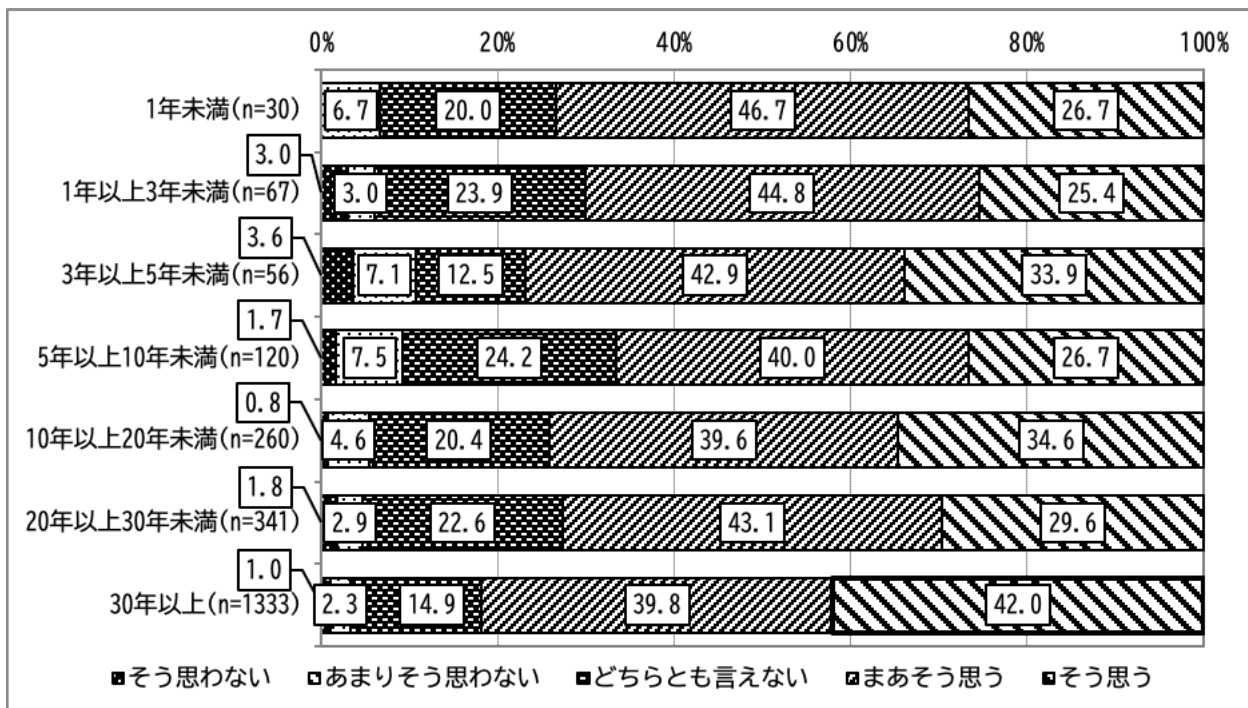


■「②檀原市に住み続けたい」について

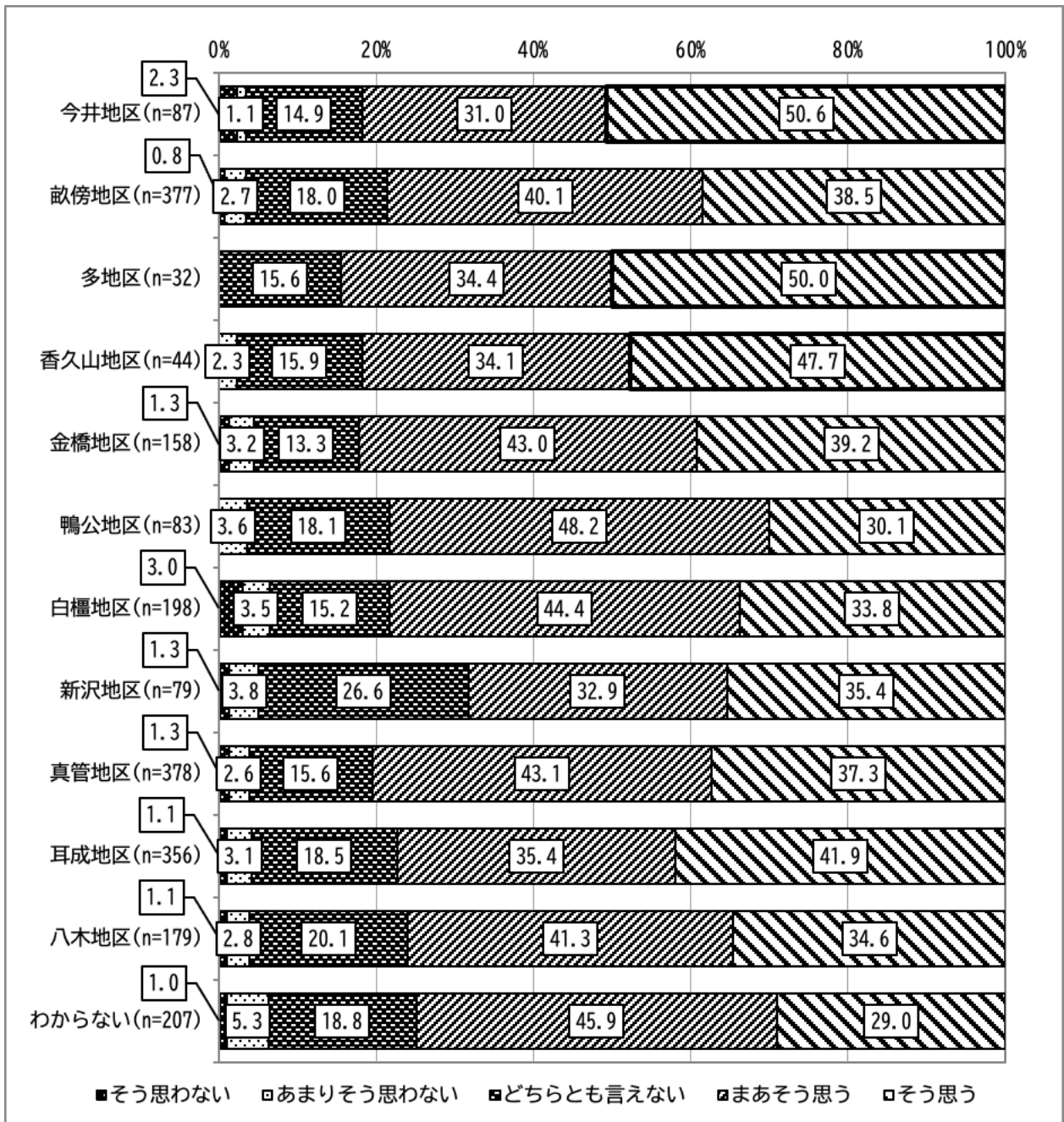
年代別にみると、「60～64歳」で「そう思う」が多くなっています。



居住年数別にみると、「30年以上」で「そう思う」が多くなっています。

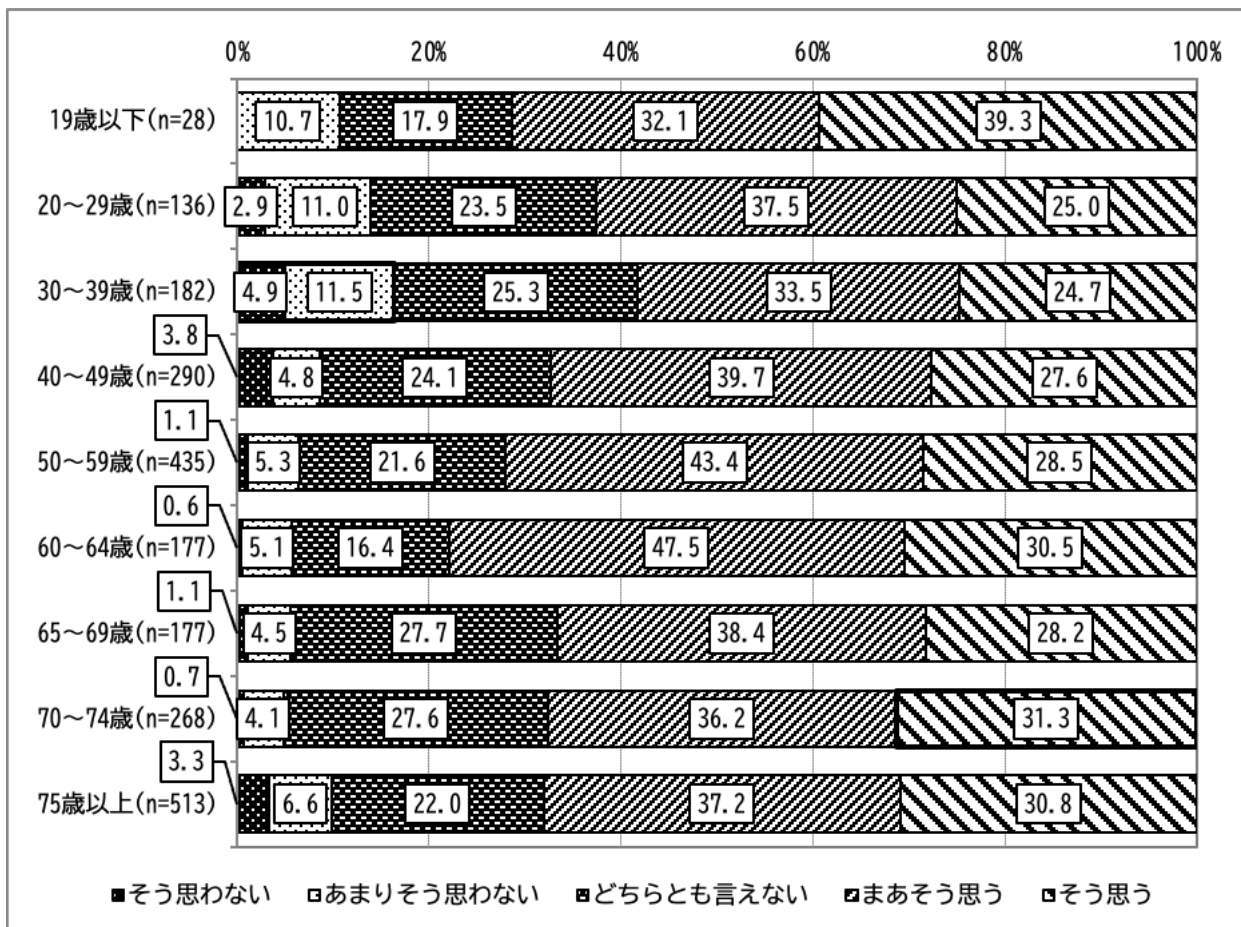


居住地区別にみると、「今井地区」、「多地区」、「香久山地区」で「そう思う」が多くなっています。

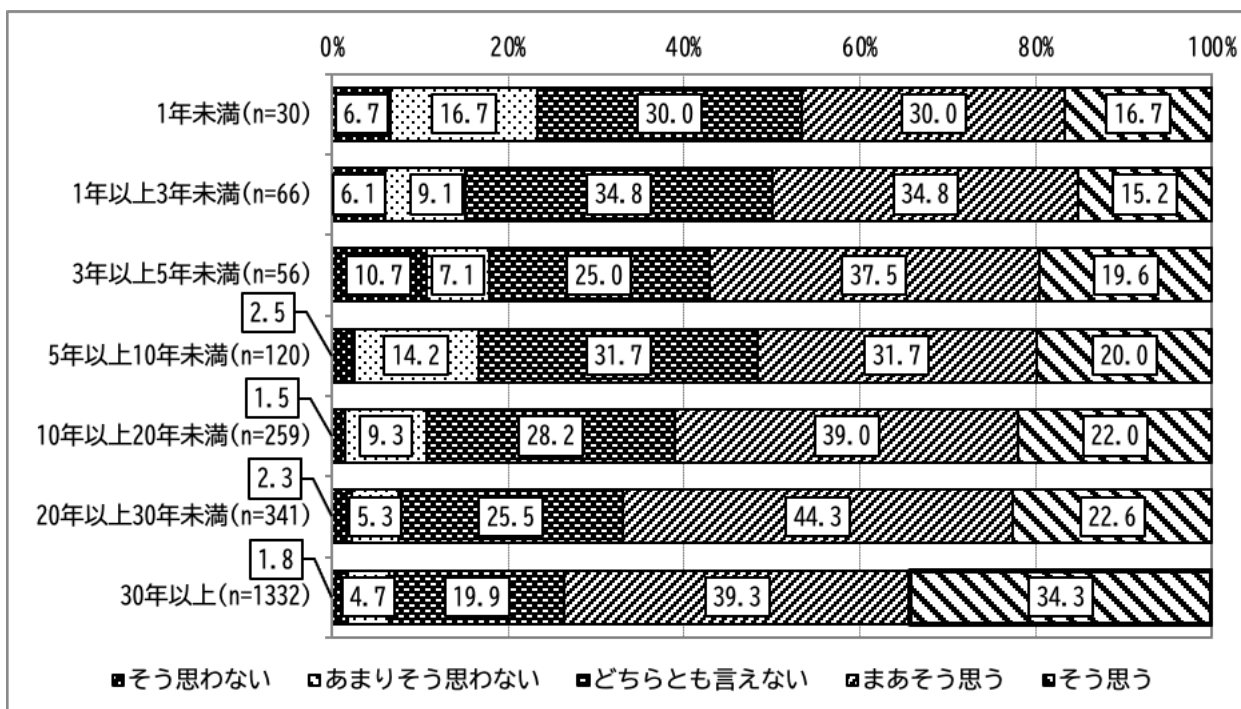


### 「③檀原市に愛着を感じる」について

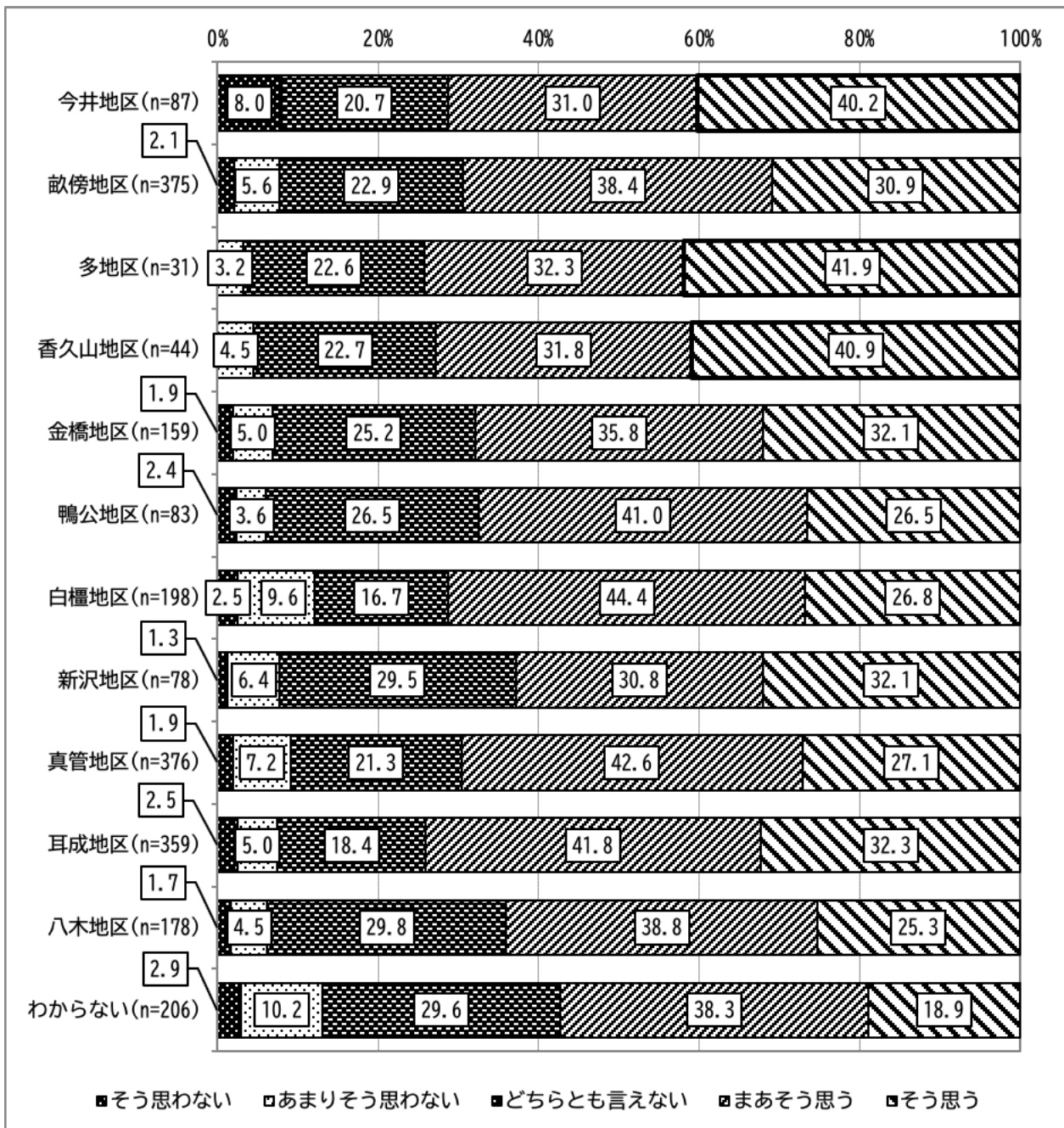
年代別にみると「70～74歳」で「そう思う」が多くなっている一方で、「30～39歳」で「そう思わない」「あまりそう思わない」が多くなっています。



居住年数別にみると、「30年以上」で「そう思う」が多くなっています。

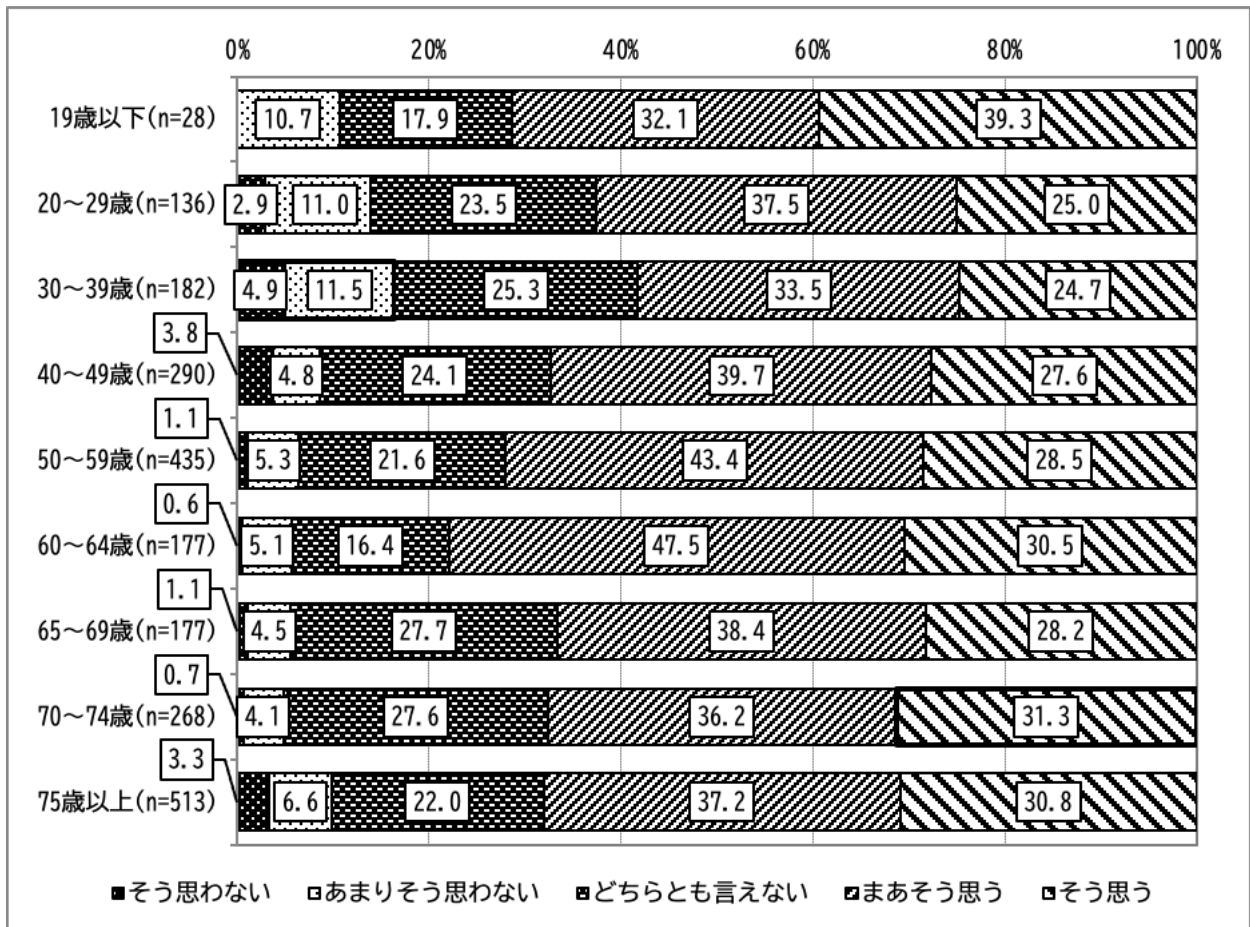


居住地区別にみると、「今井地区」、「多地区」、「香久山地区」で「そう思う」が多くなっています。

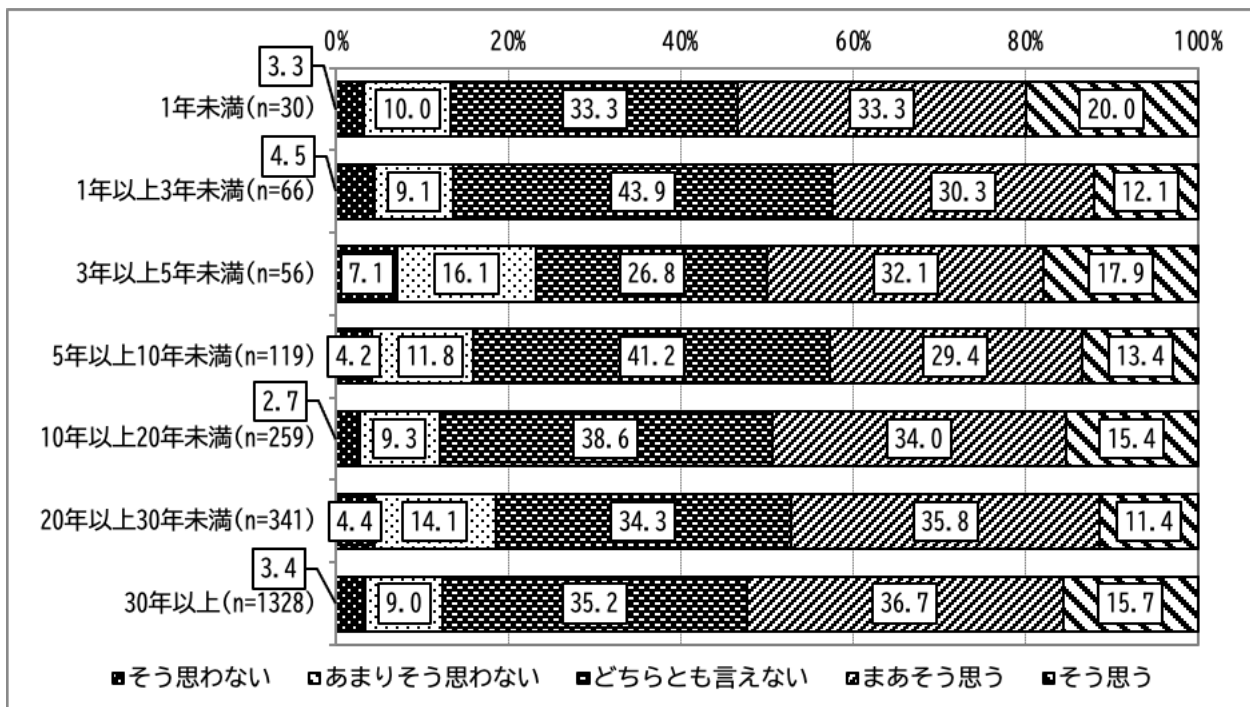


■「④市外の人にまちの魅力を自慢できる」について

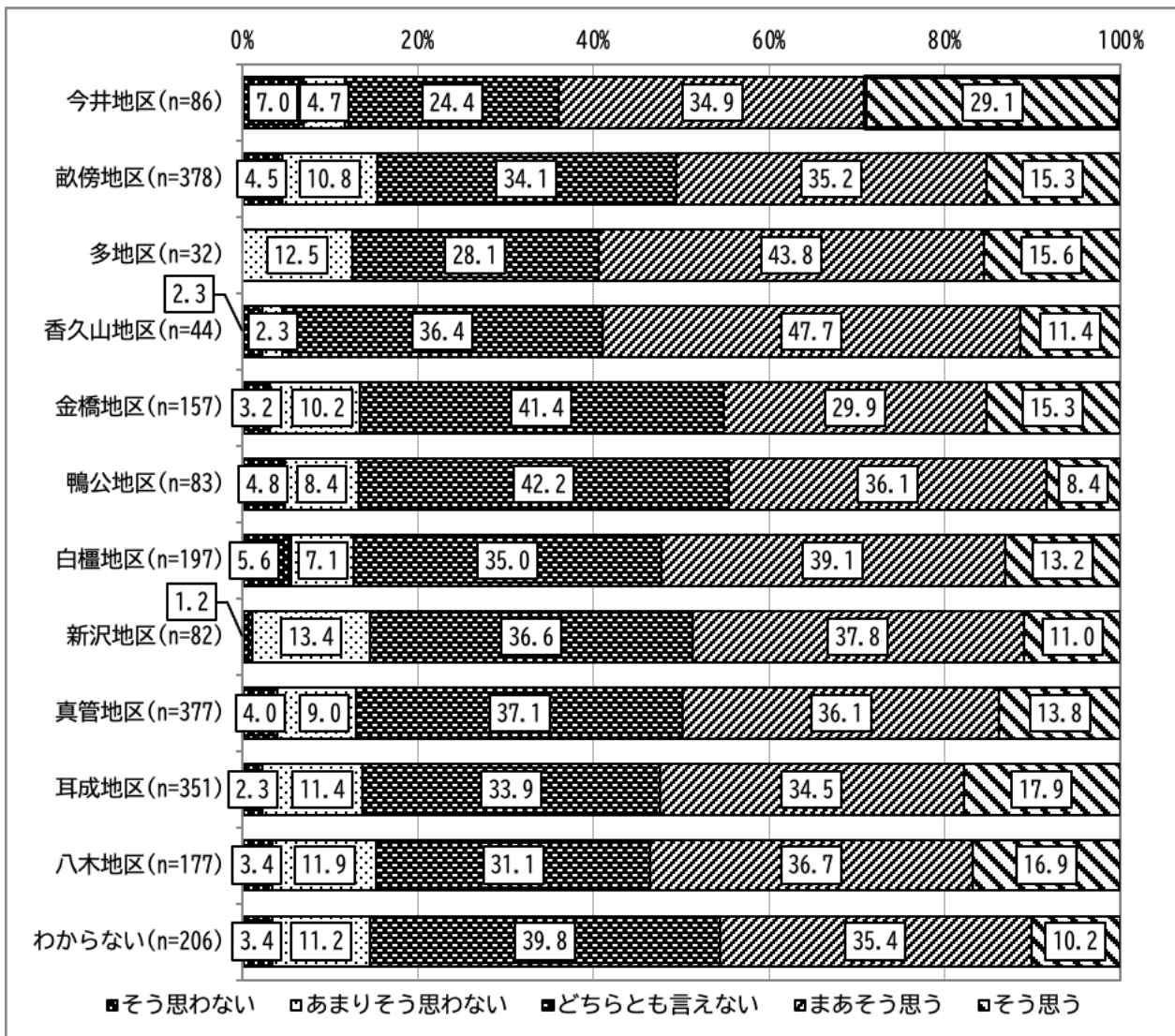
年代別にみると、「20～29歳」、「30～39歳」で「そう思わない」「あまりそう思わない」が多くなっています。



居住年数別にみると、「3年以上5年未満」で「そう思わない」「あまりそう思わない」が多くなっています。



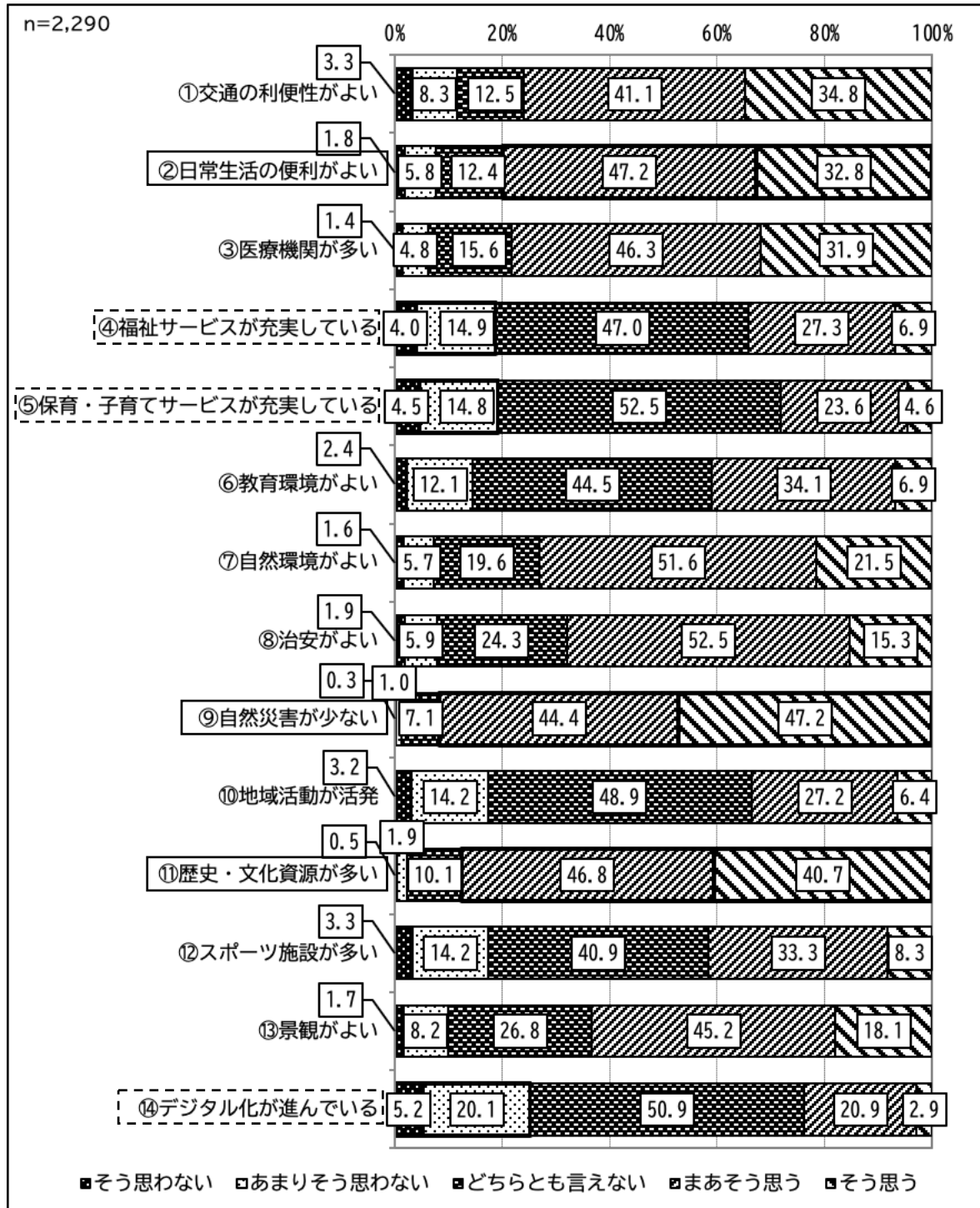
居住地区別にみると、「今井地区」で「そう思う」が多くなっています。



## (2) 檀原市のイメージについて

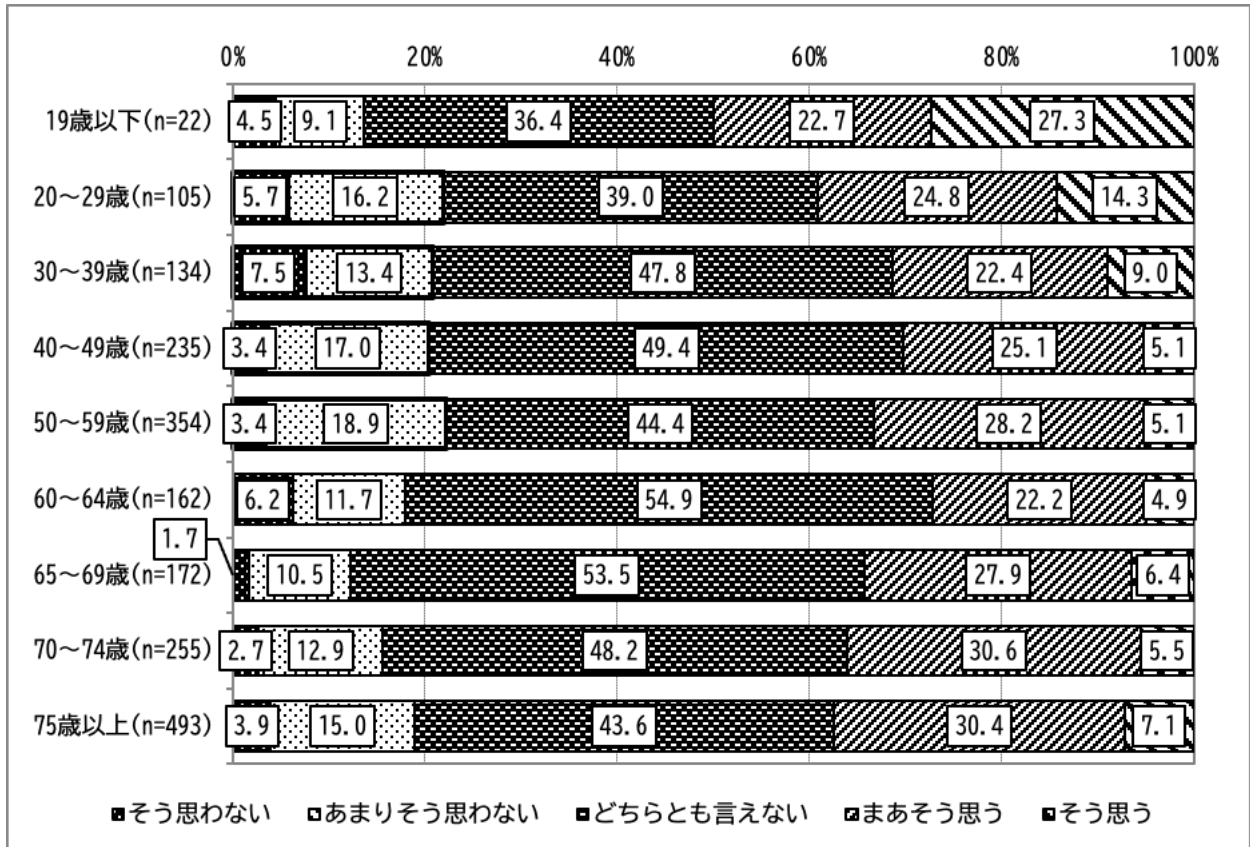
『そう思う』(「そう思う」「まあそう思う」の合計)をみると、「⑨自然災害が少ない」が91.6%と最も多く、次いで「⑩歴史・文化資源が多い」が87.5%、「②日常生活の便利がよい」が80.0%となっています。

『そう思わない』(「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計)をみると、「⑭デジタル化が進んでいる」が25.3%と最も多く、次いで「⑤保育・子育てサービスが充実している」が19.3%、「④福祉サービスが充実している」が18.9%となっています。

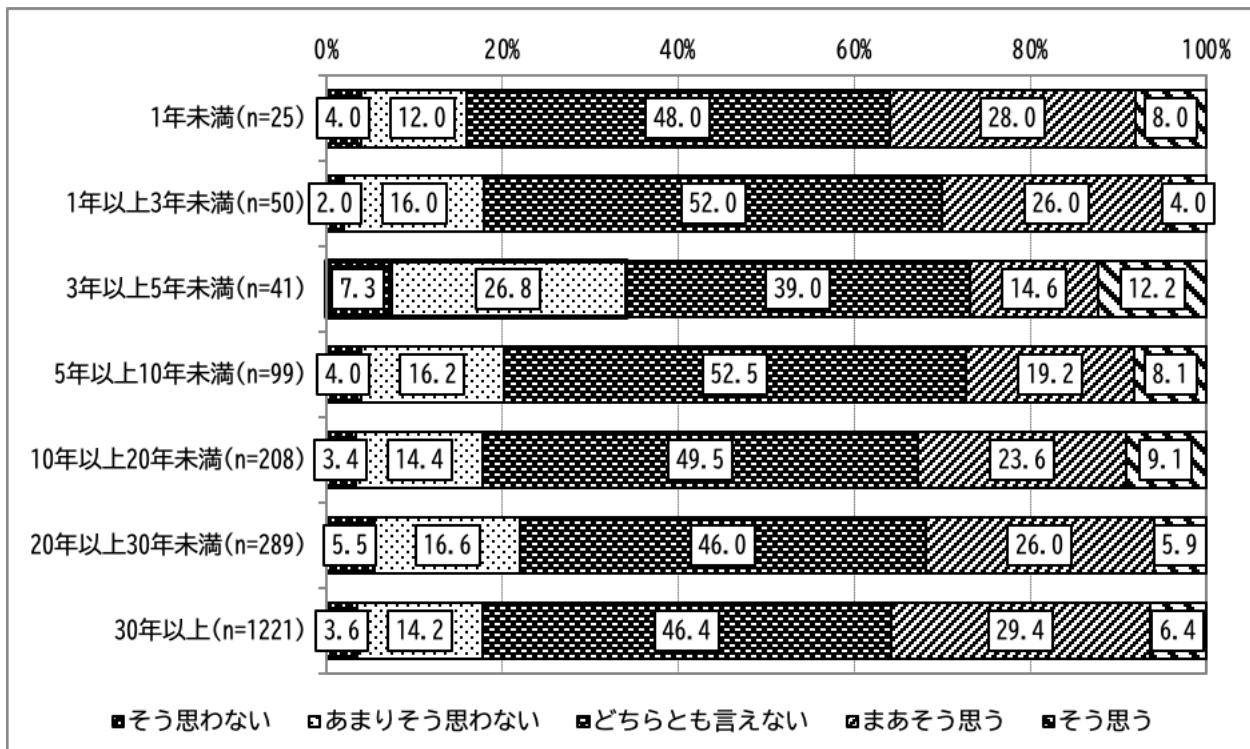


#### ■「④福祉サービスが充実している」について

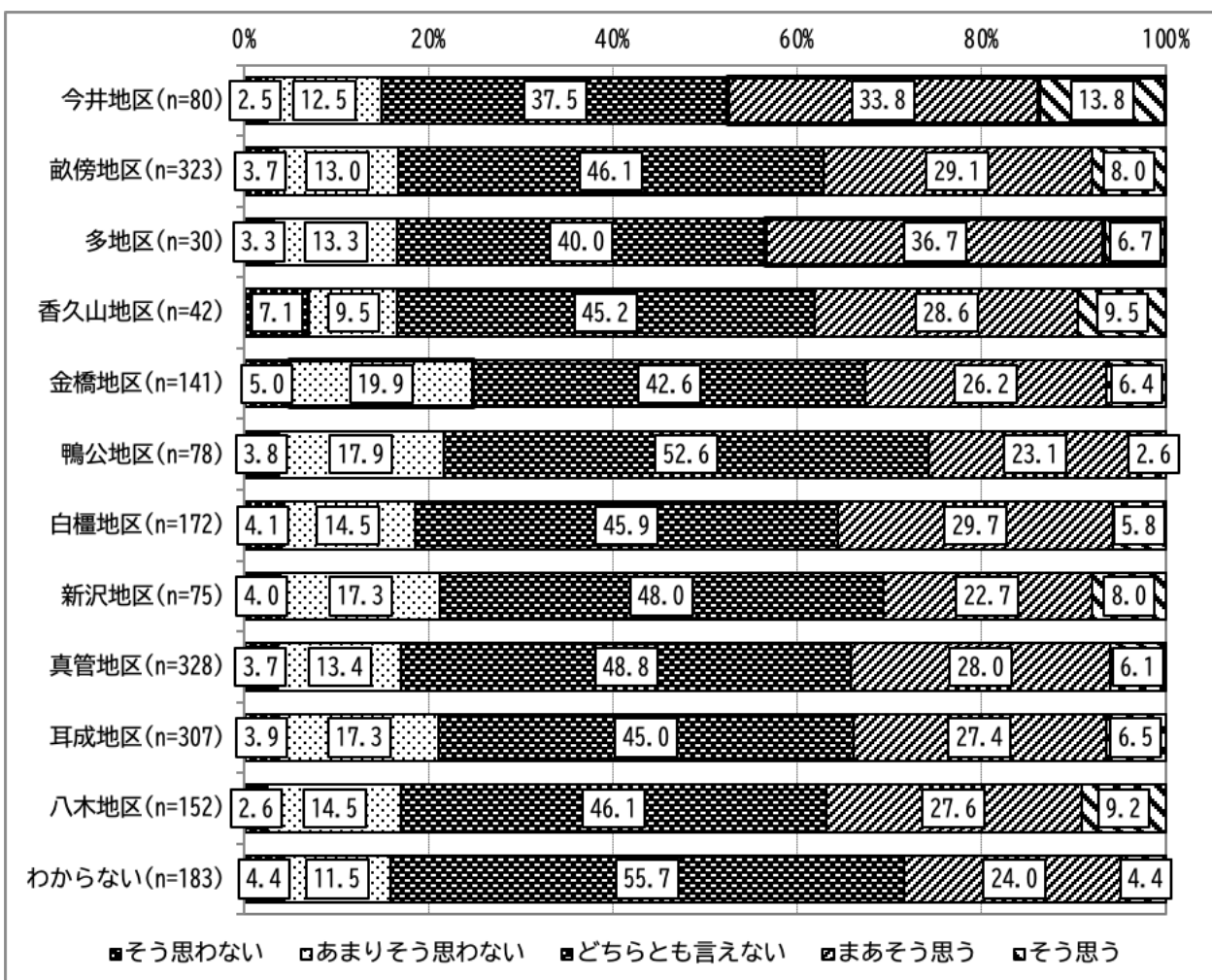
年代別にみると、「20～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」、「50～59歳」において、「そう思わない」「あまりそう思わない」が多くなっています。



居住年数別にみると、「そう思う」について大きな差はみられませんが、「そう思わない」「あまりそう思わない」について、「3年以上5年未満」で多くなっています。

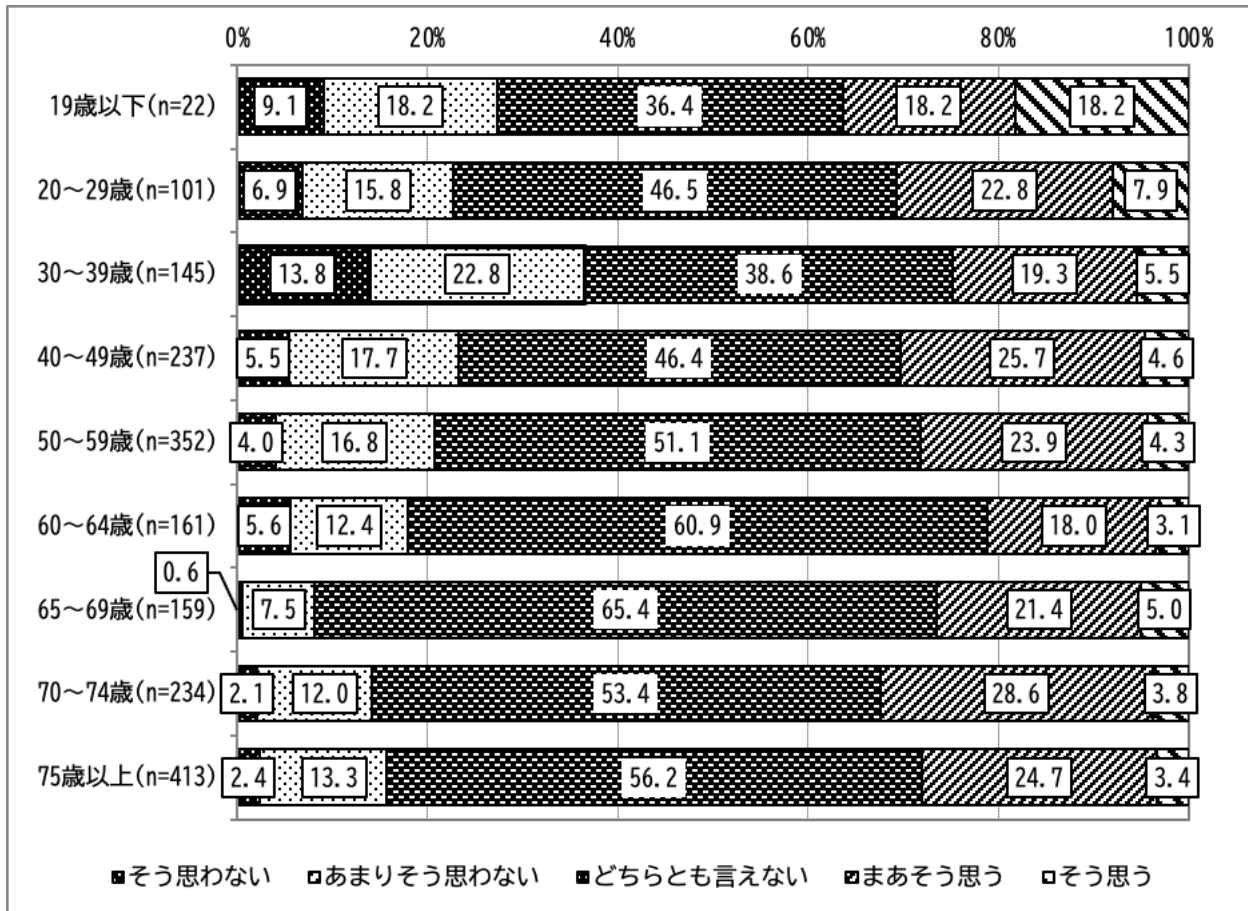


居住地区別にみると、「今井地区」、「多地区」で「そう思う」「まあそう思う」が多くなっています。一方、「金橋地区」では「そう思わない」「あまりそう思わない」が多くなっています。

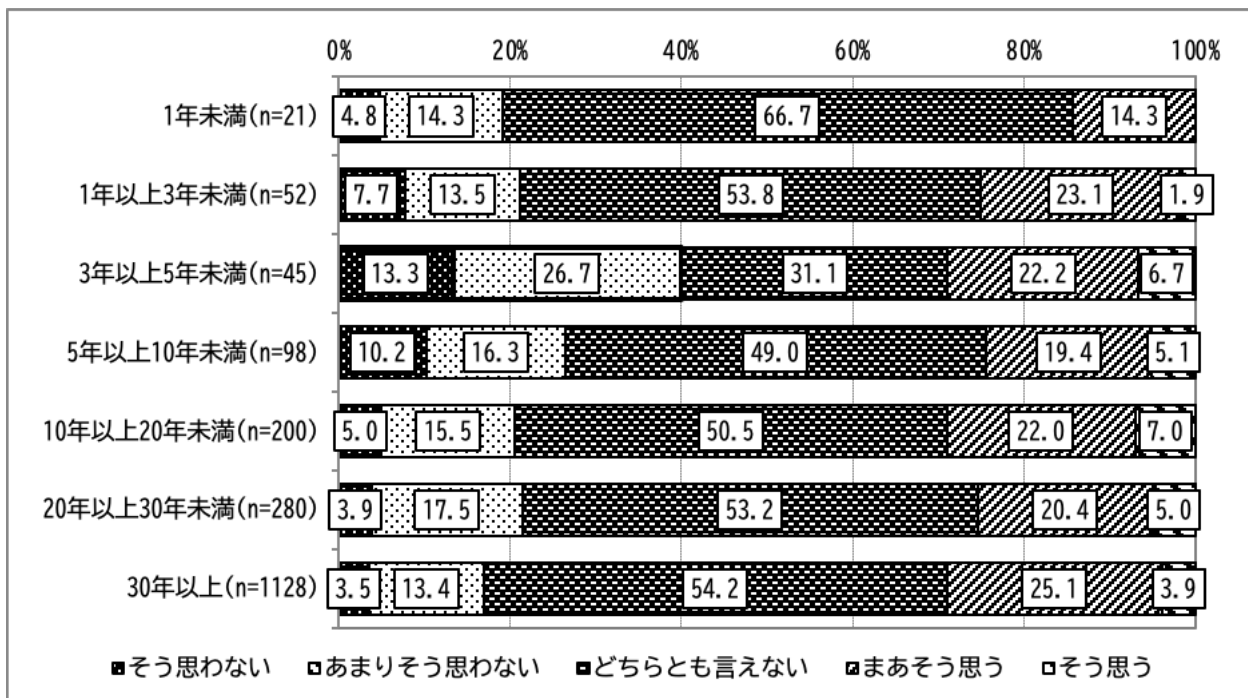


■「⑤保育・子育てサービスが充実している」について

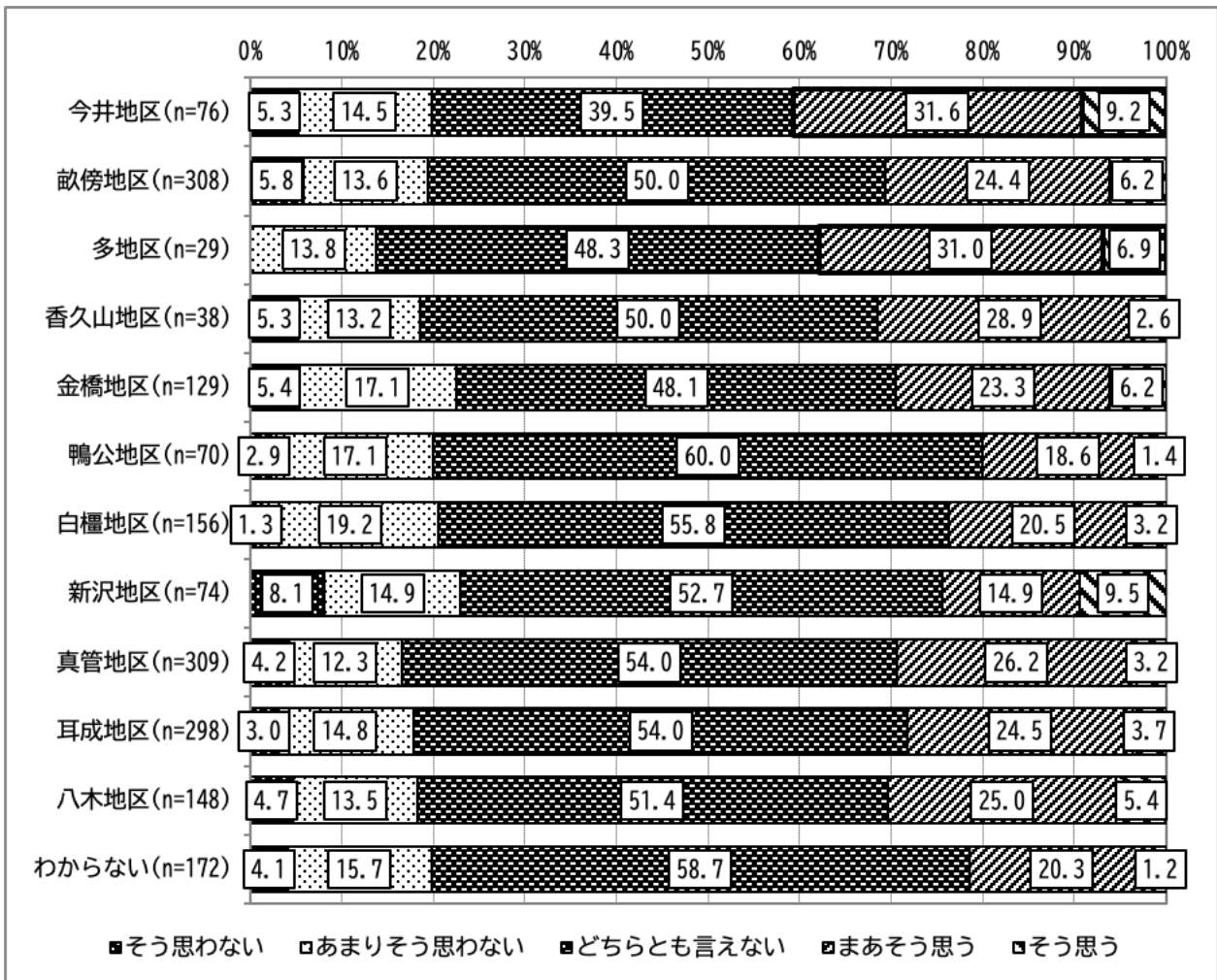
年代別にみると、「30～39歳」で「そう思わない」「あまりそう思わない」が多くなっています。



居住年数別にみると、「そう思わない」「あまりそう思わない」について、「3年以上5年未満」で多くなっています。

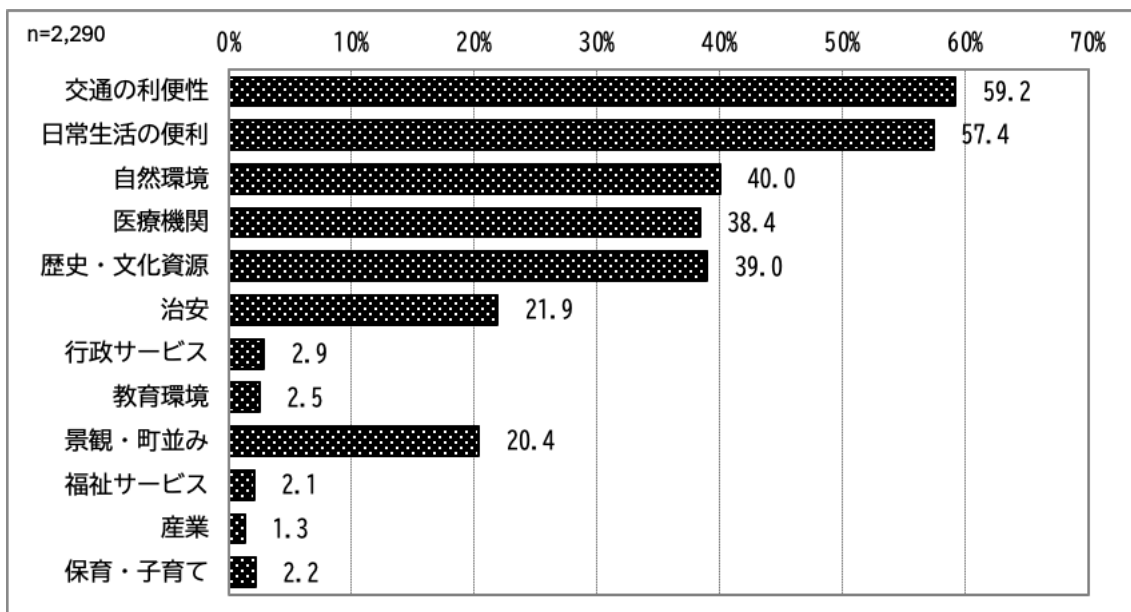


居住地区別にみると、「今井地区」、「多地区」で「そう思う」「まあそう思う」が多くなっています。



### (3) 檀原市のいいところについて

「交通の利便性」が59.2%と最も多く、次いで「日常生活の便利」が57.4%、「自然環境」が40.0%となっています。



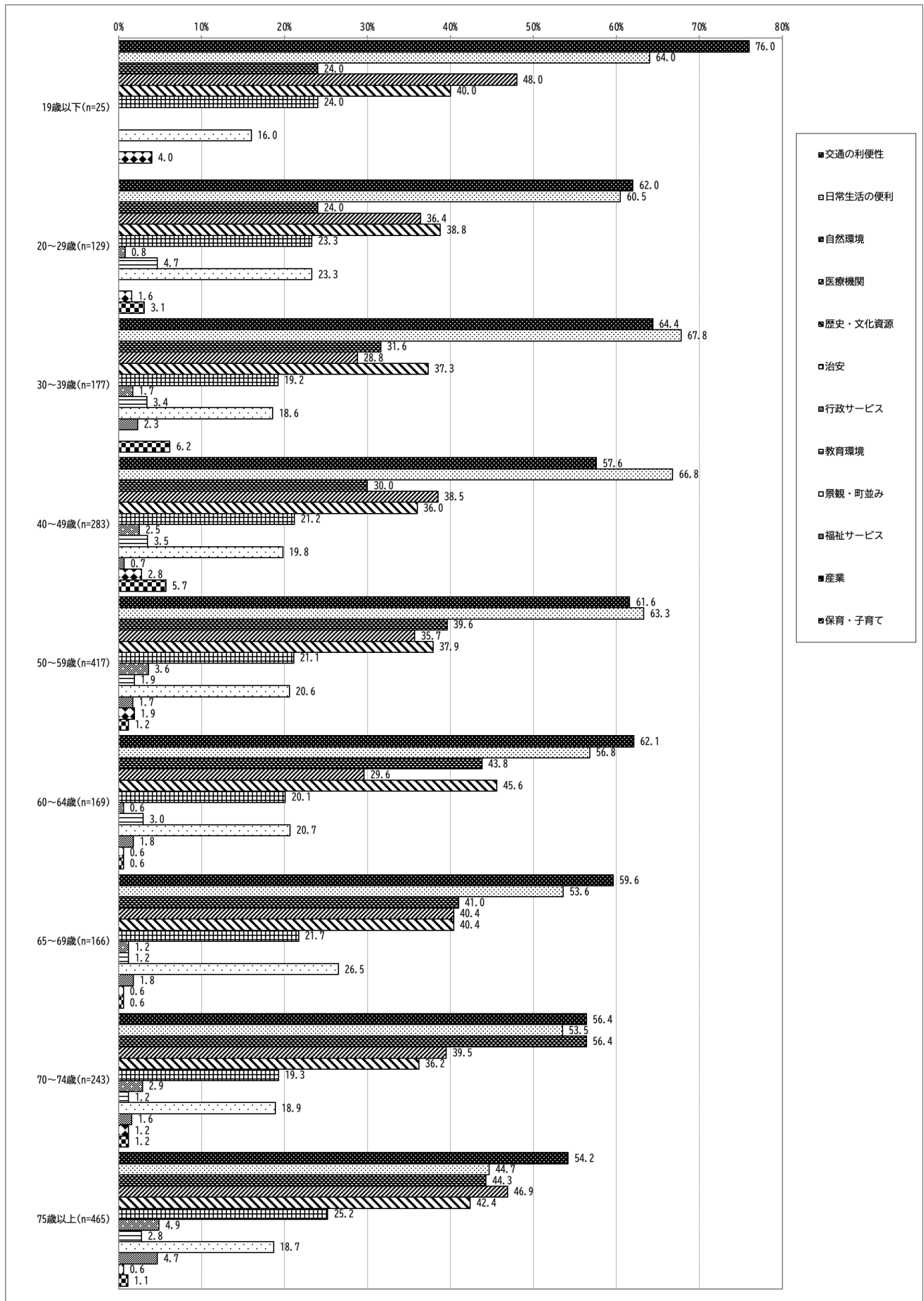
(その他の意見)

歴史・文化資源が豊富(11件)、ゴミ収集や図書館などの行政サービスがよい(10件)、交通の利便性がよく他府県へのアクセスがしやすい(9件) など

年代別の上位5位の「いいところ」は以下のとおりです。

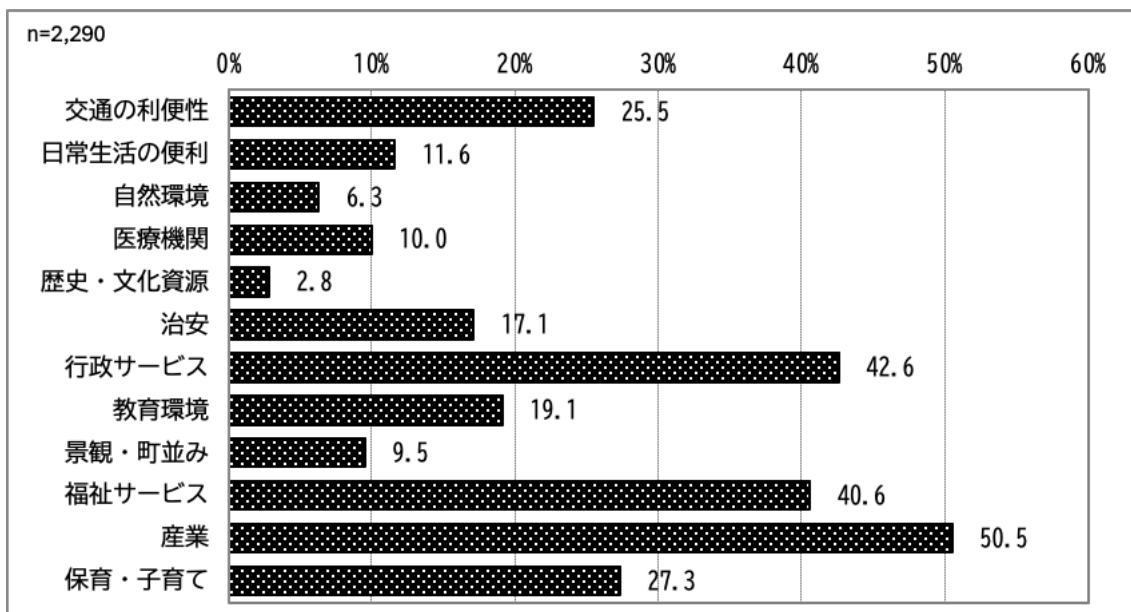
	19歳以下 (n=25)	20~29歳 (n=129)	30~39歳 (n=177)	40~49歳 (n=283)	50~59歳 (n=417)	60~64歳 (n=169)	65~69歳 (n=166)	70~74歳 (n=243)	75歳以上 (n=465)
1位	交通の利便性 (76.0%)	交通の利便性 (62.0%)	日常生活の便利 (67.8%)	日常生活の便利 (66.8%)	日常生活の便利 (63.3%)	交通の利便性 (62.1%)	交通の利便性 (59.6%)	交通の利便性 (56.4%)	交通の利便性 (54.2%)
2位	日常生活の便利 (64.0%)	日常生活の便利 (60.5%)	交通の利便性 (64.4%)	交通の利便性 (57.6%)	交通の利便性 (61.6%)	日常生活の便利 (56.8%)	日常生活の便利 (53.6%)	自然環境 (56.4%)	医療機関 (46.9%)
3位	医療機関 (48.0%)	歴史・文化資源 (38.8%)	歴歴史・文化資源 (37.3%)	医療機関 (38.5%)	自然環境 (39.6%)	歴史・文化資源 (45.6%)	自然環境 (41.0%)	日常生活の便利 (53.5%)	日常生活の便利 (44.7%)
4位	歴史・文化資源 (40.0%)	医療機関 (36.4%)	自然環境 (31.6%)	歴史・文化資源 (36.0%)	歴史・文化資源 (37.9%)	自然環境 (43.8%)	医療機関 (40.4%)	医療機関 (39.5%)	自然環境 (44.3%)
5位	自然環境／治安 (24.0%)	自然環境 (24.0%)	医療機関 (28.8%)	自然環境 (30.0%)	医療機関 (35.7%)	医療機関 (29.6%)	歴史・文化資源 (40.4%)	歴史・文化資源 (36.2%)	歴史・文化資源 (42.4%)

年代別にみると、「60～64歳」で「歴史・文化資源」、「70～74歳」で「自然環境」が多くなっています。



#### (4) 檀原市のわるいところ

「産業」が50.5%と最も多く、次いで「行政サービス」が42.6%、「福祉サービス」が40.6%となっています。



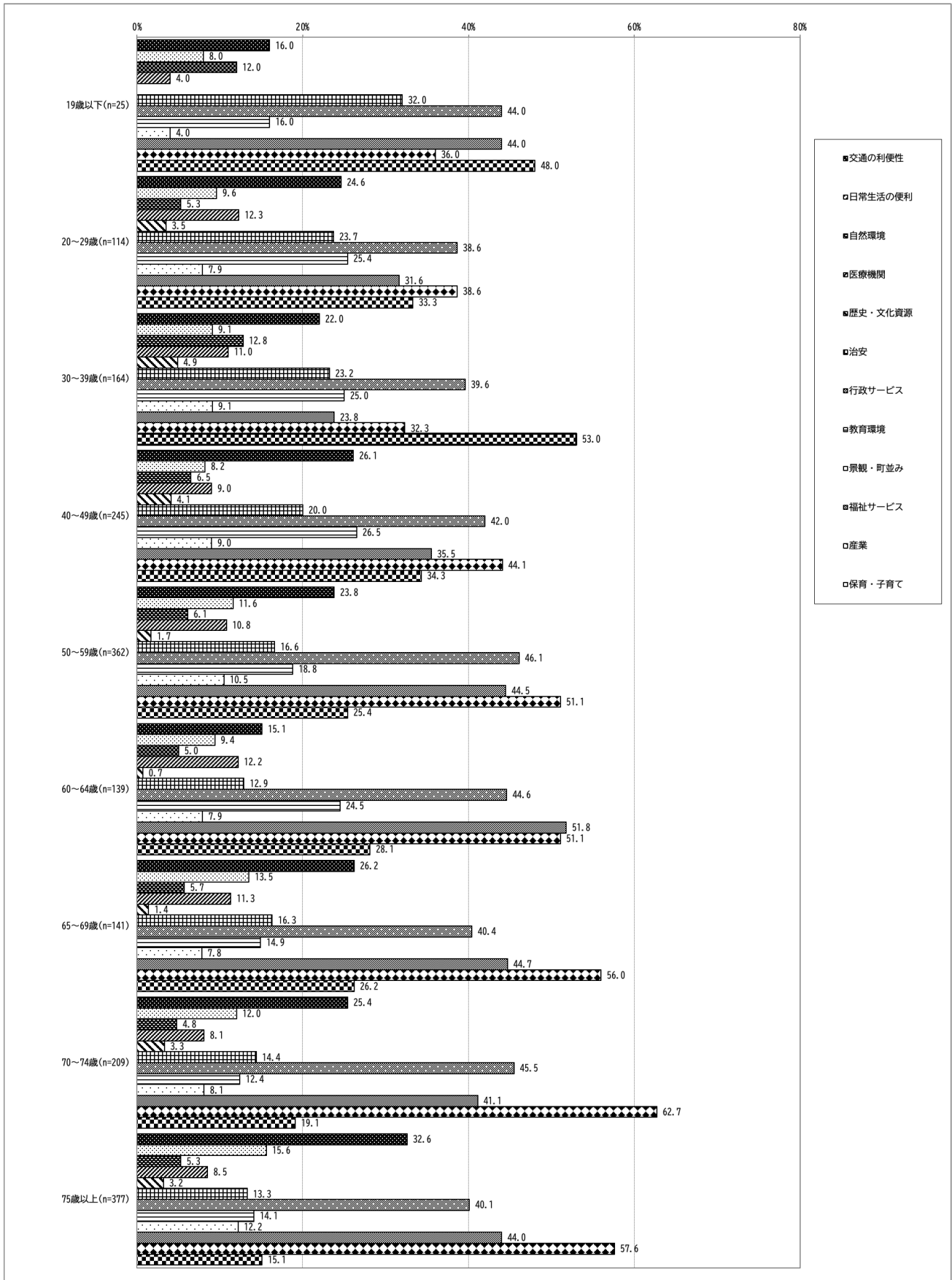
(その他の意見)

歩道や道路の整備が不十分(28件)、渋滞がひどい(27件) 保育園が少ない、子どもの遊び場が少ないなどの子育て関連(25件)、など

年代別の上位5位の「わるいところ」は以下のとおりです。

	19歳以下 (n=25)	20~29歳 (n=114)	30~39歳 (n=164)	40~49歳 (n=245)	50~59歳 (n=362)	60~64歳 (n=139)	65~69歳 (n=141)	70~74歳 (n=209)	75歳以上 (n=377)
1位	保育・子育て (48.0%)	行政サービス (38.6%)	保育・子育て (53.0%)	産業 (44.1%)	産業 (51.1%)	福祉サービス (51.8%)	産業 (56.0%)	産業 (62.7%)	産業 (57.6%)
2位	行政サービス (44.0%)	産業 (38.6%)	行政サービス (39.6%)	行政サービス (42.0%)	行政サービス (46.1%)	産業 (51.1%)	福祉サービス (44.7%)	行政サービス (45.5%)	福祉サービス (44.0%)
3位	福祉サービス (44.0%)	保育・子育て (33.3%)	産業 (32.3%)	福祉サービス (35.5%)	福祉サービス (44.5%)	行政サービス (44.6%)	行政サービス (44.6%)	福祉サービス (41.1%)	行政サービス (40.1%)
4位	産業 (36.0%)	福祉サービス (31.6%)	教育環境 (25.0%)	保育・子育て (34.3%)	保育・子育て (25.4%)	保育・子育て (28.1%)	保育・子育て (26.2%)	交通の利便性 (25.4%)	交通の利便性 (32.6%)
5位	治安 (32.0%)	教育環境 (25.4%)	福祉サービス (23.8%)	教育環境 (26.5%)	交通の利便性 (23.8%)	教育環境 (24.5%)	交通の利便性 (26.2%)	保育・子育て (19.1%)	日常生活の便利 (15.6%)

年代別にみると、「30～39歳」で「保育・子育て」が多くなっています。



### 3.市が目指してきた「まちの姿」について

「橿原市第4次総合計画」において、基本計画では27の施策ごとに「目指す姿」、総合戦略では4つの基本目標に対する「重点施策」を設定しています。その各項目について、【現状の達成状況】と【今後の重要性】を5段階で把握しました。

#### <前期基本計画>

##### ●Ⅰ みんなが活躍し、個性輝くまち

施策	目指してきたまちの姿
①保育・幼児教育	子どもが自分の個性や能力を伸ばし、夢と希望を描いている
②学校教育	子どもが確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身をバランス良く身につけている
③子育て・子育て	子育て世代が安心して出産や子育てをすることができ、いきいきと輝いている
④生涯学習・社会教育	市民がいつでもどこでも学びたいことを学ぶことができ、学習の成果を活かしながら生きがいのある人生を過ごしている
⑤科学・文化芸術	科学や文化芸術に親しむ機会が多くあり、市民が豊かな知性と心を育てている
⑥スポーツ	市民がさまざまなかたちでスポーツに親しみ、健康で豊かに暮らしている

##### ●Ⅱ みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち

施策	目指してきたまちの姿
⑦健康・医療	市民が健康的な生活習慣を身につけ、自発的に健康づくりに取り組んでいる
⑧地域福祉	地域の誰もが主体となって支え合いながら、健やかに安心して心豊かに暮らしている
⑨高齢福祉	いざというときの安心感があり、高齢者が住み慣れた地域で、心豊かな生活をしている
⑩障がい福祉	障がいのある人もない人も、誰もがお互いに尊重し支えあいながら、いきいきと暮らしている
⑪市民協働	それぞれの役割と責任のもと、市民が自らの意志で地域の活動に主体的に参加・参画し、まちづくりを行っている
⑫人権	すべての人の人権が尊重される差別のない社会を築く意識を市民の誰もが持っている

##### ●Ⅲ みんなが安全に、快適な環境で暮らせるまち

施策	目指してきたまちの姿
⑬防災	市民、地域、行政が本市の災害リスクを知り、それぞれの立場で生命・身体・財産を守る備えができています
⑭防犯	市民が防犯意識・消費者意識を自ら高め、安全で安心な日常生活を送っている
⑮交通	自分に合った手段で、誰もが快適に市内を移動することができています
⑯道路・橋梁・河川	安全な道路環境が整っており、誰もが安心して通行している
⑰住環境・建築	多様なニーズに応えられる住宅が供給され、市民が良好な住環境で暮らしている
⑱地球環境	市民が環境保全と資源循環に高く関心を持ち、環境負荷の少ない持続可能な社会を築いている
⑲生活環境	市民が、良好な生活環境で暮らすことができています
⑳上下水道	安全な水道水の供給と適切な汚水処理により、市民が衛生的で健康的な生活を送っている

●IV みんなが活力と魅力を生み、賑わいあふれるまち

施策	目指してきたまちの姿
②①公園・緑地	市民の参加により公園・緑地などの身近な潤い空間が管理され、誰もが憩いの場として快適に利用できている
②②まちづくり・景観	近代的な都市機能と、歴史的景観が共存しており、市民がそれを檀原市の魅力として感じている
②③歴史・文化財	市民が檀原市の歴史と文化財に誇りと愛着を持ち、その心を次世代へ引き継いでいる
②④観光・交流	市民が檀原市の魅力や新たな価値観を積極的に発信し、中南和地域の観光・交流の拠点としてまちに多くの人を訪れている
②⑤商工業・しごと	新たな産業を生み出す環境が整い、地域経済の循環を市民がまちの賑わいとして実感している
②⑥農業	持続的で魅力のある農業が行われ、市民が地元の農産物に愛着を持っている

●V 市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営

施策	目指してきたまちの姿
②⑦行政運営	市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営

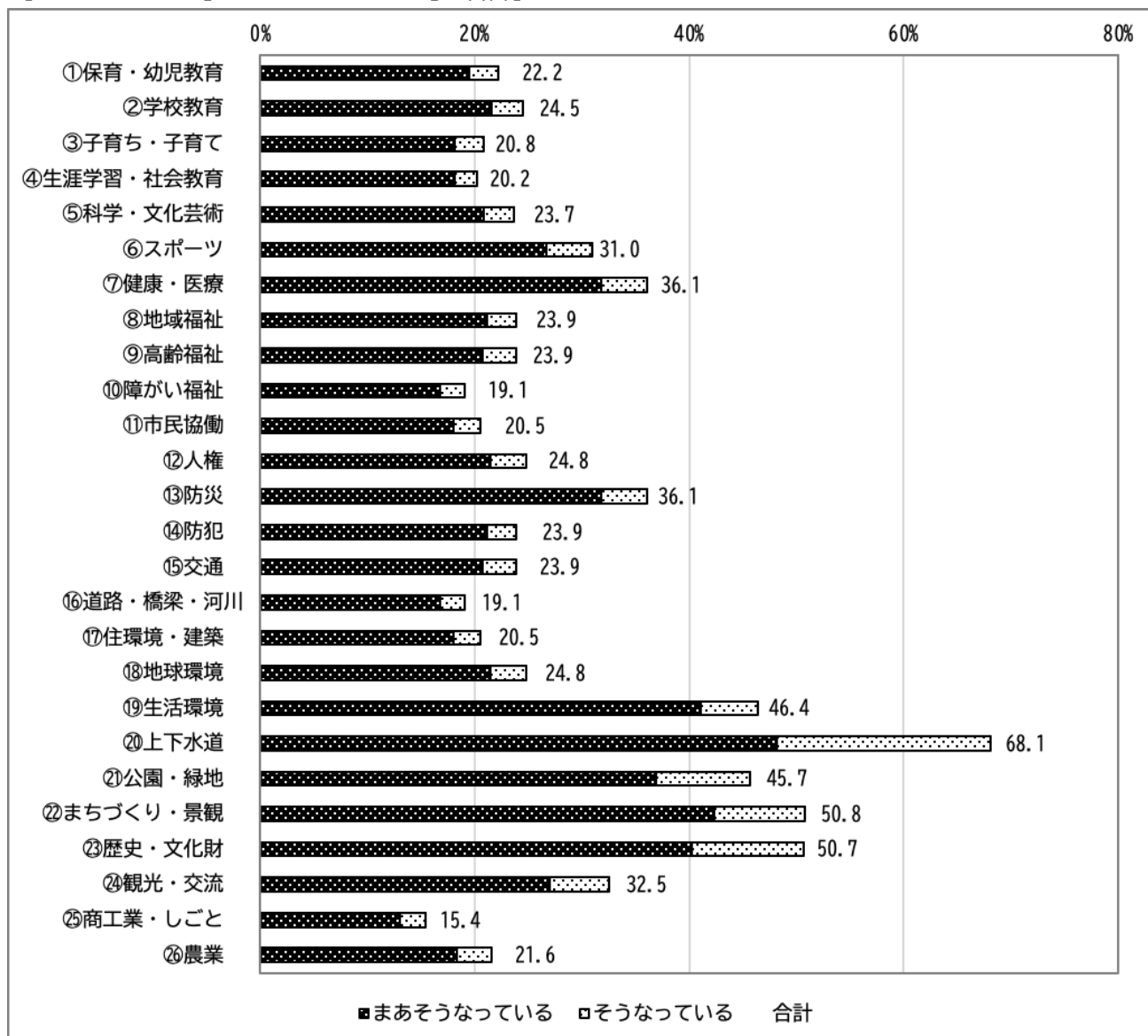
## (1)全施策の達成状況と今後の重要性

### ①達成状況

達成状況について、『そうになっている』(「そうになっている」「まあそうになっている」の合計)をみると、「⑳上下水道」が68.1%と最も多く、次いで「㉒まちづくり・景観」が50.8%、「㉓歴史・文化財」が50.7%となっています。

一方、『そうになっている』の合計が最も少ないのは、「㉕商工業・しごと」が15.4%、次いで「⑩障がい福祉」「⑯道路・橋梁・河川」がともに19.1%となっています。

【「そうになっている」「まあそうになっている」の合計】

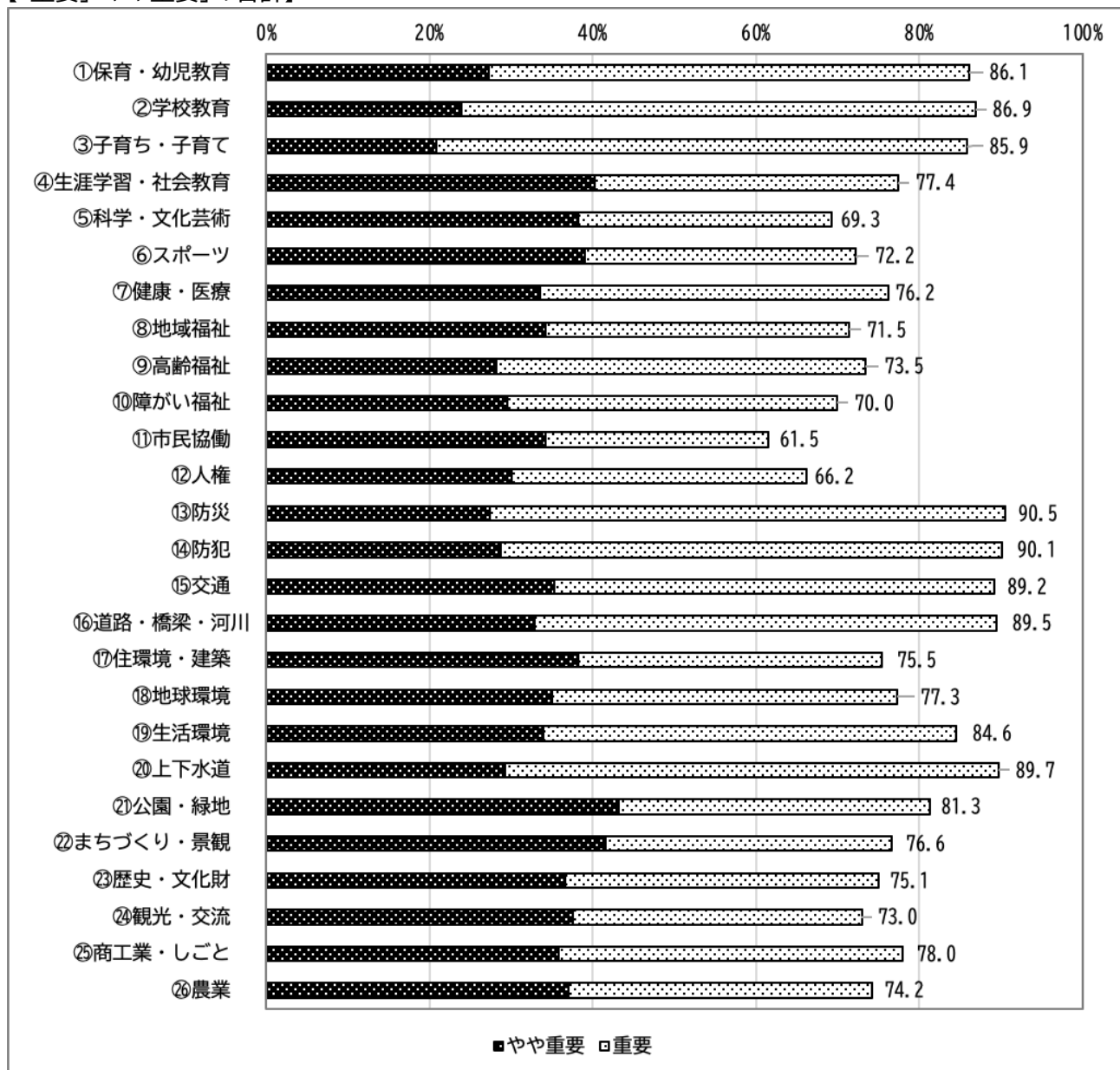


## ②今後の重要性

今後の重要性について『重要』（「重要」「やや重要」の合計）をみると、「⑬防災」が90.5%と最も多く、次いで「⑭防犯」が90.1%、「⑳上下水道」が89.7%となっています。

一方、『重要』の合計が最も少ないのは「⑪市民協働」が61.5%、次いで「⑫人権」が66.2%、「⑤科学・文化芸術」が69.3%となっています。

【「重要」「やや重要」の合計】

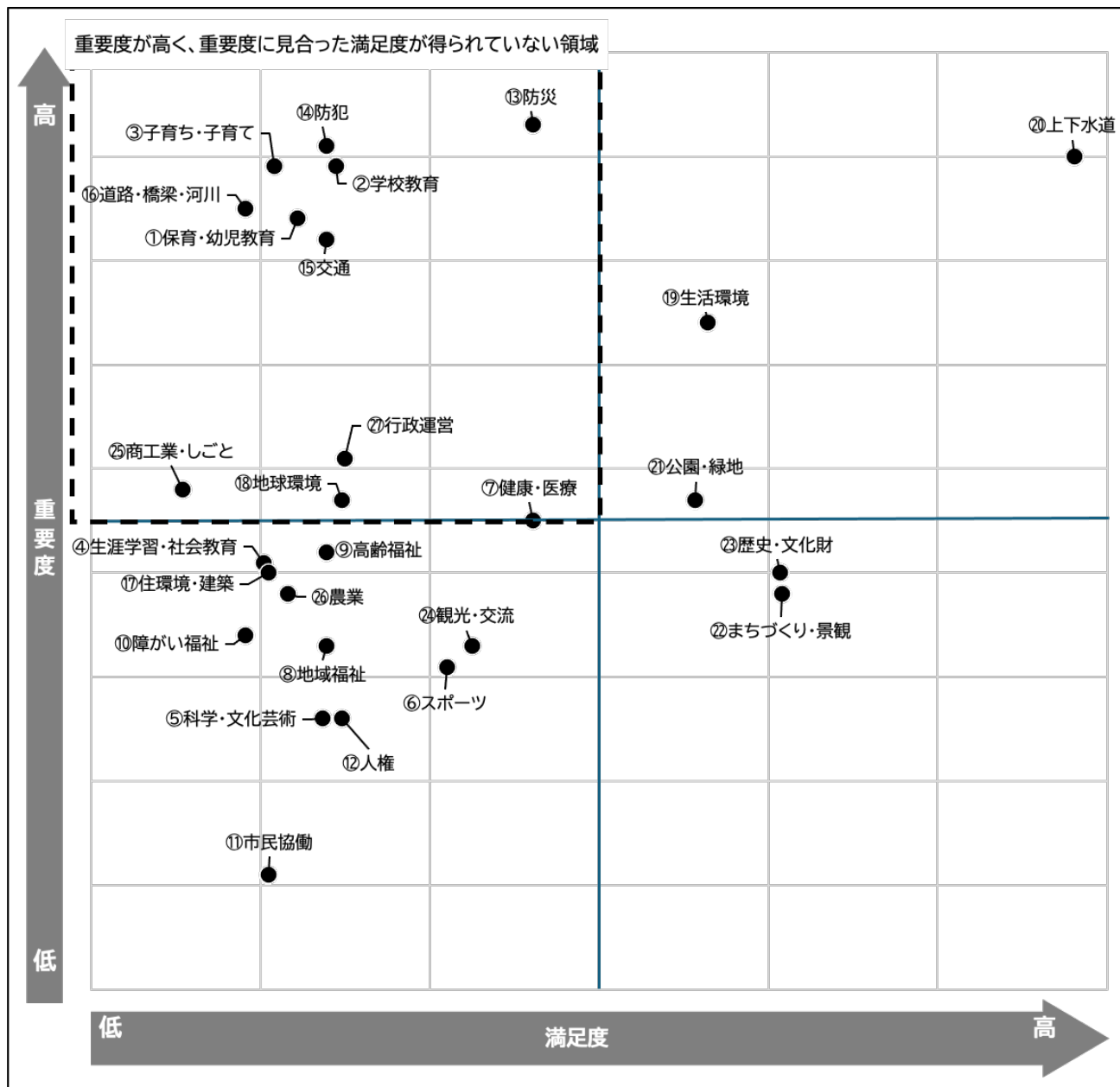


### ③施策領域の重要度別の満足度

全施策の満足度と重要度は以下のとおりとなっています。

「重要度が高く、重要度に見合った満足度が得られていない領域」に属している施策については、満足度を伸ばす必要があります。

本調査において、市民が、重要度が高いと感じているが満足度が低い施策の上位は「⑬道路・橋梁・河川」、「③子育て・子育て」、「⑭防犯」となっています。

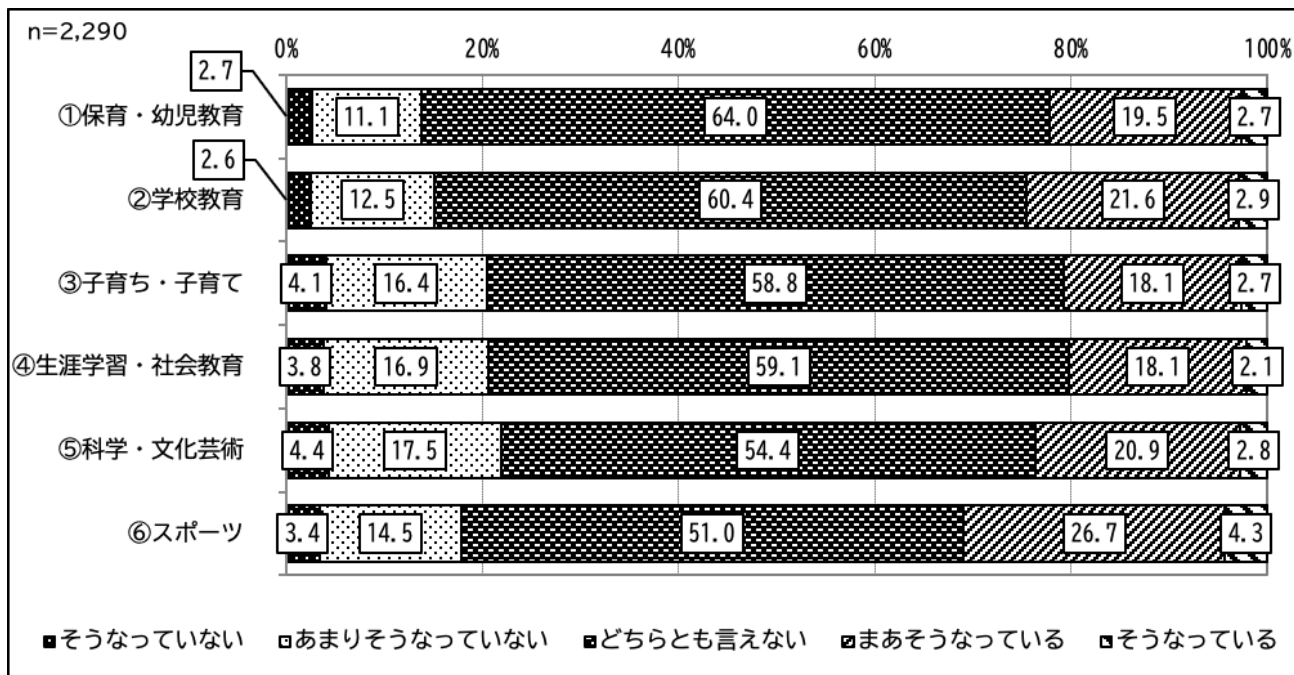


## (2)「I みんなが活躍し、個性輝くまち」の達成状況と今後の重要性

### ①達成状況

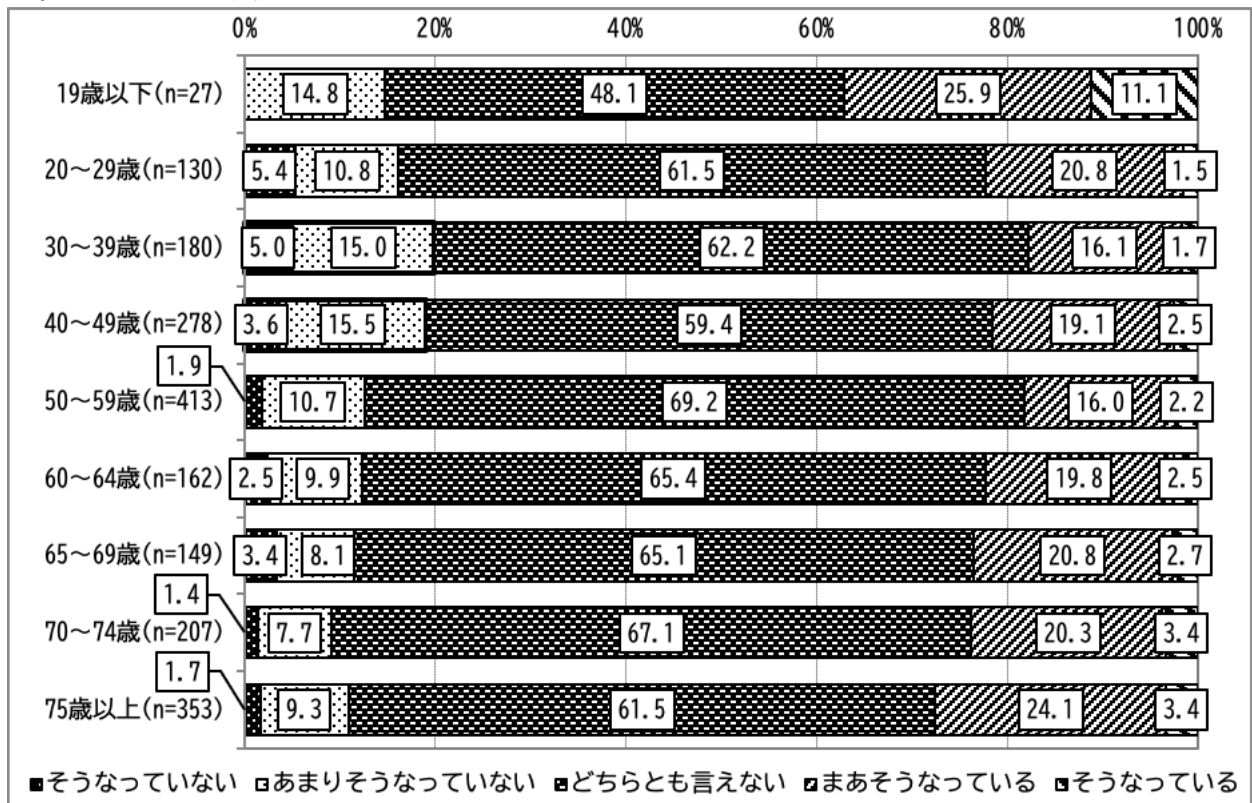
現状について、『そうになっている』(「そうになっている」「まあそうになっている」の合計)をみると、「⑥スポーツ」が31.0%と最も多く、次いで「②学校教育」が24.5%となっています。

一方、『そうっていない』(「そうっていない」「あまりそうっていない」の合計)をみると、「⑤科学・文化芸術」が21.9%と最も多く、次いで「④生涯学習・社会教育」が20.7%となっています。



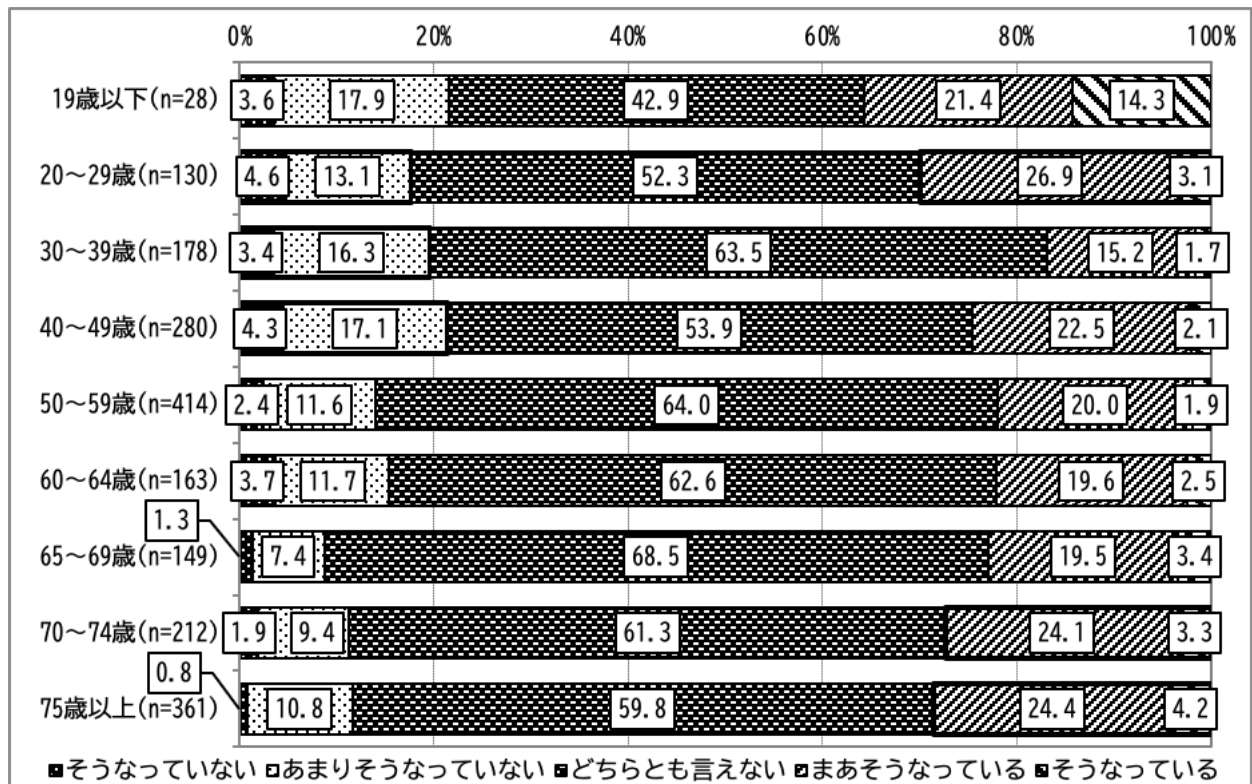
「①保育・幼児教育」の達成度について

年代別にみると、「30～39歳」、「40～49歳」において、「そうっていない」「あまりそうっていない」が多くなっています。



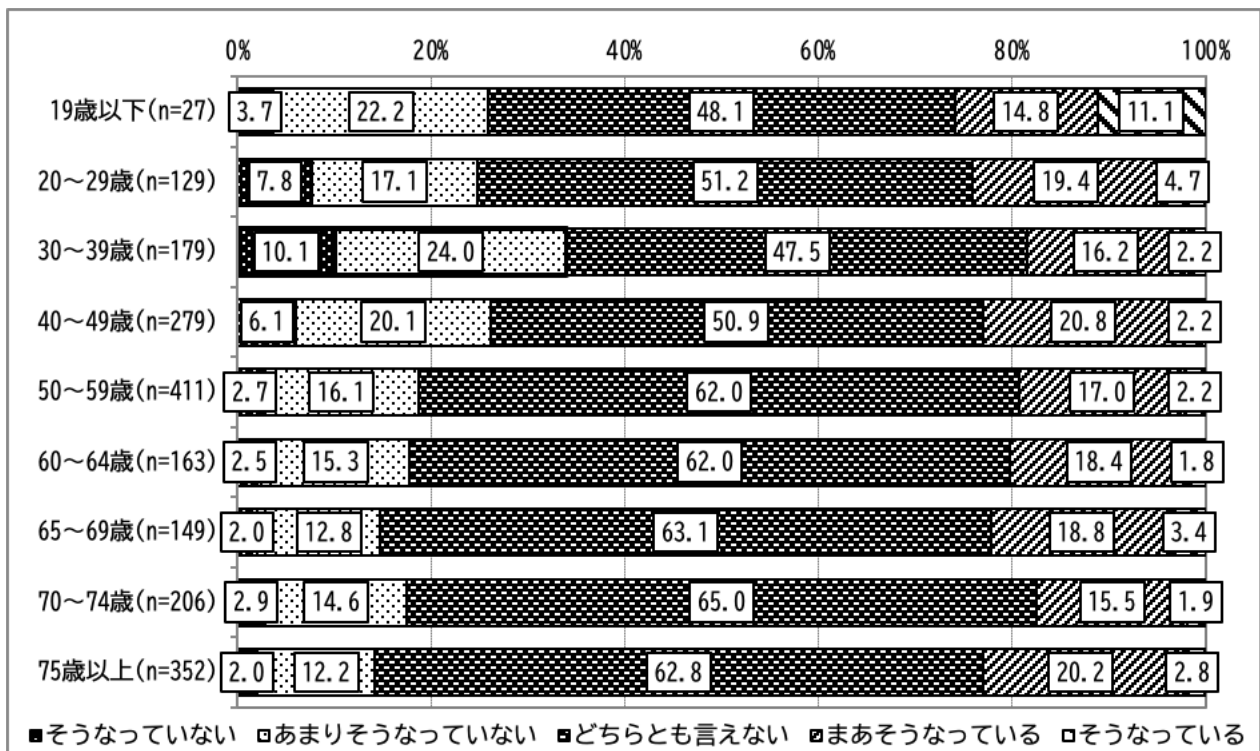
「②学校教育」の達成度について

年代別にみると、「20～29歳」、「70～74歳」、「75歳以上」で「そうなっている」「まあそうなっている」が多くなっている一方で、「20～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」で「そうっていない」「あまりそうっていない」が多くなっています。



### 「③子育て・子育て」の達成度について

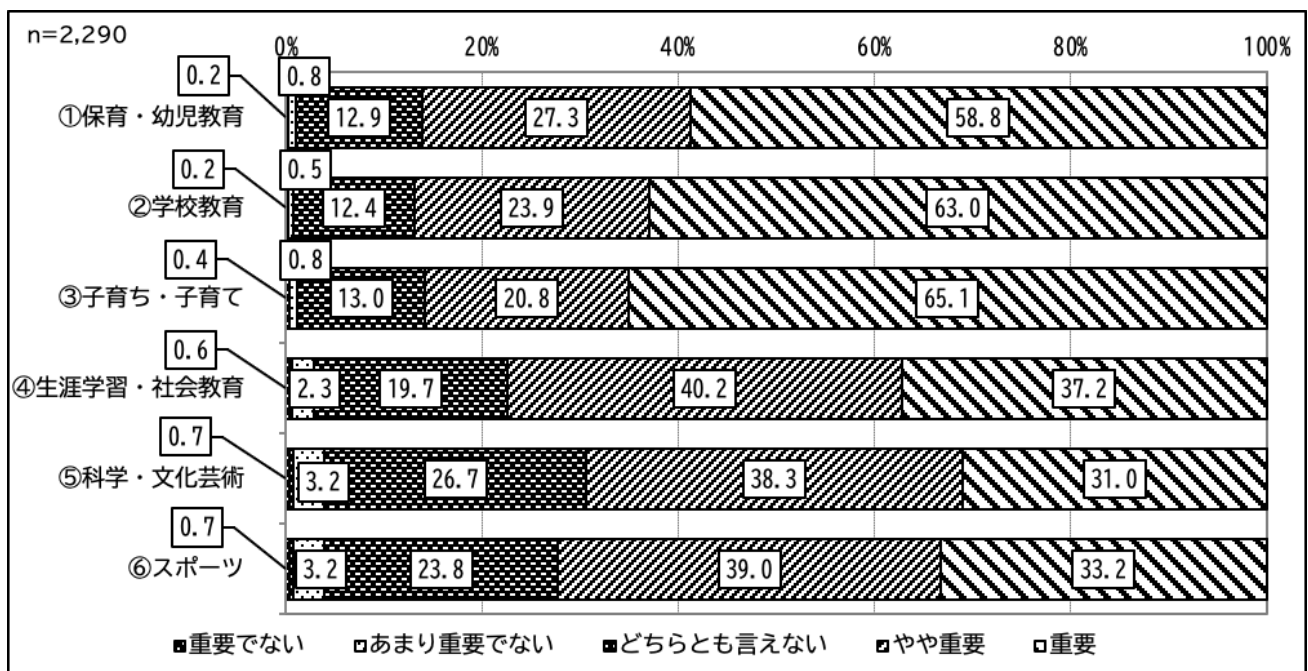
年代別にみると、「30～39歳」で、「そうっていない」「あまりそうっていない」が多くなっています。



### ②今後の重要性について

今後の重要性について、『重要』（「重要」「やや重要」の合計）をみると、「②学校教育」が86.9%と最も多く、次いで「①保育・幼児教育」が86.1%となっています。

一方、『重要でない』（「重要でない」「あまり重要でない」の合計）をみると、「⑤科学・文化芸術」「⑥スポーツ」がともに3.9%となっています。

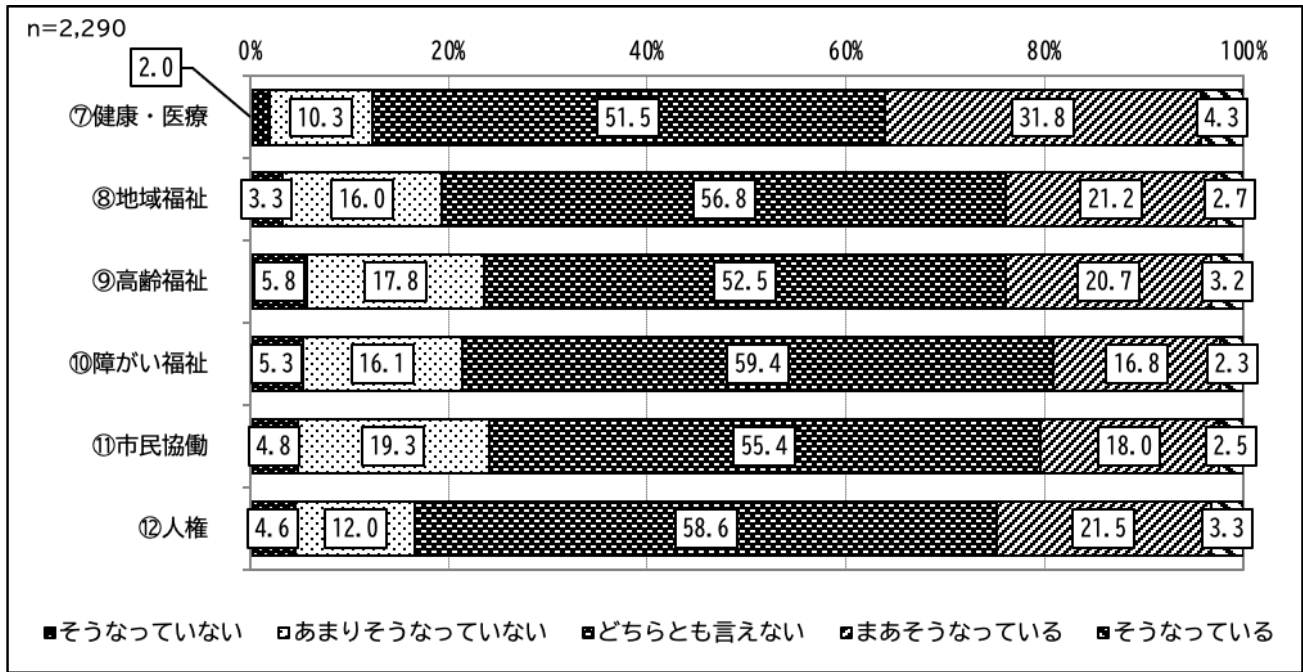


### (3)「Ⅱ みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち」の達成状況と今後の重要性

#### ①達成状況

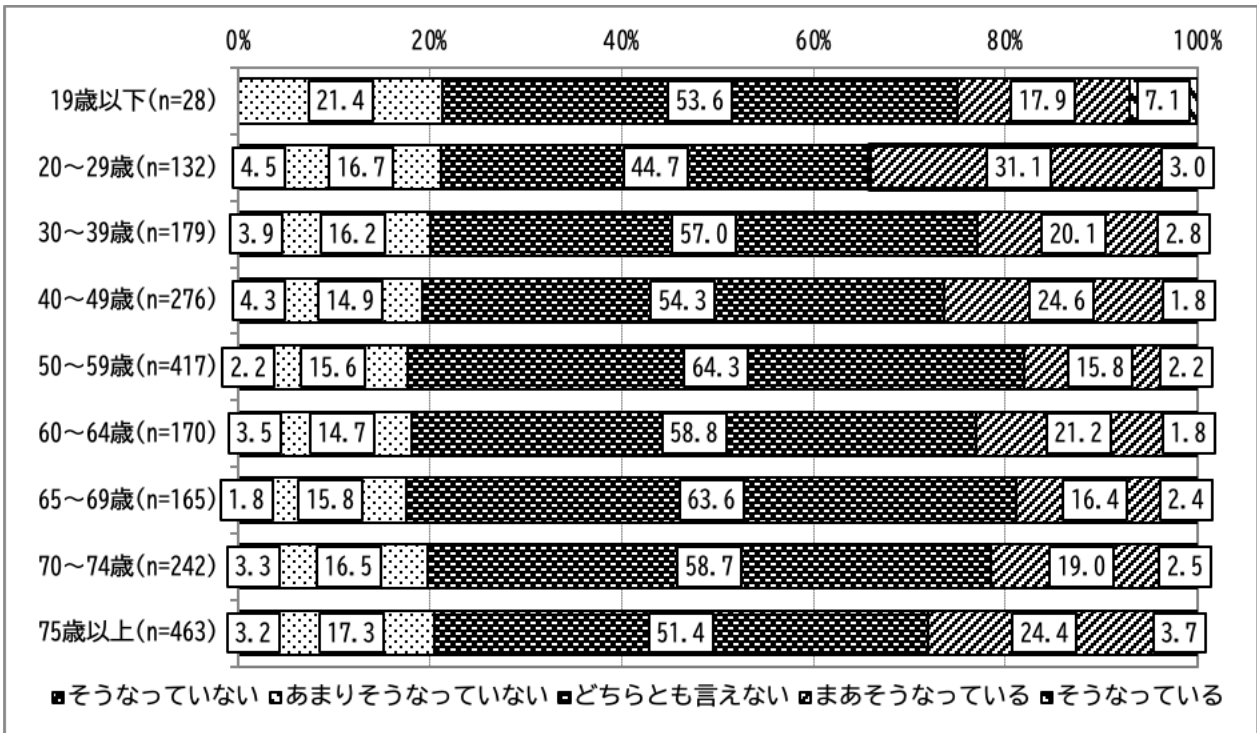
現状について、『そうになっている』(「そうになっている」「まあそうになっている」の合計)をみると、「⑦健康・医療」が36.1%と最も多く、次いで「⑫人権」が24.8%となっています。

一方、『そうっていない』(「そうっていない」「あまりそうっていない」の合計)をみると、「⑪市民協働」が24.1%と最も多く、次いで「⑧高齢福祉」が23.6%となっています。

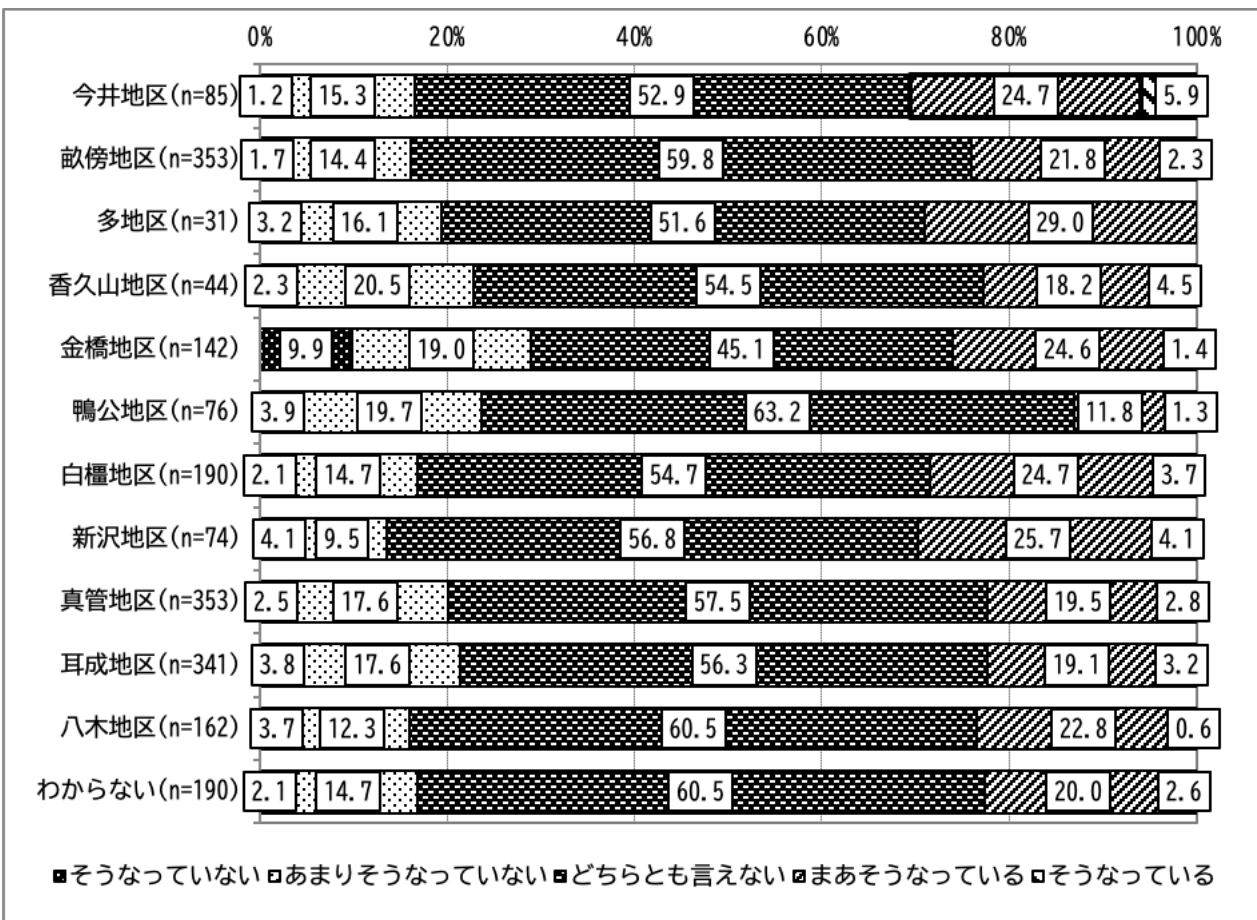


「⑧地域福祉」の達成状況について

年代別に見てみると、「20～29歳」で、「そうになっている」「まあそうになっている」が多くなっています。

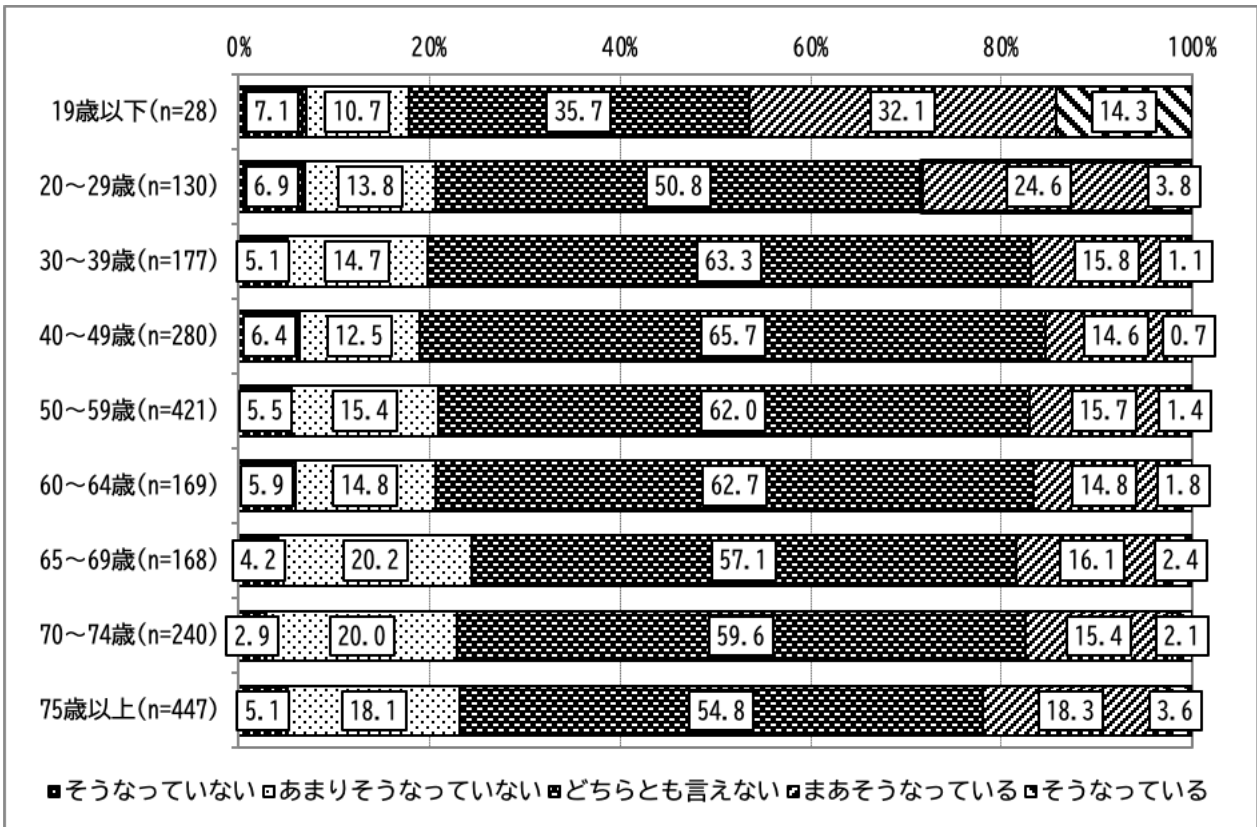


居住地区別にみると、「今井地区」で「そうになっている」「まあそうになっている」が多くなっています。



「⑩障がい福祉」の達成度について

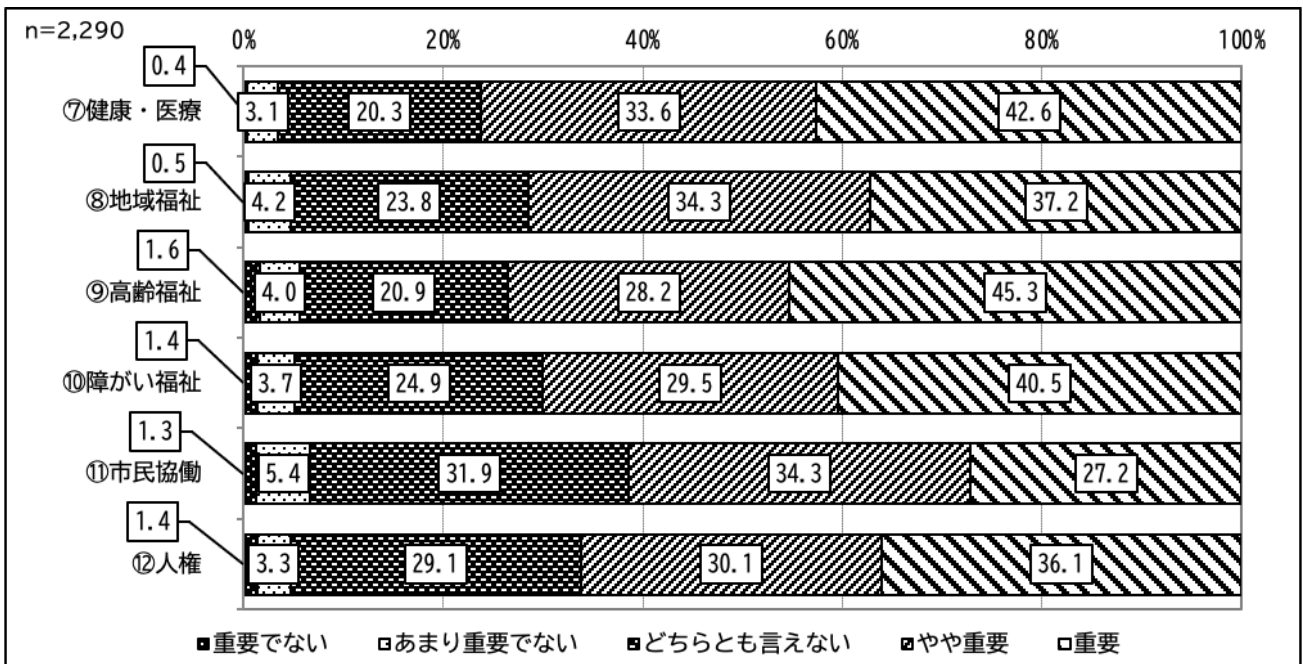
年代別にみると、「20～29歳」で「そうになっている」「まあそうになっている」が多くなっています。



②今後の重要性

今後の重要性について、『重要』（「重要」「やや重要」の合計）をみると、「⑦健康・医療」が76.2%と最も多く、次いで「⑨高齢福祉」が73.5%となっています。

一方、『重要でない』（「重要でない」「あまり重要でない」の合計）をみると、「⑩市民協働」が6.7%と最も高く、次いで「⑨高齢福祉」が5.6%となっています。

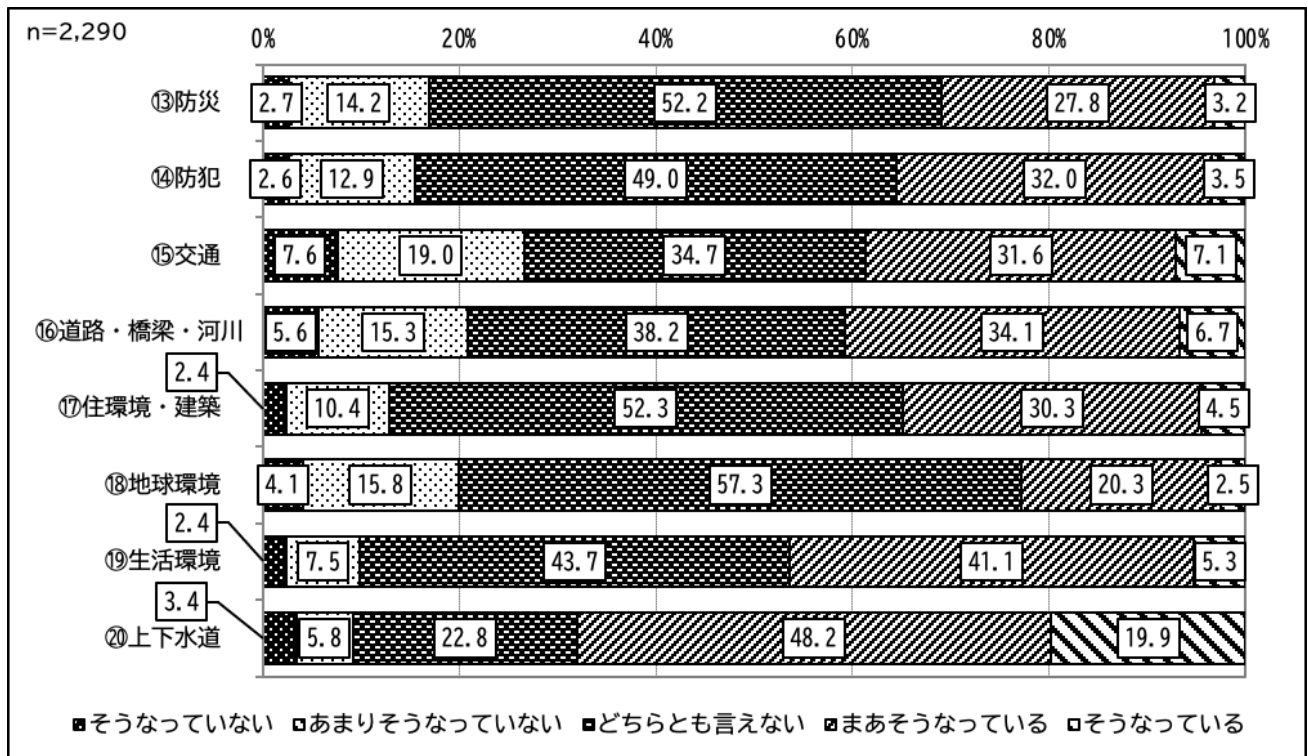


#### (4)「Ⅲ みんなが安全に、快適な環境で生活できるまち」の達成状況と今後の重要性

##### ①達成状況

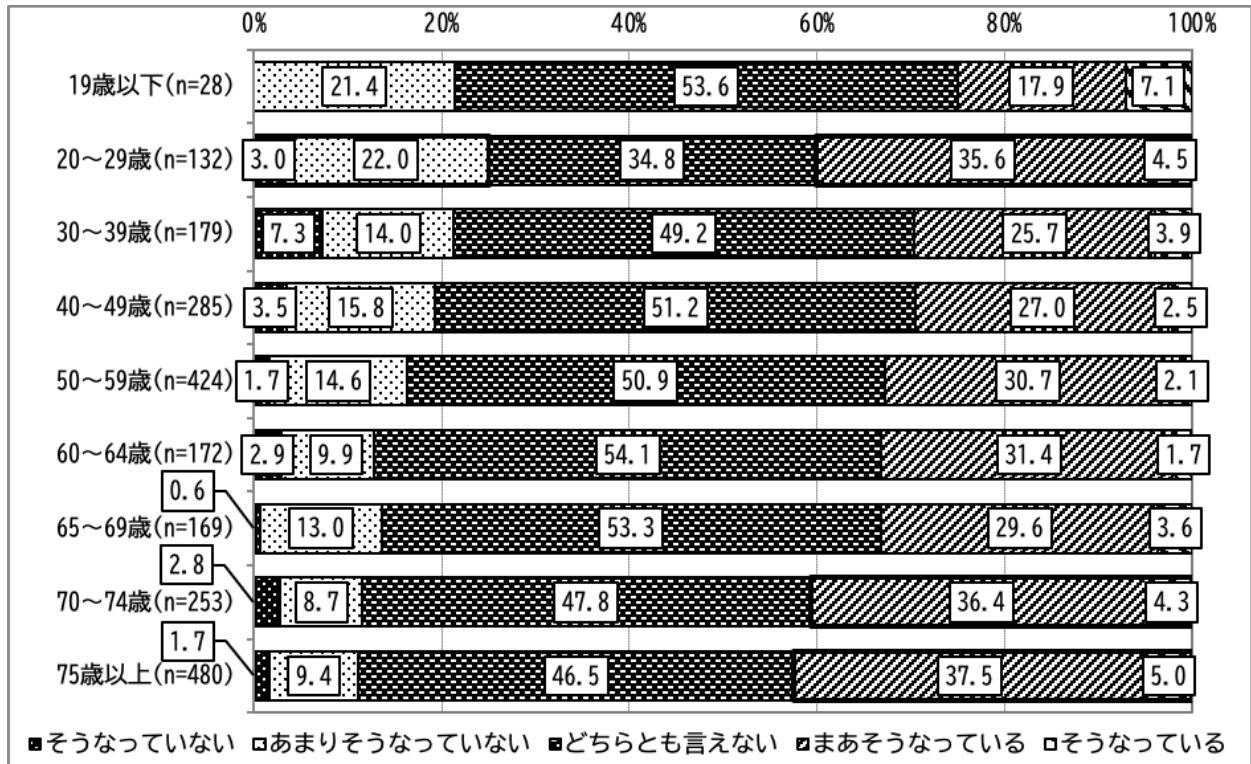
現状について、『そうになっている』(「そうになっている」「まあそうになっている」の合計)をみると、「⑳上下水道」が68.1%と最も多く、次いで「⑲生活環境」が46.4%となっています。

一方、『そうっていない』(「そうっていない」「あまりそうっていない」の合計)をみると、「⑮交通」が26.6%と最も多く、次いで「⑯道路・橋梁・河川」が20.9%となっています。

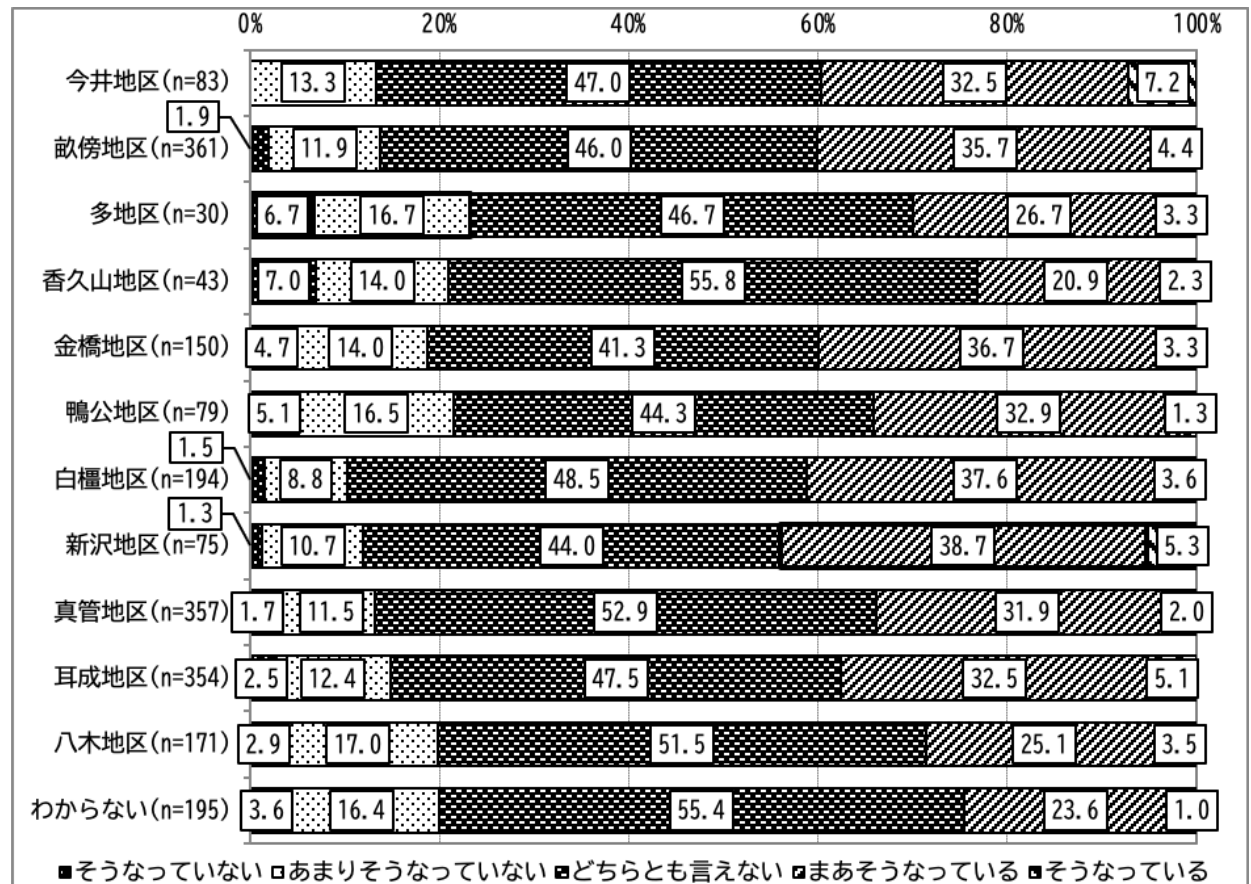


「⑭防犯」の達成状況について

年代別にみると、「20～29歳」、「70～74歳」、「75歳以上」で「そうになっている」「まあそうになっている」が多くなっています。「20～29歳」においては、「そうになっていない」「あまりそうになっていない」も多くなっています。

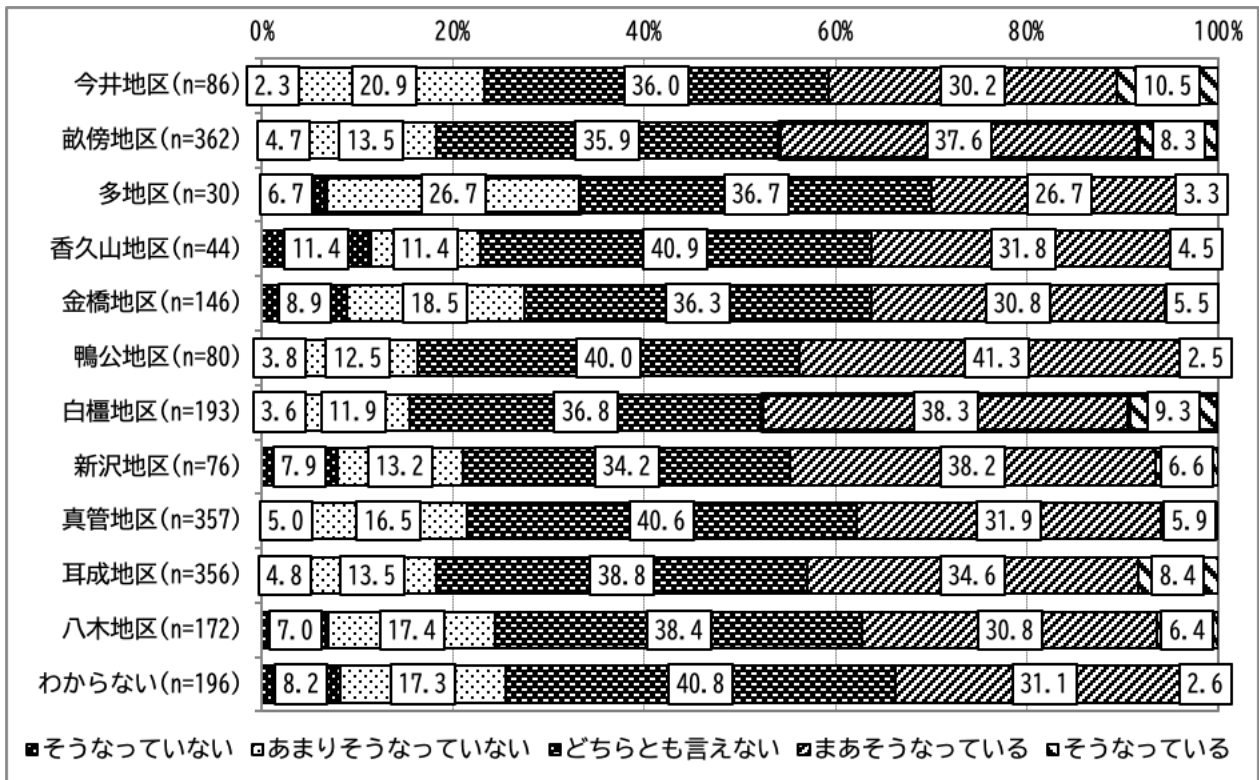


居住区別にみると、「新沢地区」で「そうになっている」「まあそうになっている」が多くなっています。



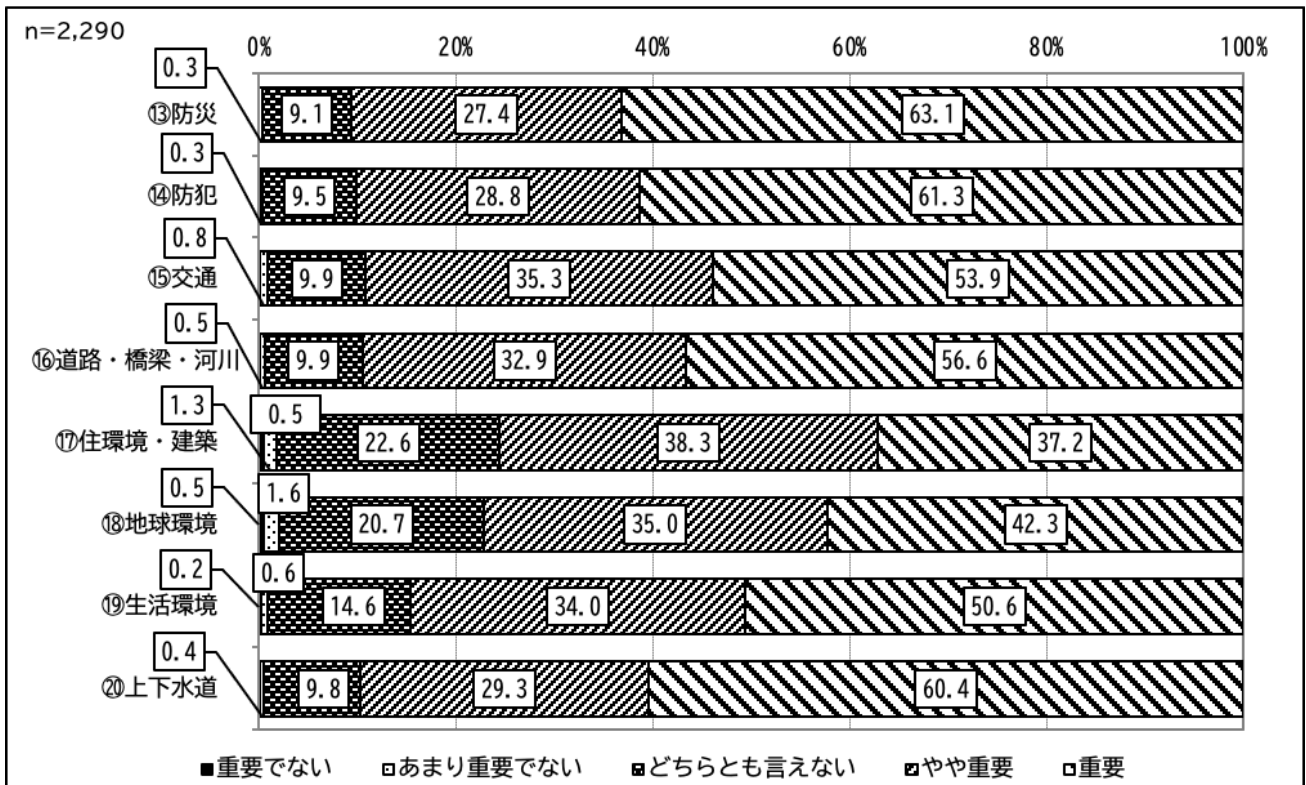
「⑩道路・橋梁・河川」の達成状況について

居住区別にみると、「畝傍地区」、「白檀地区」で「そうになっている」「まあそうになっている」が多くなっています。



②今後の重要性について

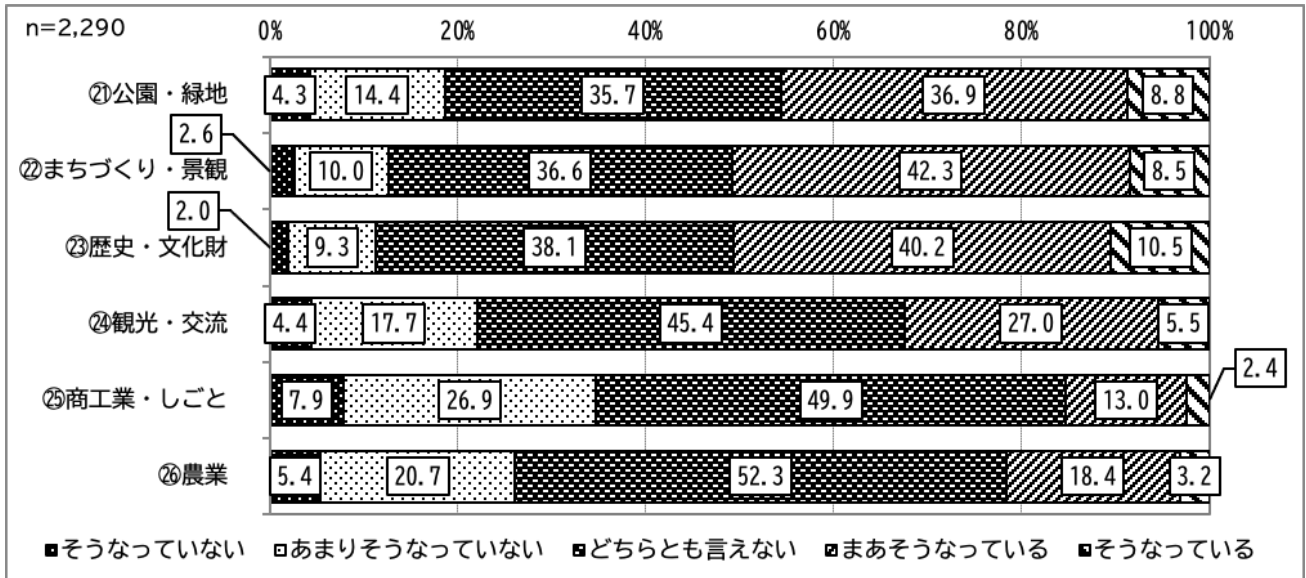
今後の重要性について、『重要』(「重要」「やや重要」の合計)をみると、「⑬防災」が90.5%と最も多く、次いで「⑭防犯」が90.1%となっています。



(5)「IV みんなが活力と魅力を生み、賑わいあふれるまち」の達成状況と今後の重要性

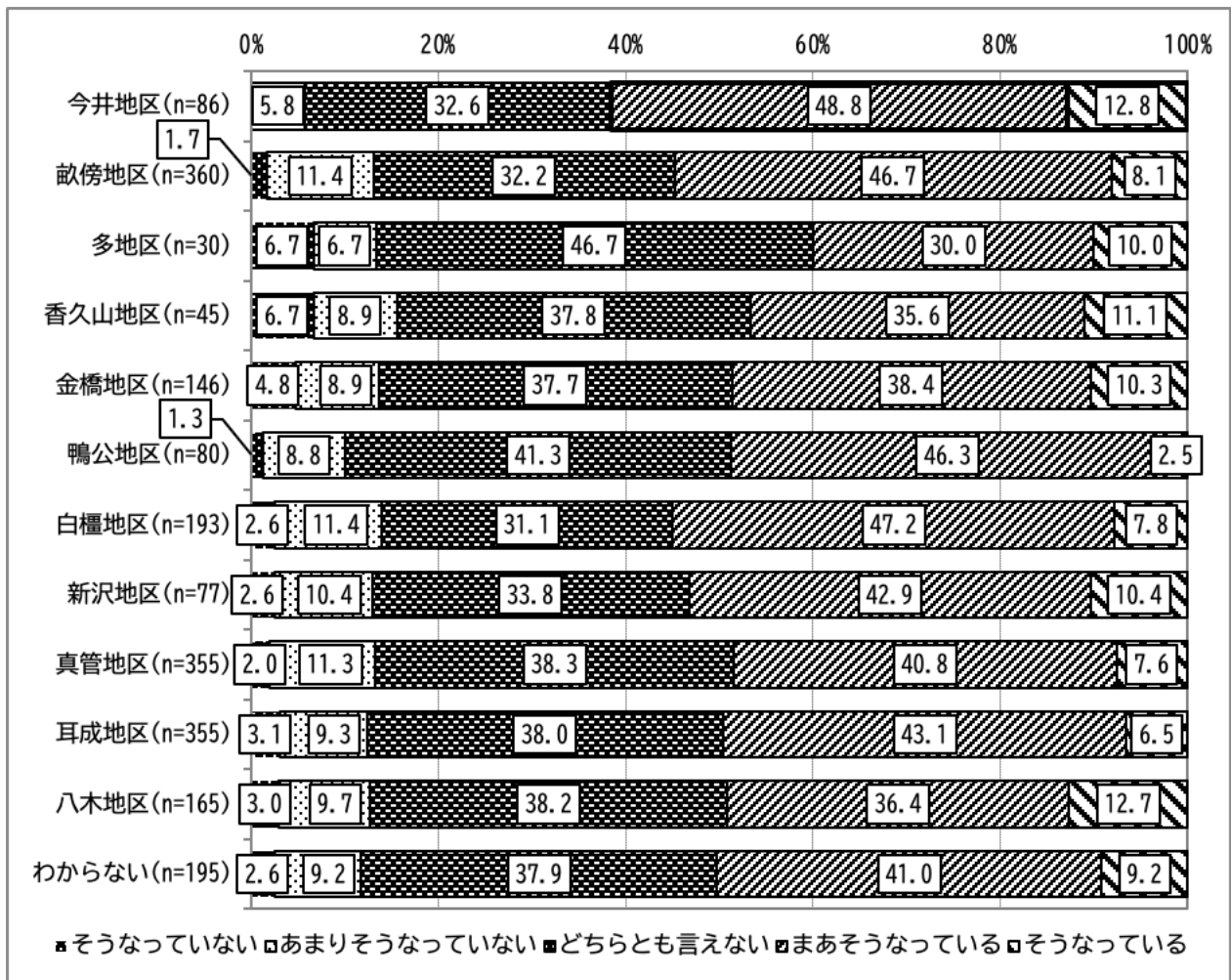
現状について、『そうになっている』(「そうになっている」「まあそうになっている」の合計)をみると、「㉔まちづくり・景観」が50.8%と最も多く、次いで「㉓歴史・文化財」が50.7%となっています。

一方、『そうっていない』(「そうっていない」「あまりそうっていない」の合計)をみると、「㉕商工業・しごと」が34.8%と最も多く、次いで「㉖農業」が26.1%となっています。



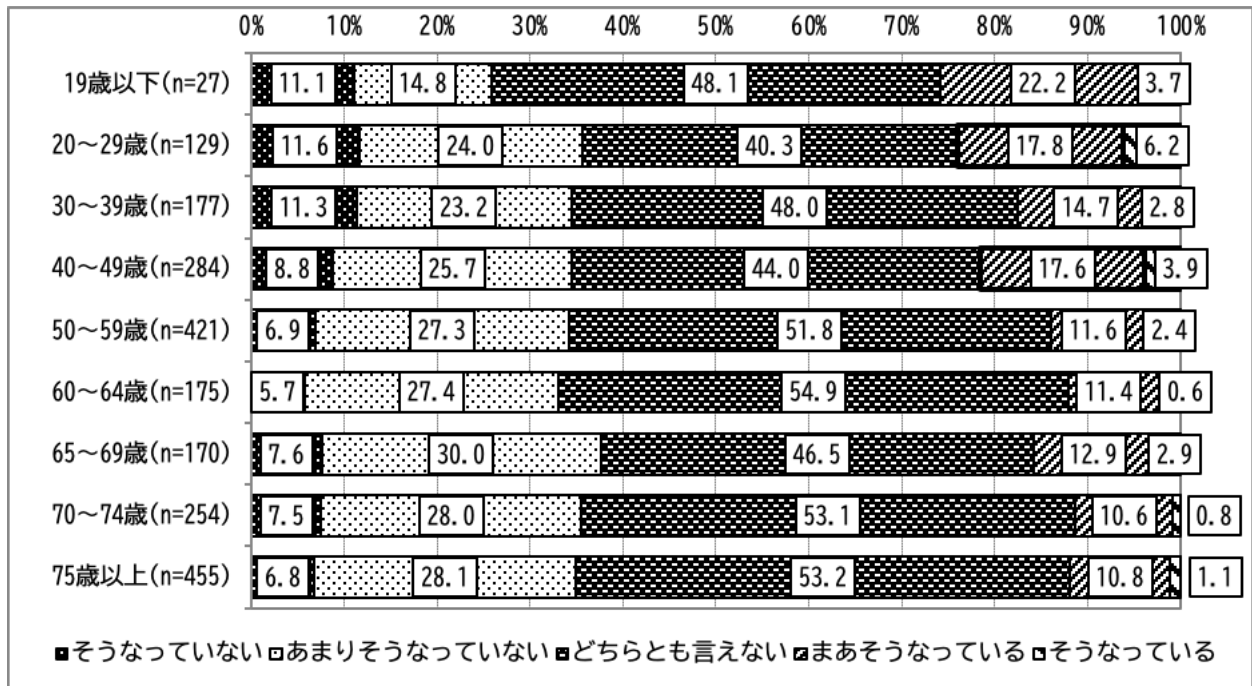
「②まちづくり・景観」の達成状況について

居住地区別にみると、「今井地区」で「そうになっている」「まあそうになっている」が多くなっています。



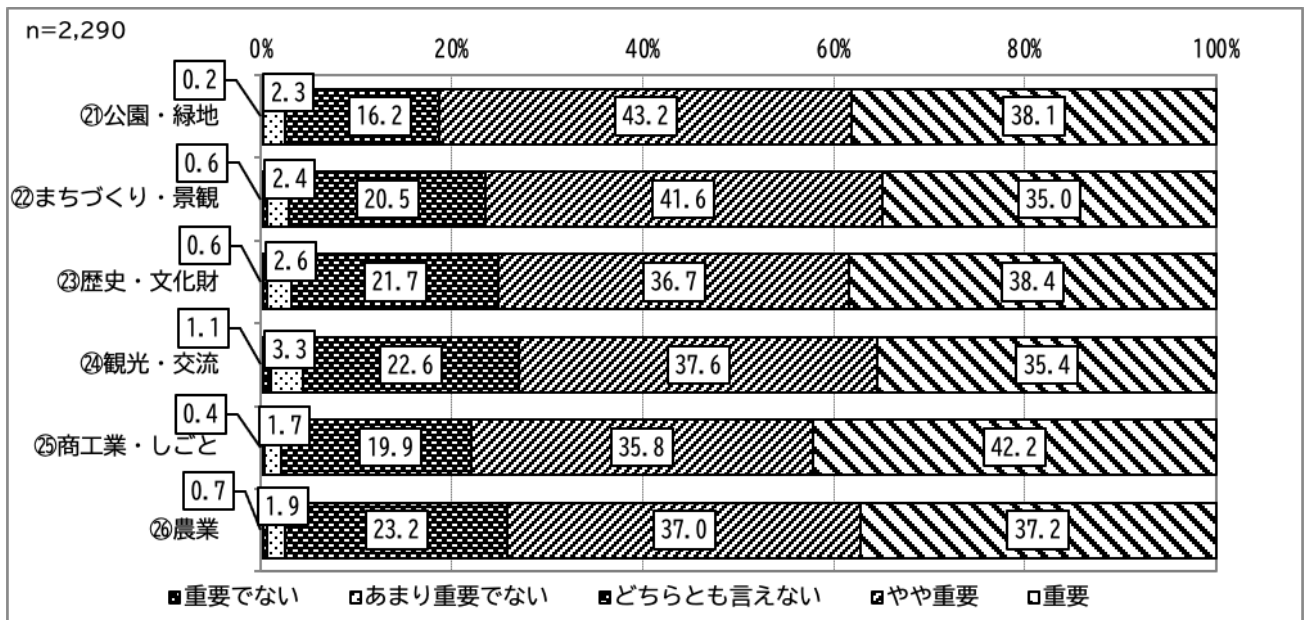
### 「⑤商工業・しごと」の達成状況について

年代別にみると、「20～29歳」、「40～49歳」において、「そうなっている」「まあそうなっている」が多くなっています。



### ②今後の重要性

今後の重要性について、『重要』（「重要」「やや重要」の合計）をみると、「①公園・緑地」が81.3%と最も多く、次いで「②まちづくり・景観」が76.6%となっています。

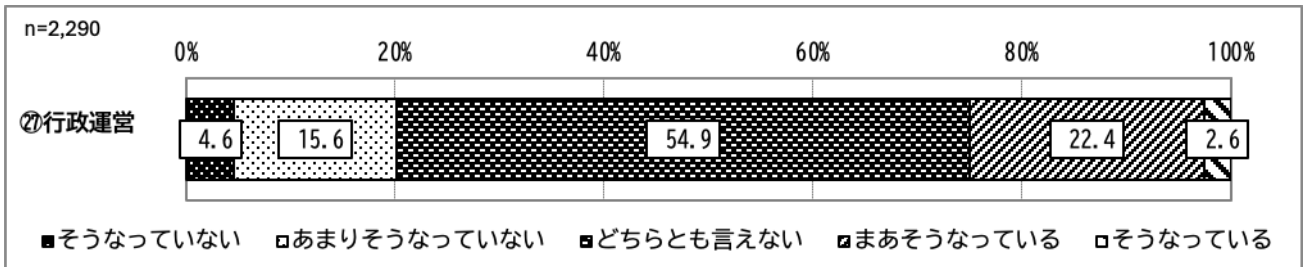


## (6)「V 市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営」の達成状況と今後の重要性

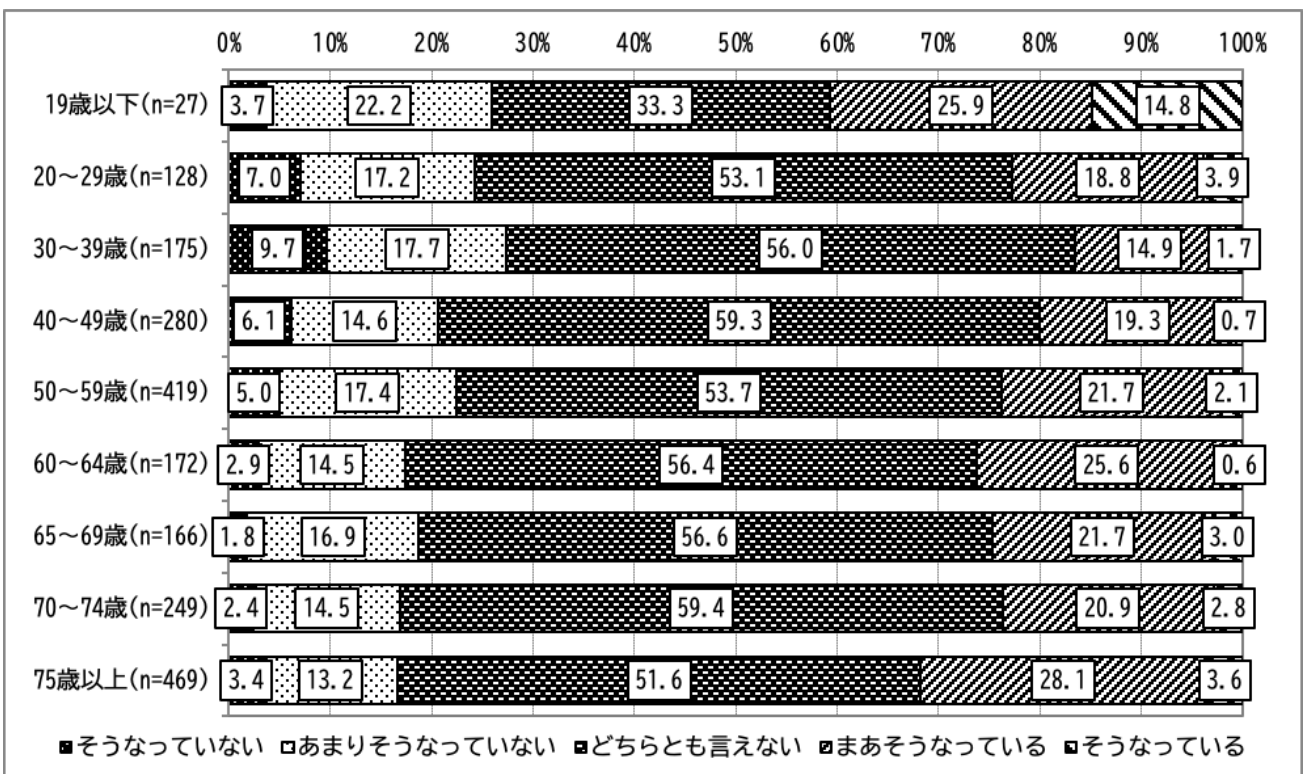
### ①達成状況

現状について、『そうになっている』(「そうになっている」「まあそうになっている」の合計)が25.0%となっています。

一方、『そうっていない』(「そうっていない」「あまりそうっていない」の合計)が20.2%となっています。

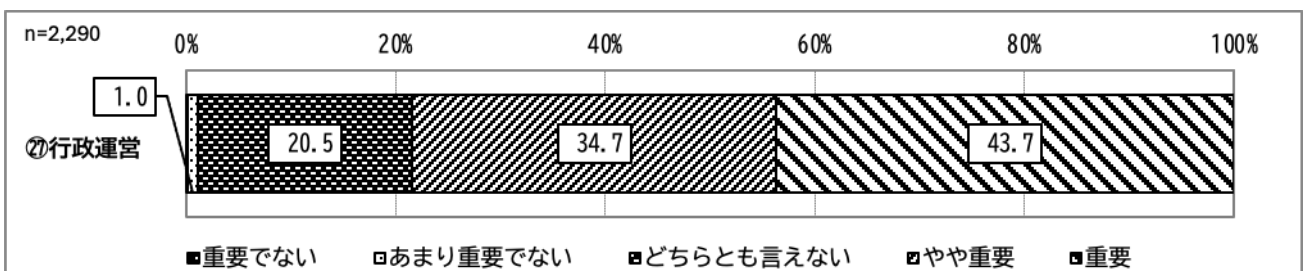


年代別にみると、大きな差はみられません。



### ②今後の重要性

今後の重要性について、『重要』(「重要」「やや重要」の合計)が78.4%となっています。



## <総合戦略>

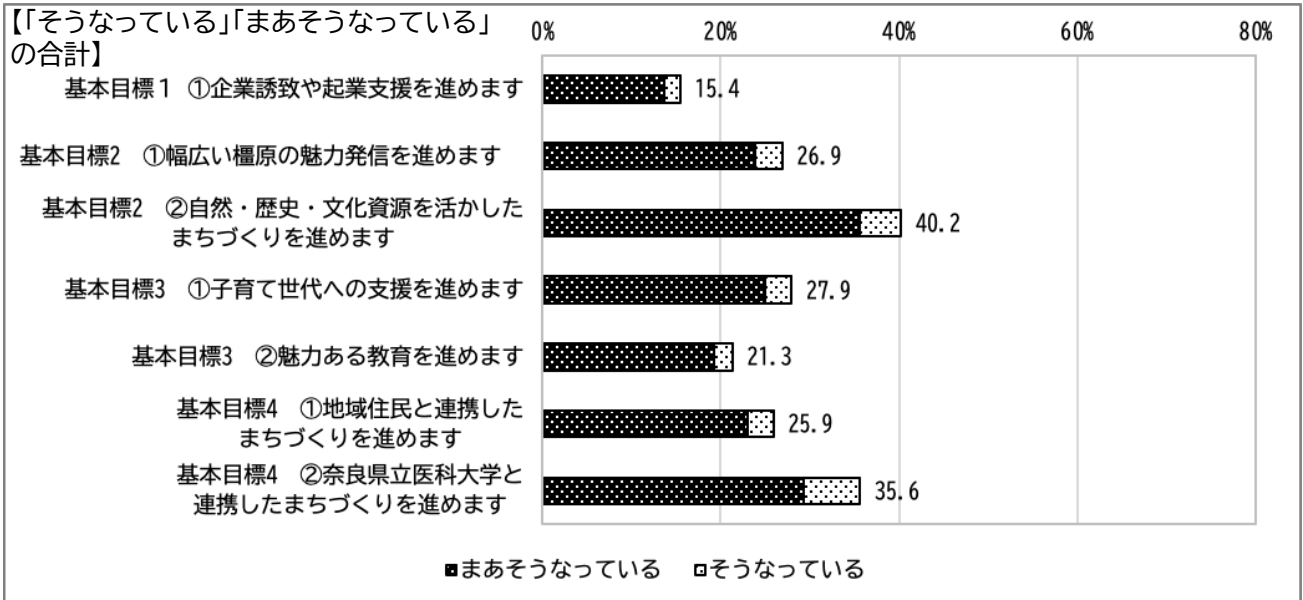
<b>基本目標1 地の利を活かしたしごとの場づくり</b>	
重点施策	①企業誘致や起業支援を進めます
<b>基本目標2 新たな人の流れや交流を盛んにする魅力づくり</b>	
重点施策	①幅広い橿原の魅力発信を進めます
	②自然・歴史・文化資源を活かしたまちづくりを進めます
<b>基本目標3 安心して子どもを産み育てられる環境づくり</b>	
重点施策	①子育て世代への支援を進めます
	②魅力ある教育を進めます
<b>基本目標4 安心して健康に暮らせるまちづくり</b>	
重点施策	①地域住民を連携したまちづくりを進めます
	②奈良県立医科大学と連携したまちづくりを進めます

## (1)基本目標の達成状況と今後の重要性について

### ①達成状況

達成状況について、『そうになっている』(「そうになっている」「まあそうになっている」の合計)をみると、「基本目標2 ②自然・歴史・文化資源を活かしたまちづくりを進めます」が40.2%と最も多く、次いで「基本目標4 ②奈良県立医科大学と連携したまちづくりを進めます」が35.6%となっています。

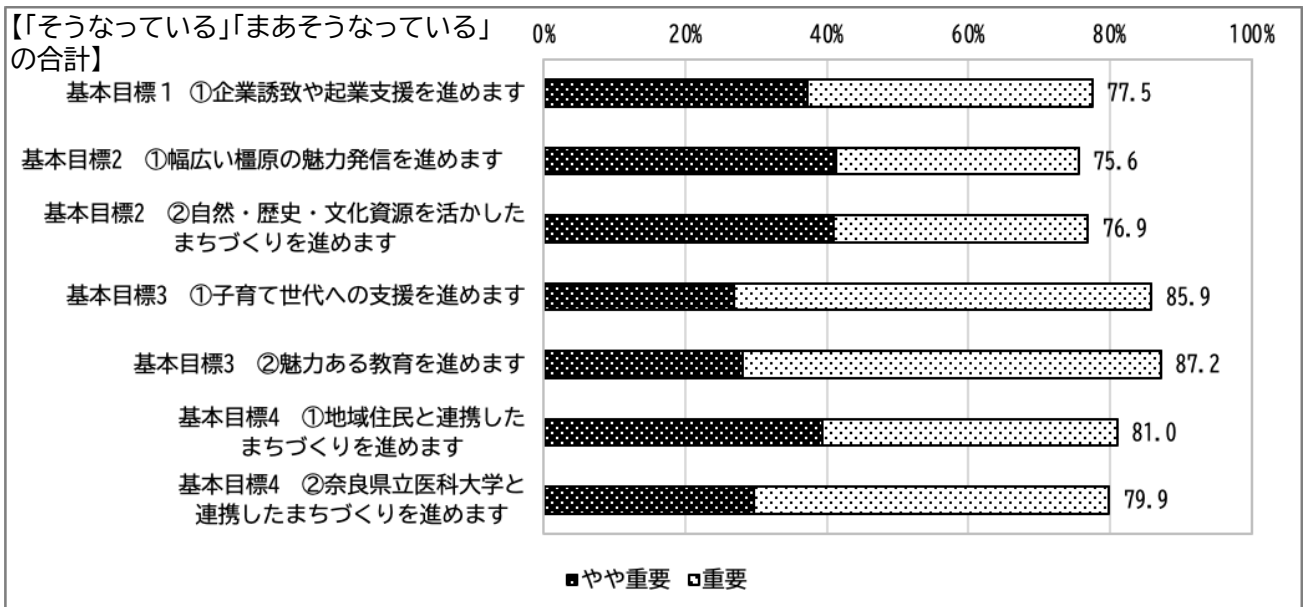
一方、『そうになっている』の合計が最も少ないのは、「基本目標1 ①企業誘致や起業支援を進めます」が15.4%、次いで「基本目標3 ②魅力ある教育を進めます」が21.3%となっています。



### ②今後の重要性

今後の重要性について、『重要』(「重要」「やや重要」の合計)をみると、「基本目標3 ②魅力ある教育を進めます」が87.2%と最も多く、次いで「基本目標3 ①子育て世代への支援を進めます」が85.9%となっています。

一方、『重要』の合計が最も少ないのは「基本目標2 ①幅広い橿原の魅力発信を進めます」が75.6%、次いで「基本目標2 ②自然・歴史・文化資源を活かしたまちづくりを進めます」が76.9%となっています。

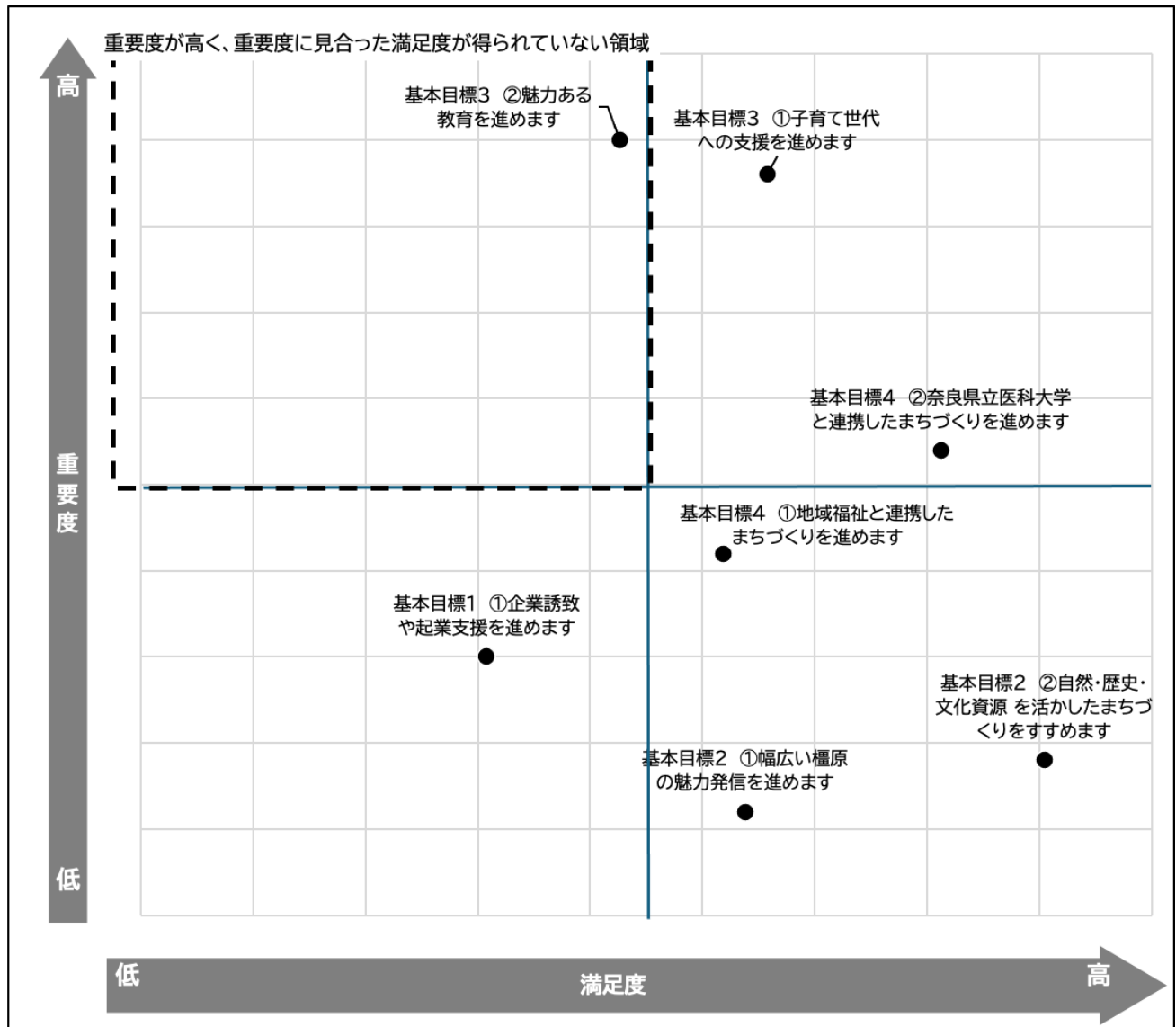


### ③施策領域の重要度別の満足度

全施策の満足度と重要度は以下のとおりとなっています。

「重要度が高く、重要度に見合った満足度が得られていない領域」に属している施策については、満足度を伸ばす必要があります。

本調査において、市民が、重要度が高いと感じているが満足度が低い施策の上位は「基本目標3 ②魅力ある教育を進めます」となっています。

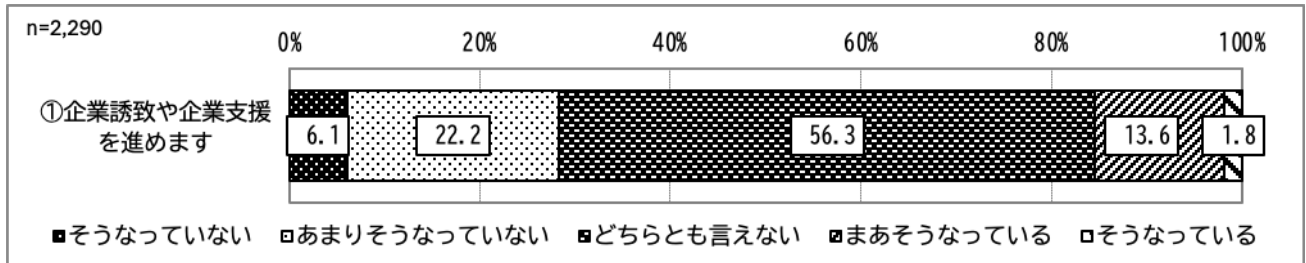


## (2)「基本目標1 地の利を活かしたしごとの場づくり」の達成状況と今後の重要性

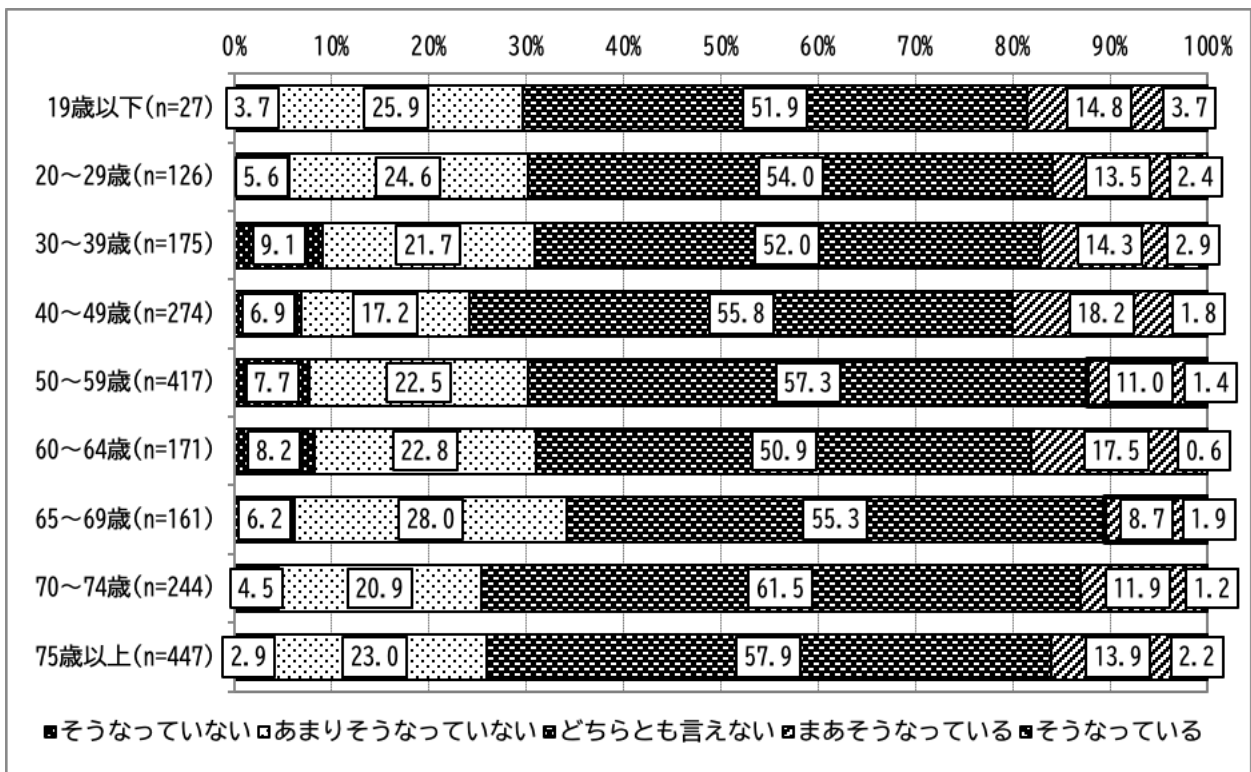
### ①達成状況

達成状況について、『そうになっている』(「そうになっている」「まあそうになっている」の合計)が15.4%となっています。

一方、『そうっていない』(「そうっていない」「あまりそうっていない」の合計)が28.3%となっています。

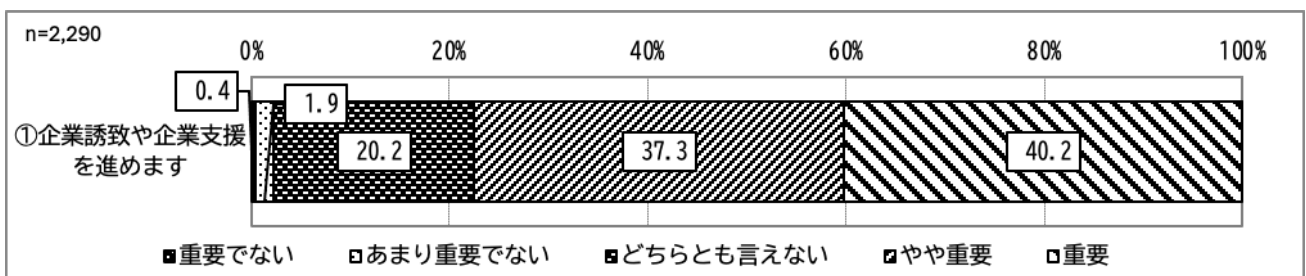


年代別にみると、「50～59歳」、「65～69歳」で「そうになっている」「まあそうになっている」が少なくなっています。



### ②今後の重要性

今後の重要性について、『重要』(「重要」「やや重要」の合計)が77.5%となっています。

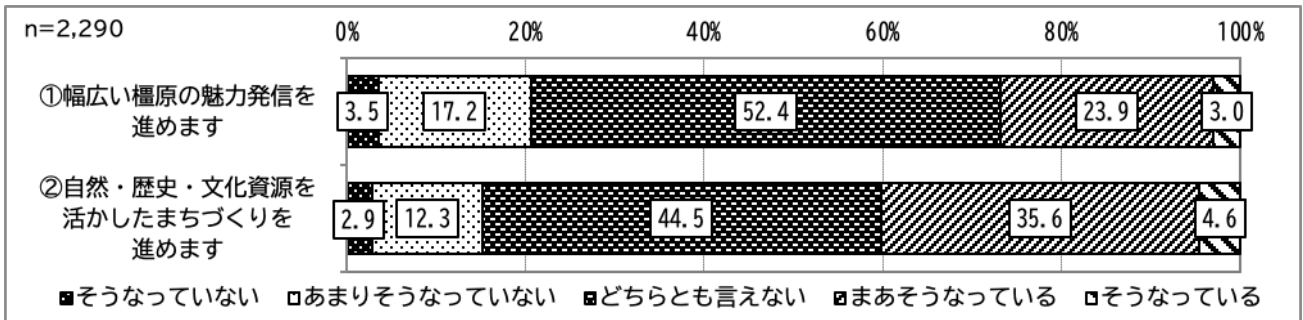


### (3)「基本目標2 新たな人の流れや交流を盛んにする魅力づくり」の達成状況と今後の重要性

#### ①達成状況

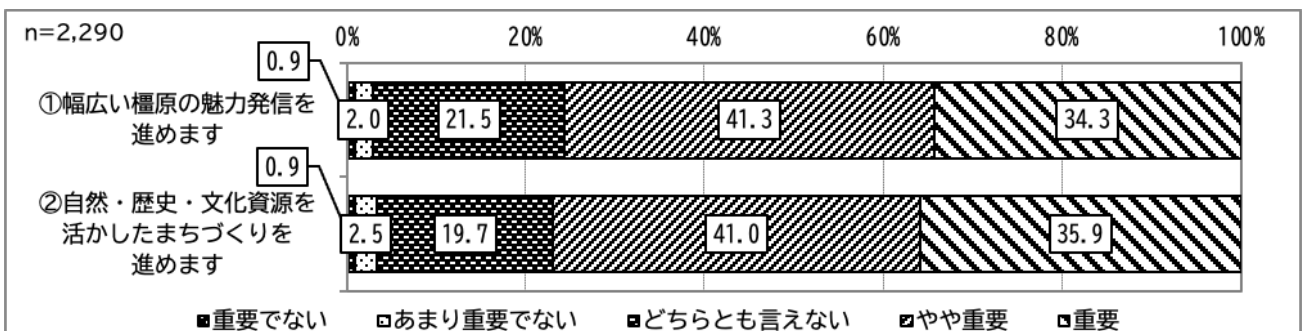
達成状況について、『そうになっている』(「そうになっている」「まあそうになっている」の合計)が「①幅広い檀原の魅力発信を進めます」が26.9%、「②自然・歴史・文化資源を活かしたまちづくりを進めます」が40.2%となっています。

一方、『そうになっていない』(「そうになっていない」「あまりそうになっていない」の合計)が「①幅広い檀原の魅力発信をすすめます」が20.7%、「②自然・歴史・文化資源を活かしたまちづくりを進めます」が15.2%となっています。



#### ②今後の重要性

今後の重要性について、『重要』(「重要」「やや重要」の合計)が「①幅広い檀原の魅力発信を進めます」が75.6%、「②自然・歴史・文化資源を活かしたまちづくりを進めます」が76.9%となっています。

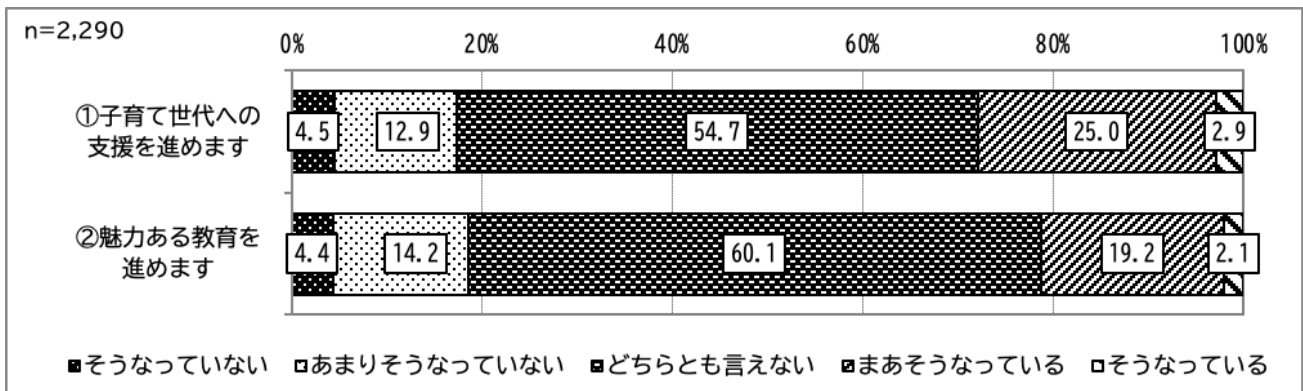


#### (4)「基本目標3 安心して子どもを産み育てられる環境づくり」の達成状況と今後の重要性

##### ①達成状況

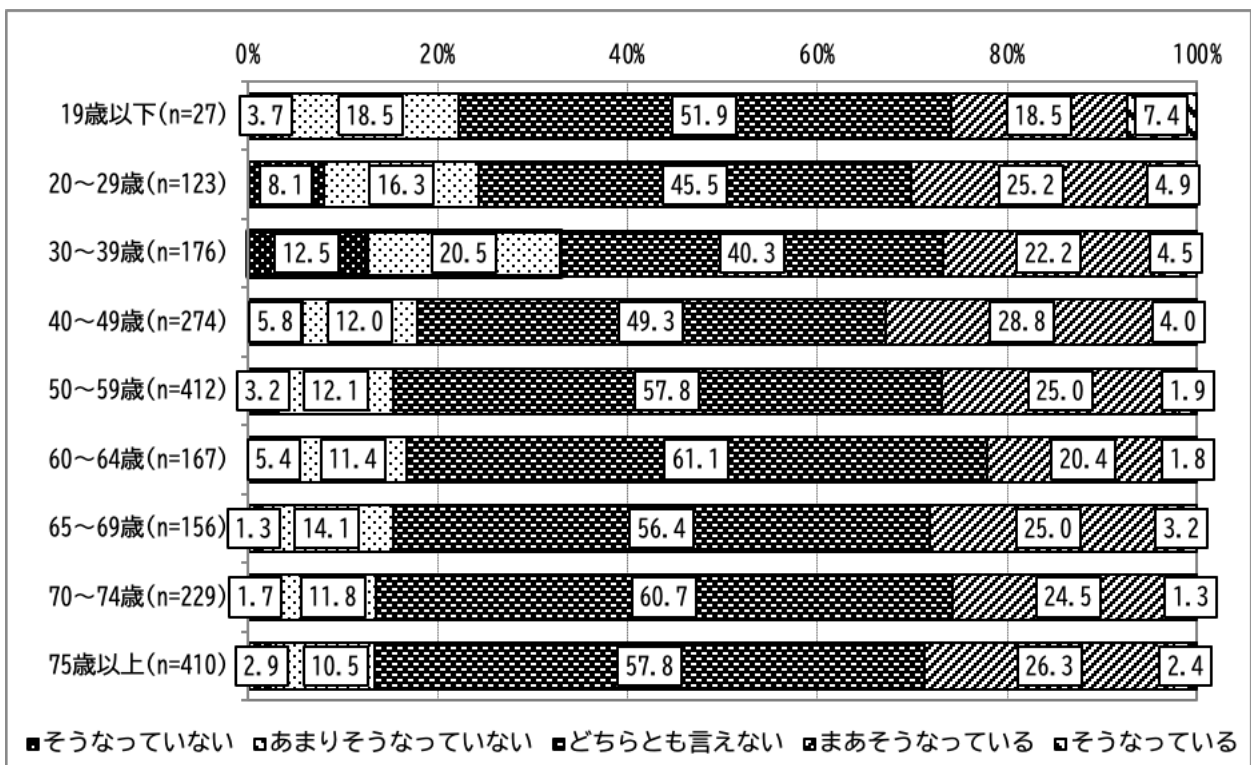
達成状況について、『そうになっている』(「そうになっている」「まあそうになっている」の合計)が「①子育て世代への支援を進めます」が27.9%、「②魅力ある教育を進めます」が21.3%となっています。

一方、『そうっていない』(「そうっていない」「あまりそうっていない」の合計)が「①子育て世代への支援を進めます」が17.4%、「②魅力ある教育を進めます」が18.6%となっています。



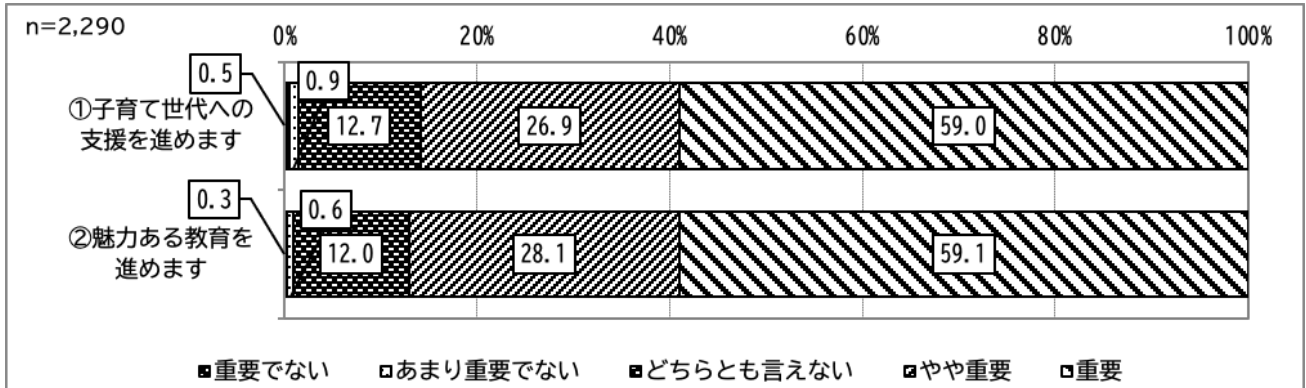
##### 「①子育て世代への支援を進めます」の達成状況

年代別にみると、「30～39歳」において、「そうっていない」「あまりそうっていない」が多くなっています。



## ②今後の重要性

今後の重要性について、『重要』(「重要」「やや重要」の合計)が「①子育て世代への支援を進めます」が85.9%、「②魅力ある教育を進めます」が87.2%となっています。

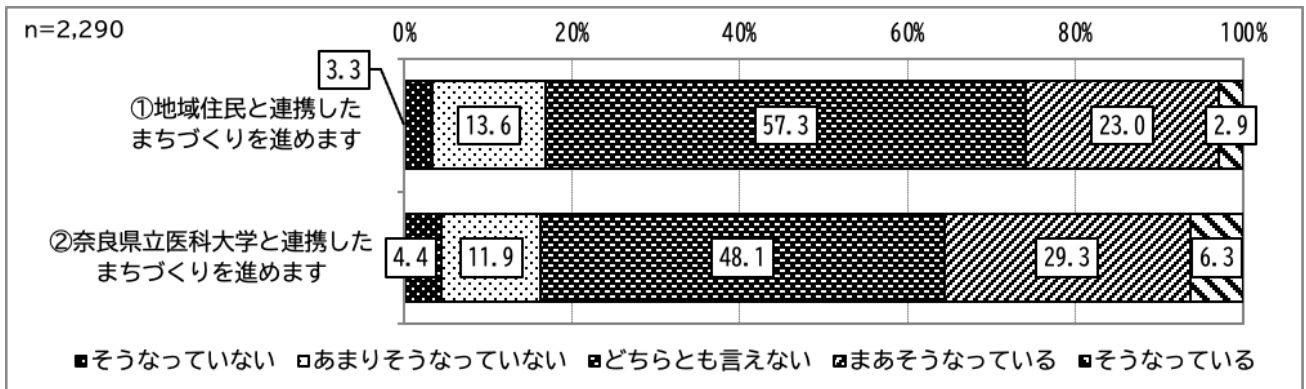


## (5)「基本目標4 安心して健康に暮らせるまちづくり」の達成状況と今後の重要性

### ①達成状況

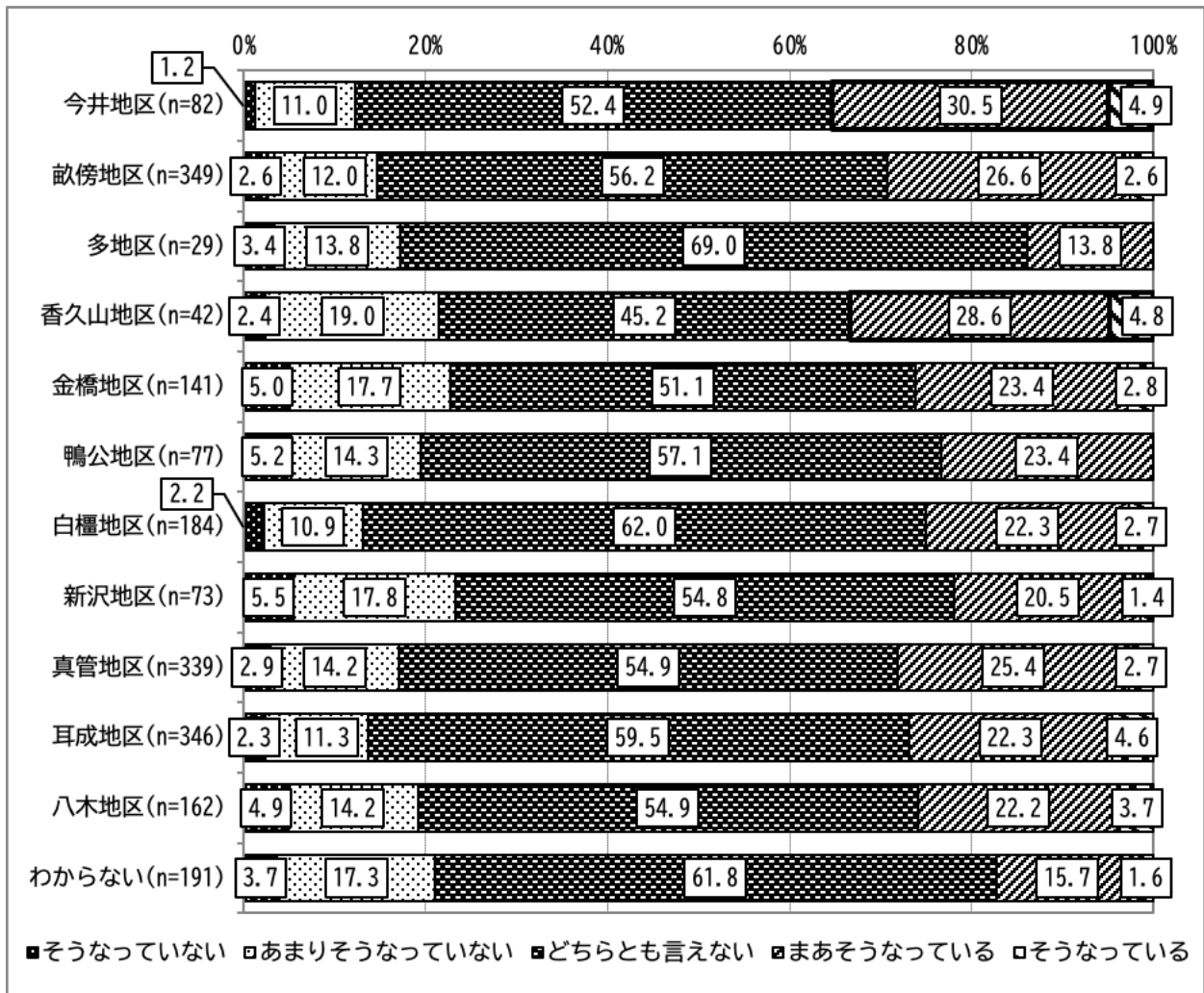
達成状況について、『そうになっている』(「そうになっている」「まあそうになっている」の合計)が「①地域と連携したまちづくりを進めます」が25.9%、「②奈良県立医科大学と連携したまちづくりを進めます」が35.6%となっています。

一方、『そうっていない』(「そうっていない」「あまりそうっていない」の合計)が「①地域と連携したまちづくりを進めます」が16.9%、「②奈良県立医科大学と連携したまちづくりを進めます」が16.5%となっています。



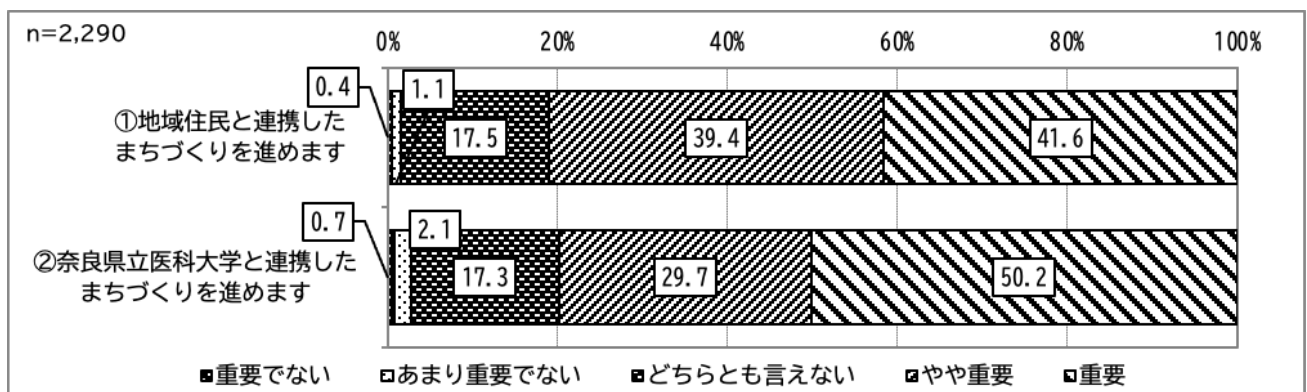
「①地域と連携したまちづくりを進めます」の達成状況

地域別にみると、「今井地区」、「香久山地区」で「そうになっている」「まあそうになっている」が多くなっています。



②今後の重要性

今後の重要性について、『重要』(「重要」「やや重要」の合計)が「①地域と連携したまちづくりを進めます」が81.0%、「②奈良県立医科大学と連携したまちづくりを進めます」が79.9%となっています。

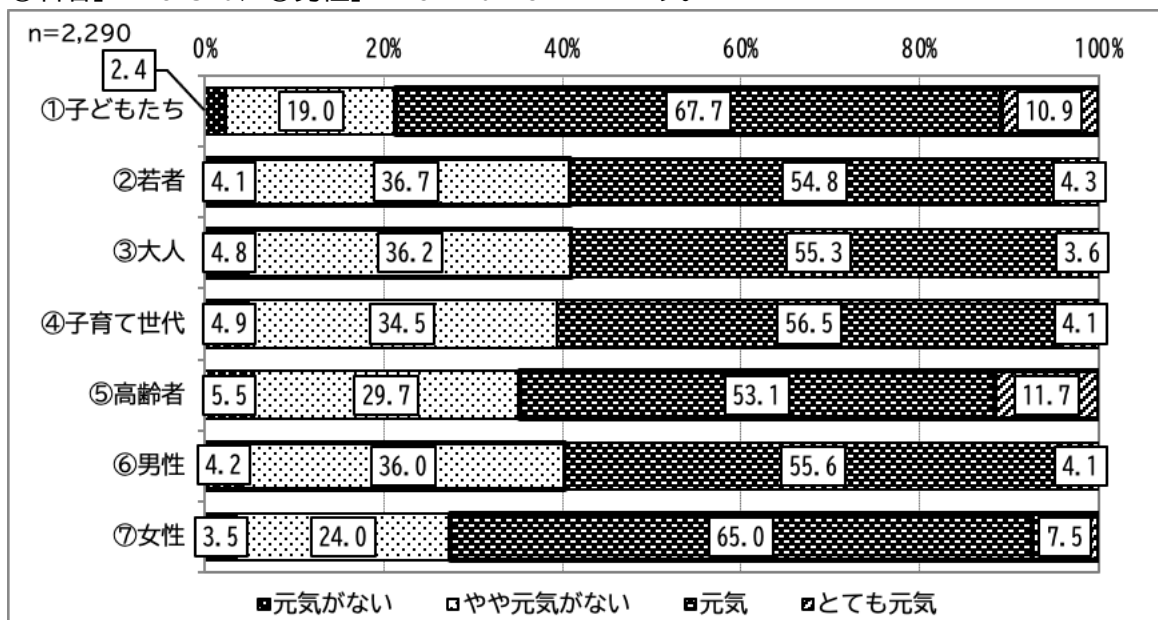


## 4.人やまちの元気さや活気について

### (1) 元気さについて

『元気』(「とても元気」「元気」の合計)について、「①子どもたち」が78.6%と最も多く、次いで「⑦女性」が72.5%、「⑤高齢者」が64.8%となっています。

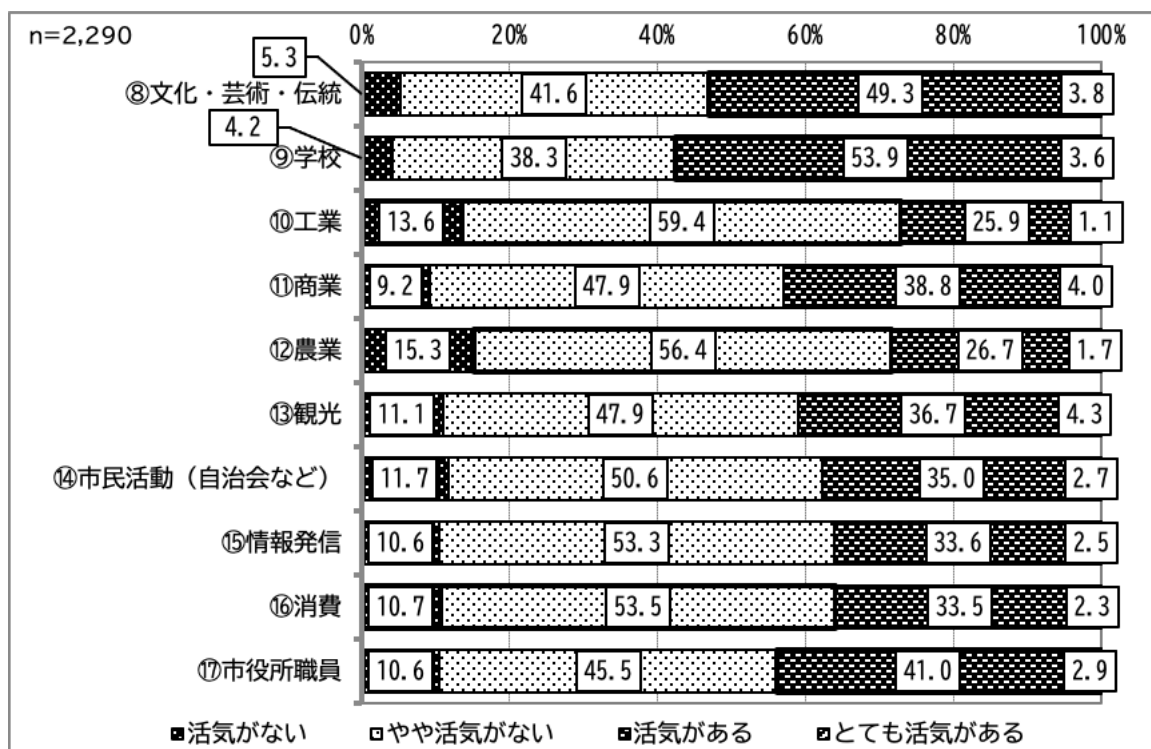
『元気がない』(「元気がない」「やや元気がない」の合計)について、「③大人」が41.0%と最も多く、次いで「②若者」が40.8%、「⑥男性」が40.2%となっています。



### (2) 活気について

『活気がある』(「とても活気がある」「活気がある」の合計)について、「⑨学校」が57.5%と最も多く、次いで「⑧文化・芸術・伝統」が53.1%、「⑰市役所職員」が43.9%となっています。

一方、『活気がない』(「活気がない」「やや活気がない」の合計)について、「⑩工業」が73.0%と最も多く、次いで「⑫農業」が71.7%、「⑬消費」が64.2%となっています。



## 5.日ごろの活動について

「①自分の知識や経験を活かし、ボランティア活動や市民活動をしている。」では、『行っている』(「行っている」「どきどき行っている」の合計)が14.0%となっています。また、「全く行っていない」が51.2%となっています。

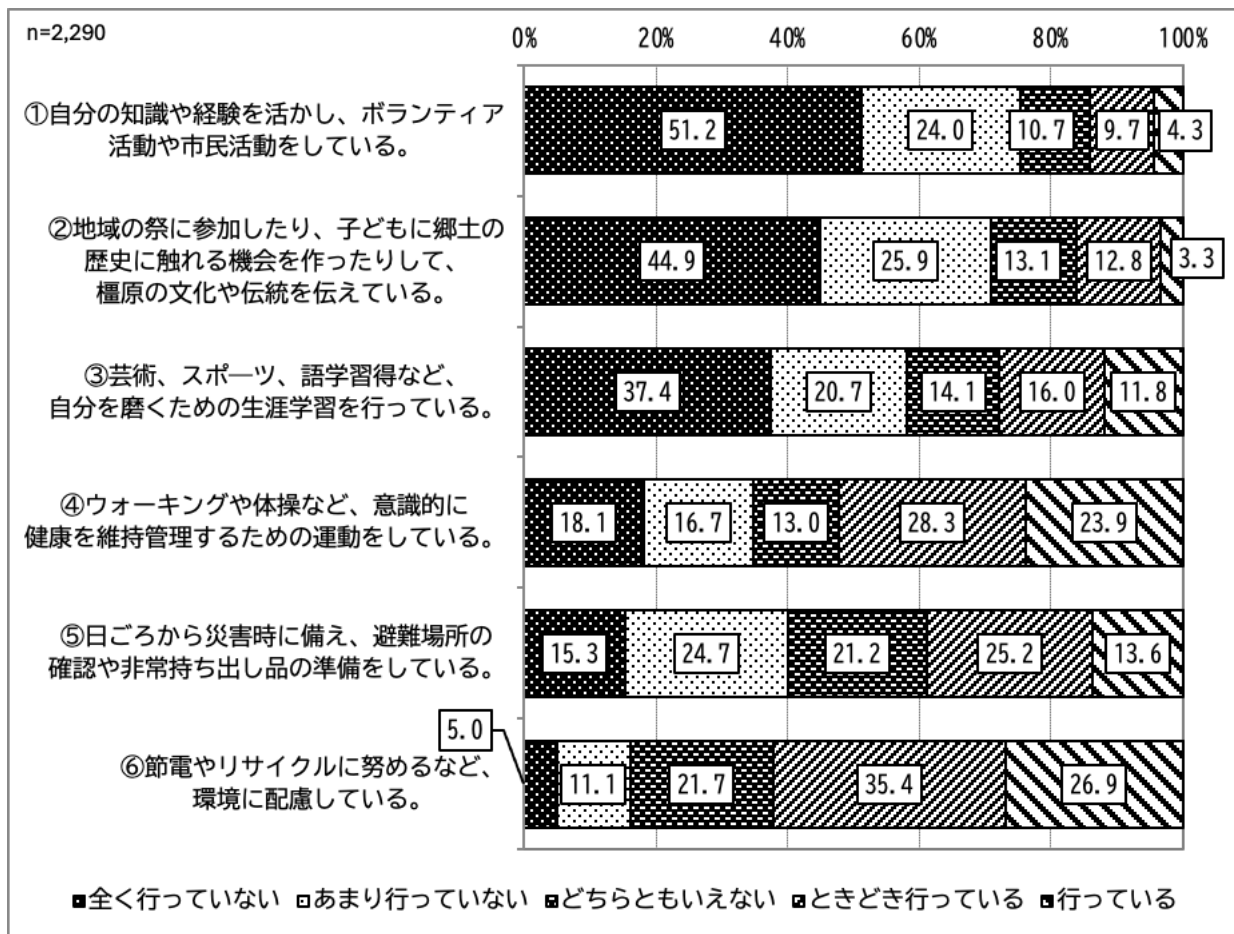
「②地域の祭に参加したり、子どもに郷土の歴史に触れる機会を作ったりして、橿原の文化や伝統を伝えている。」では、『行っている』(「行っている」「どきどき行っている」の合計)が16.1%となっています。また、「全く行っていない」が44.9%となっています。

「③芸術、スポーツ、語学習得など、自分を磨くための生涯学習を行っている。」では、『行っている』(「行っている」「どきどき行っている」の合計)が27.8%となっています。また、「全く行っていない」が37.4%となっています。

「④ウォーキングや体操など、意識的に健康を維持管理するための運動をしている」では、『行っている』(「行っている」「どきどき行っている」の合計)が52.2%となっています。また、「全く行っていない」が18.1%となっています。

「⑤日ごろから災害時に備え、避難場所の確認や非常持ち出し品の準備をしている。」では、『行っている』(「行っている」「どきどき行っている」の合計)が38.8%となっています。また、「全く行っていない」が15.3%となっています。

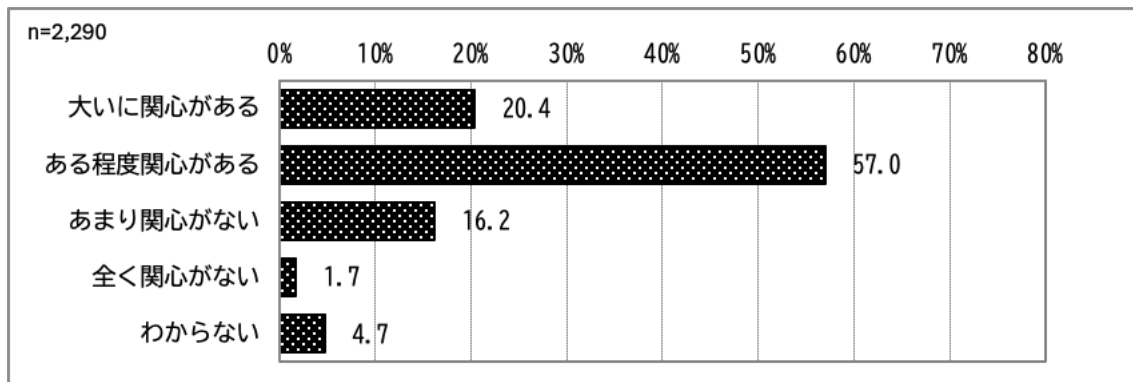
「⑥節電やリサイクルに努めるなど、環境に配慮している。」では、『行っている』(「行っている」「どきどき行っている」の合計)が62.3%となっています。また、「全く行っていない」が5.0%となっています。



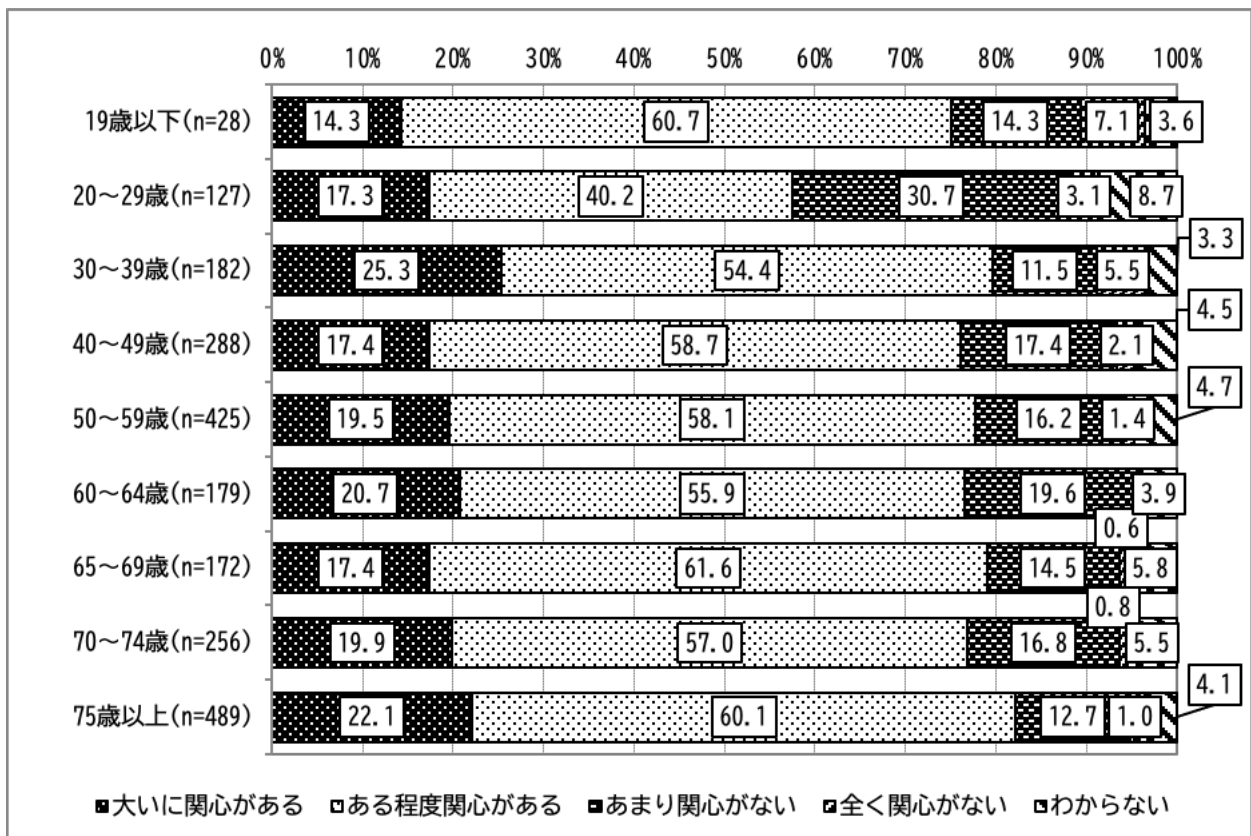
## 6.これからのまちづくりについて

### (1) 市政への関心

「ある程度関心がある」が57.0%と最も多く、次いで「大いに関心がある」が20.4%となっています。

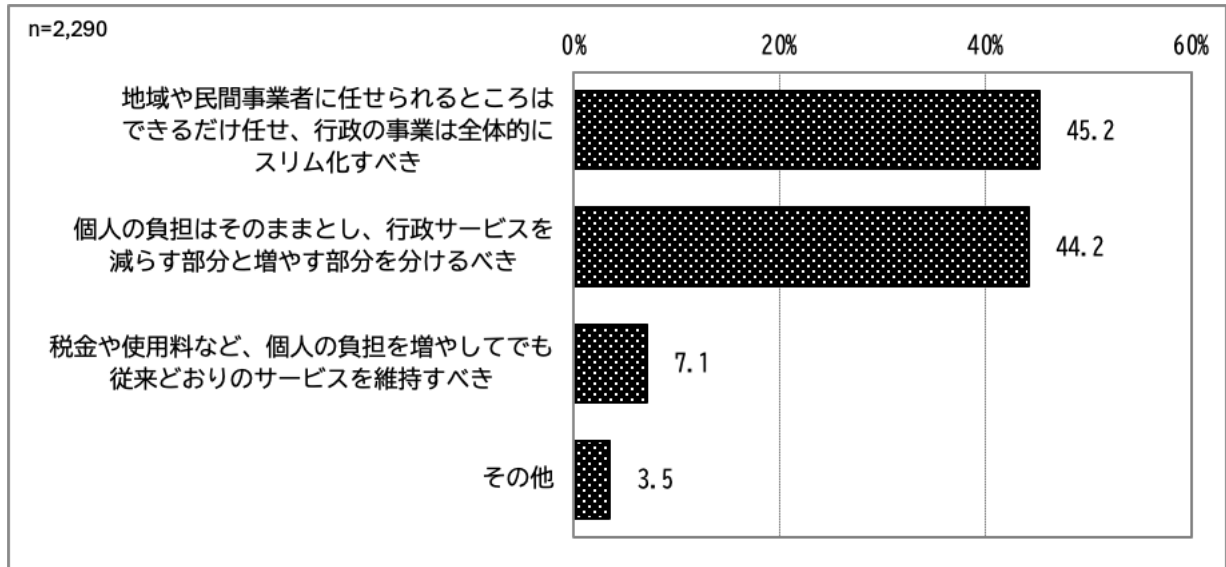


年代別にみると、「大いに関心がある」「ある程度関心がある」の合計について、ほとんどの年代で70.0%以上となっていますが、「20～29歳」において、57.5%となっています。

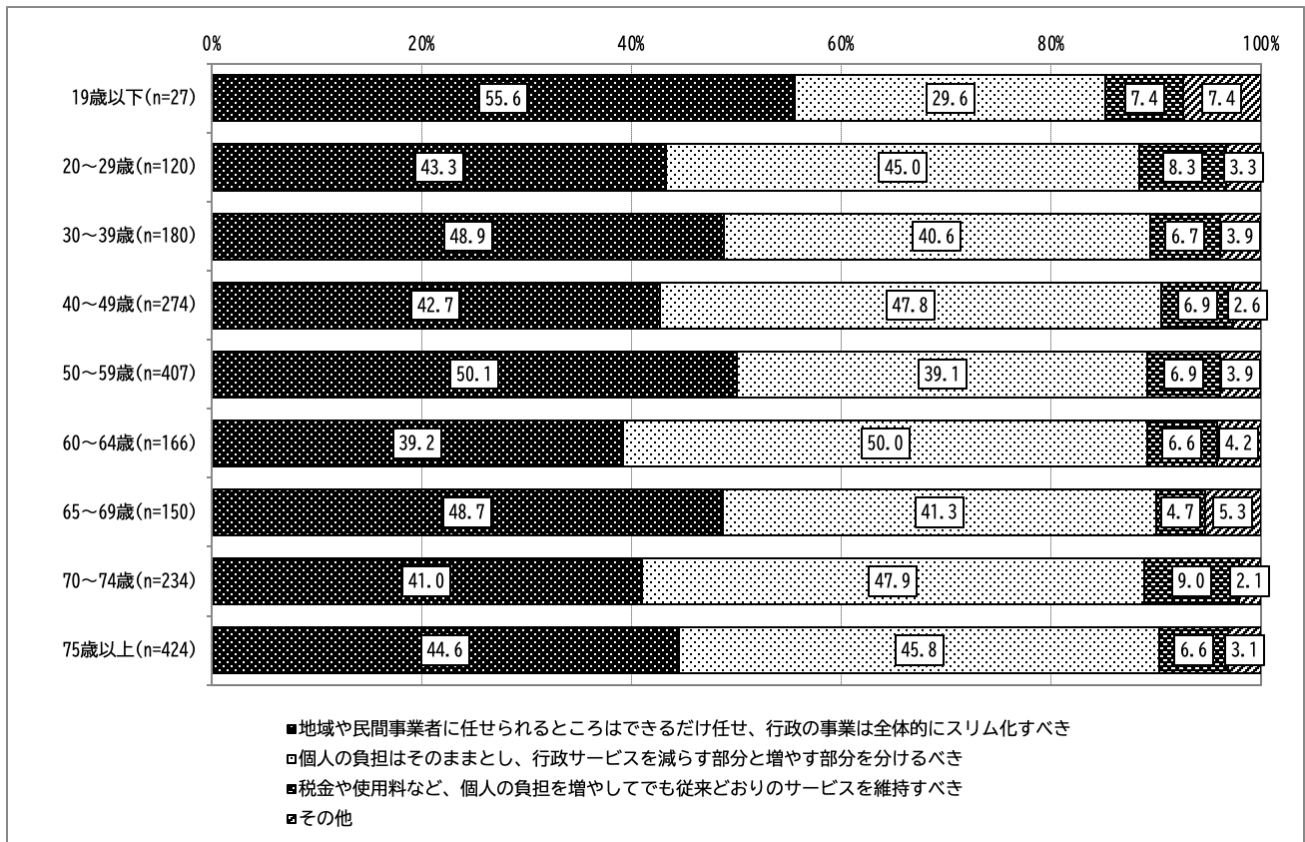


## (2) 厳しい財政状況下での市民と行政の役割について

「地域や民間事業者任せられるところはできるだけ任せ、行政の事業は全体的にスリム化すべき」が45.2%と最も多く、次いで「個人の負担はそのままとし、行政サービスを減らす部分と増やす部分に分けるべき」が44.2%となっています。

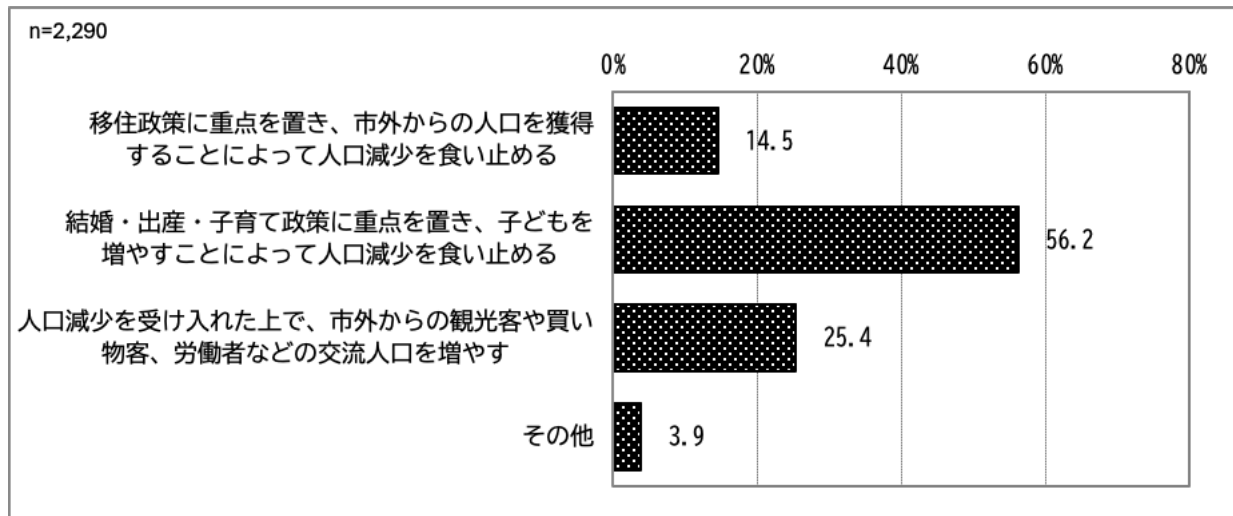


年代別にみると、大きな差はみられません。

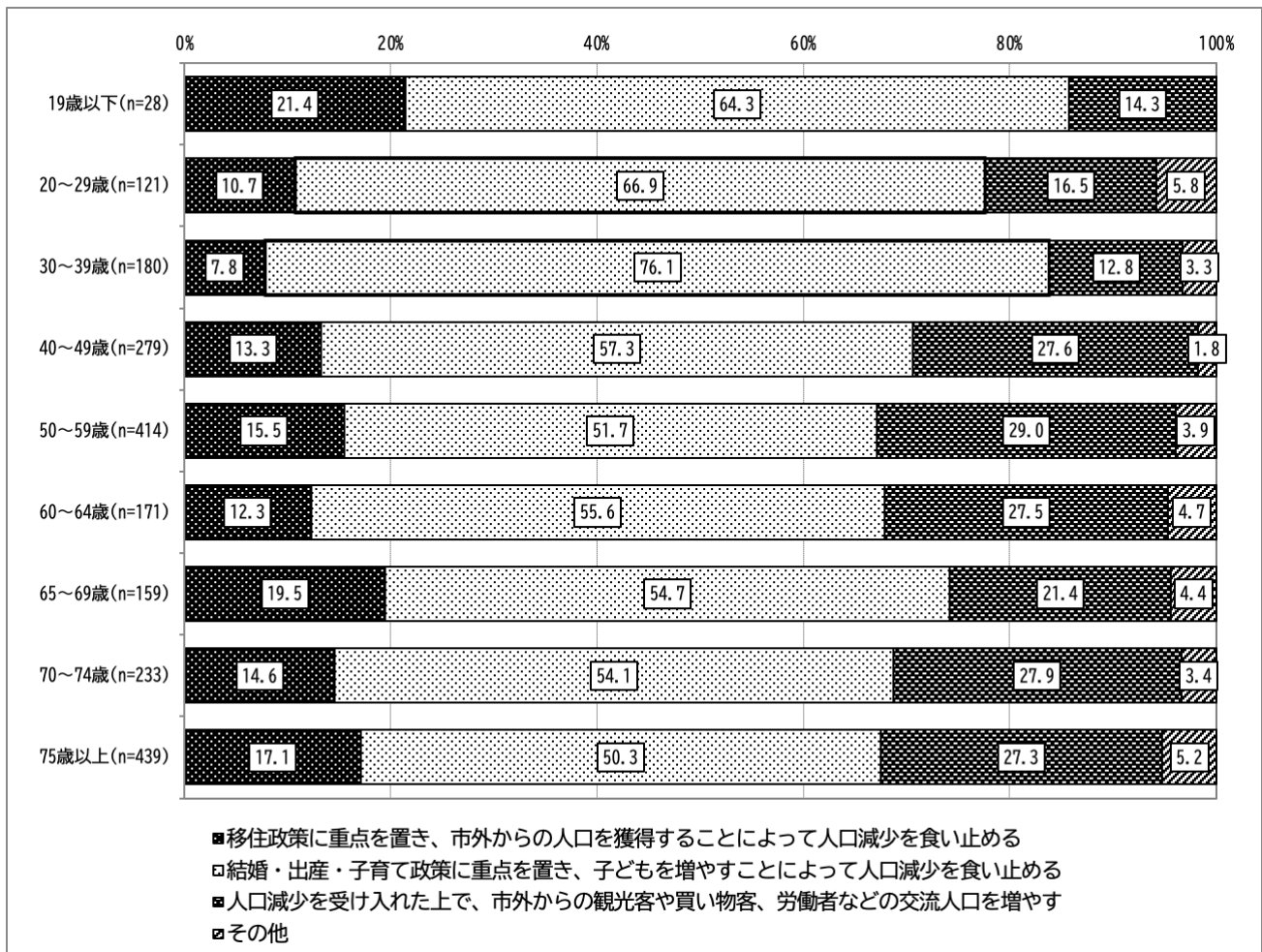


### (3)人口減少下で檀原市が取るべき施策

「結婚・出産、子育て政策に重点を置き、子どもを増やすことによって人口減少を食い止める」が56.2%と最も多く、次いで「人口減少を受け入れた上で、市外からの観光客や買い物客、労働者などの交流人口を増やす」が25.4%となっています。

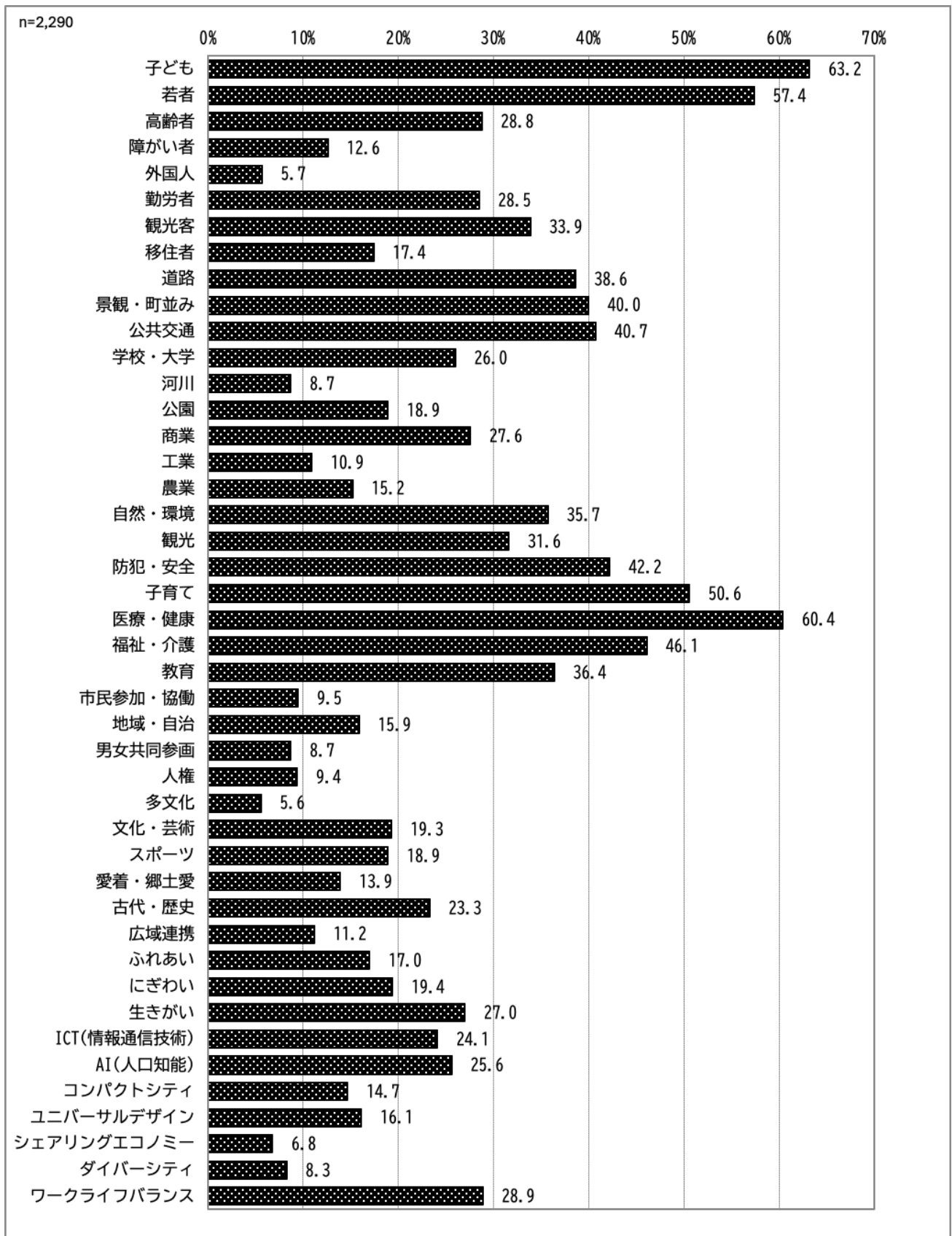


年代別にみると、「20～29歳」「30～39歳」で「結婚・出産、子育て政策に重点を置き、子どもを増やすことによって人口減少を食い止める」が多くなっています。



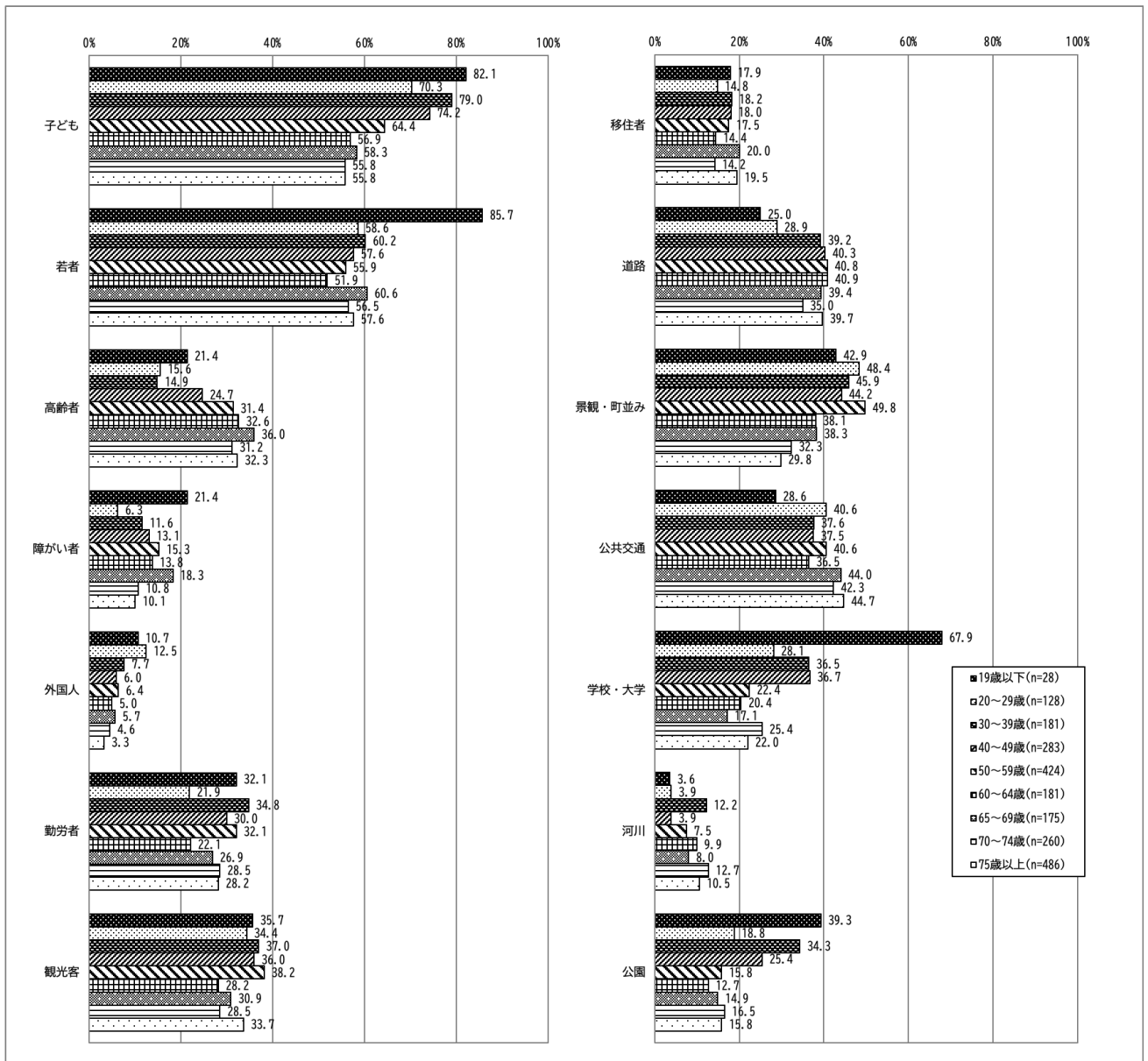
#### (4)市を特徴づけるキーワード

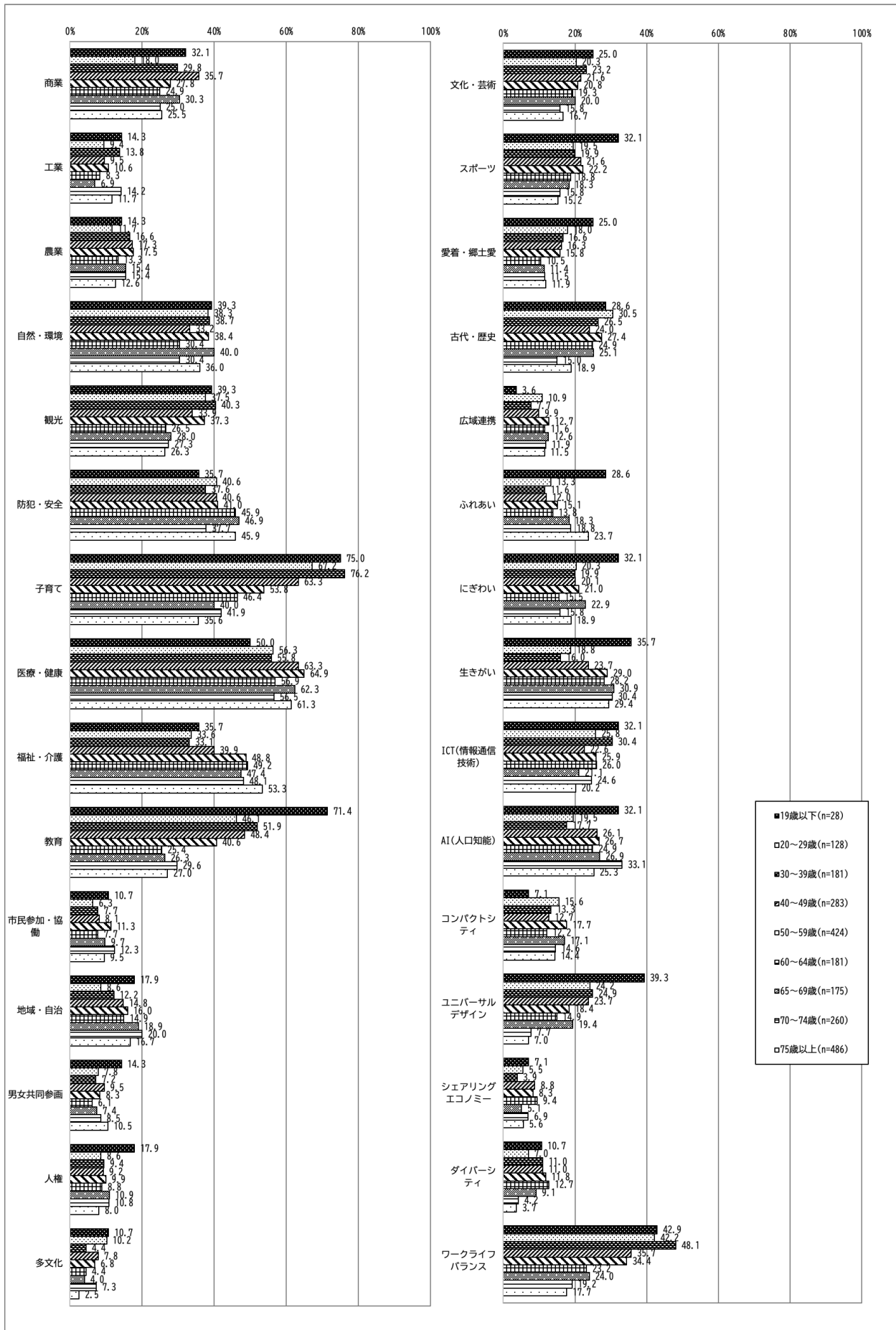
「子ども」が63.2%と最も多く、次いで「医療・健康」が60.4%、「若者」が57.4%、「子育て」が50.6%、「福祉・介護」が46.1%となっています。



年代別の上位5位のキーワードは以下のとおりです。

	19歳以下 (n=28)	20~29歳 (n=128)	30~39歳 (n=181)	40~49歳 (n=283)	50~59歳 (n=424)	60~64歳 (n=181)	65~69歳 (n=175)	70~74歳 (n=260)	75歳以上 (n=486)
1位	若者 (85.7%)	子ども (70.3%)	子ども (79.0%)	子ども (74.2%)	医療・健康 (64.9%)	子ども/ 医療・健康 (56.9%)	医療・健康 (62.3%)	若者/ 医療・健康 (56.5%)	医療・健康 (61.3%)
2位	子ども (82.1%)	子育て (67.2%)	子育て (76.2%)	子育て/ 医療・健康 (63.3%)	子ども (64.4%)	若者 (51.9%)	若者 (60.6%)	子ども (55.8%)	若者 (57.6%)
3位	子育て (75.0%)	若者 (58.6%)	若者 (60.2%)	若者 (55.9%)	若者 (53.8%)	福祉・介護 (49.2%)	子ども (58.3%)	子ども (55.8%)	子ども (55.8%)
4位	教育 (71.4%)	医療・健康 (56.3%)	医療・健康 (55.8%)	若者 (57.6%)	子育て (53.8%)	福祉・介護 (49.2%)	福祉・介護 (47.4%)	福祉・介護 (48.1%)	福祉・介護 (53.3%)
5位	学校・大学 (67.9%)	景観・ 町並み (48.4%)	教育 (51.9%)	教育 (48.4%)	景観・ 町並み (49.8%)	子育て (46.4%)	防犯・安全 (46.9%)	公共交通 (42.3%)	防犯・安全 (45.9%)





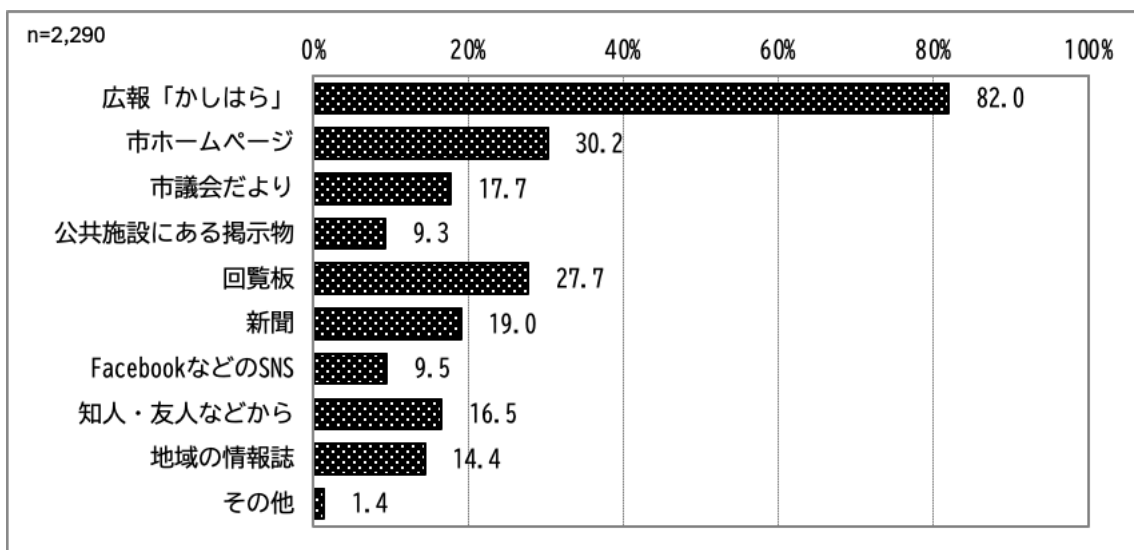
### (5)これからの橿原市についてのアイデア・意見

主な意見	件数
子育て支援に力を入れる	41件
バスの本数を増やすなど、市内の交通利便性の向上	30件
観光整備やPRに力を入れる	19件
街灯を増やし夜間も明るくするなど、治安をよくする	10件
子どもが遊べる遊具があったり、市民が散歩などができる公園の整備	9件
財政状況を鑑みた行政サービスの向上	9件
企業誘致による産業の活性化	8件

## 7.情報の伝達について

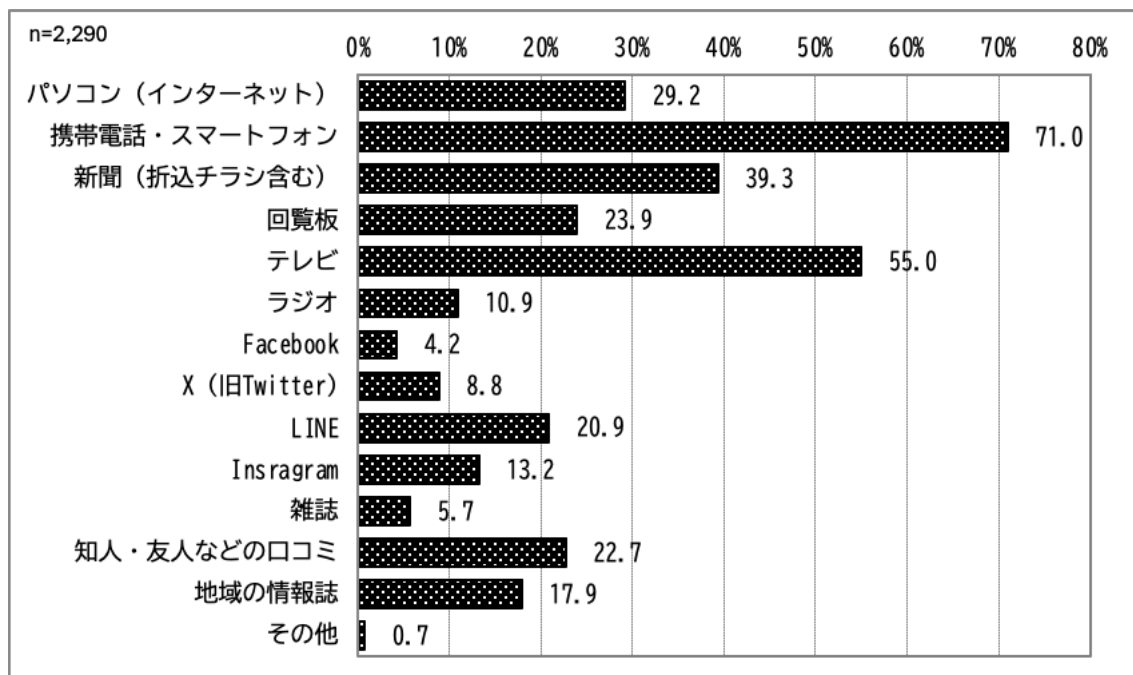
### (1)市に関する情報を入手するために利用する手段

「広報「かしはら」」が82.0%と最も多く、次いで「市ホームページ」が30.2%、次いで「回覧板」が27.7%となっています。



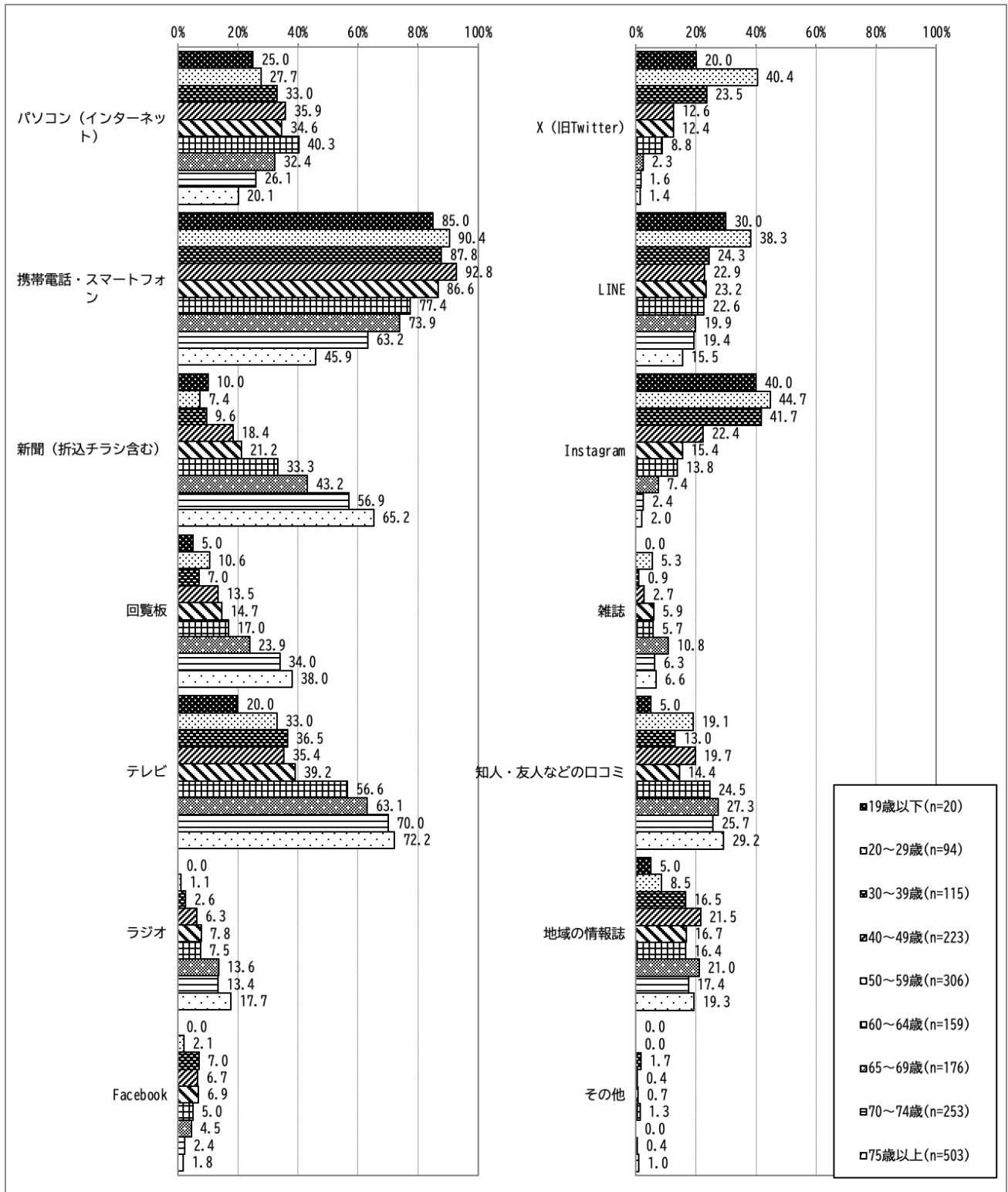
## (2)情報源になっているメディア

「携帯電話・スマートフォン」が71.0%と最も多く、次いで「テレビ」が55.0%、「新聞(折込チラシ含む)」が39.3%となっています。



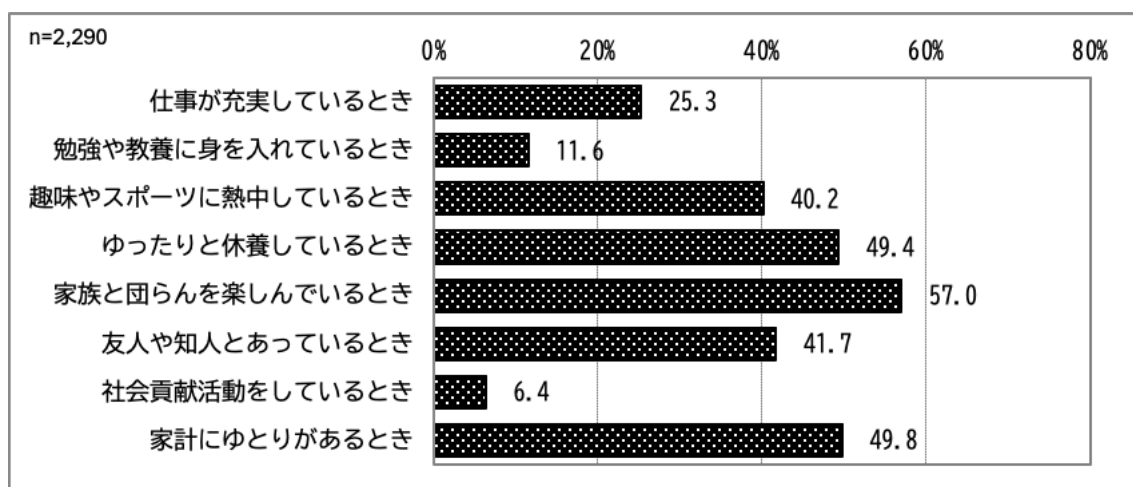
年代別の上位3位の情報源となっているメディアは以下のとおりです。

	19歳以下 (n=20)	20~29歳 (n=94)	30~39歳 (n=115)	40~49歳 (n=223)	50~59歳 (n=306)	60~64歳 (n=159)	65~69歳 (n=176)	70~74歳 (n=253)	75歳以上 (n=503)
1位	携帯電話・スマートフォン (85.0%)	携帯電話・スマートフォン (90.4%)	携帯電話・スマートフォン (87.8%)	携帯電話・スマートフォン (92.8%)	携帯電話・スマートフォン (86.6%)	携帯電話・スマートフォン (77.4%)	携帯電話・スマートフォン (73.9%)	テレビ (70.0%)	テレビ (72.2%)
2位	Instagram (40.0%)	Instagram (44.7%)	Instagram (41.7%)	パソコン (35.9%)	テレビ (39.2%)	テレビ (56.6%)	テレビ (63.1%)	携帯電話・スマートフォン (63.2%)	回覧板 (38.0%)
3位	LINE (30.0%)	X(旧Twitter) (40.4%)	テレビ (36.5%)	テレビ (35.4%)	パソコン (34.6%)	パソコン (40.3%)	新聞(折込チラシ含む) (43.2%)	新聞(折込チラシ含む) (56.9%)	知人・友人などの口コミ (29.2%)



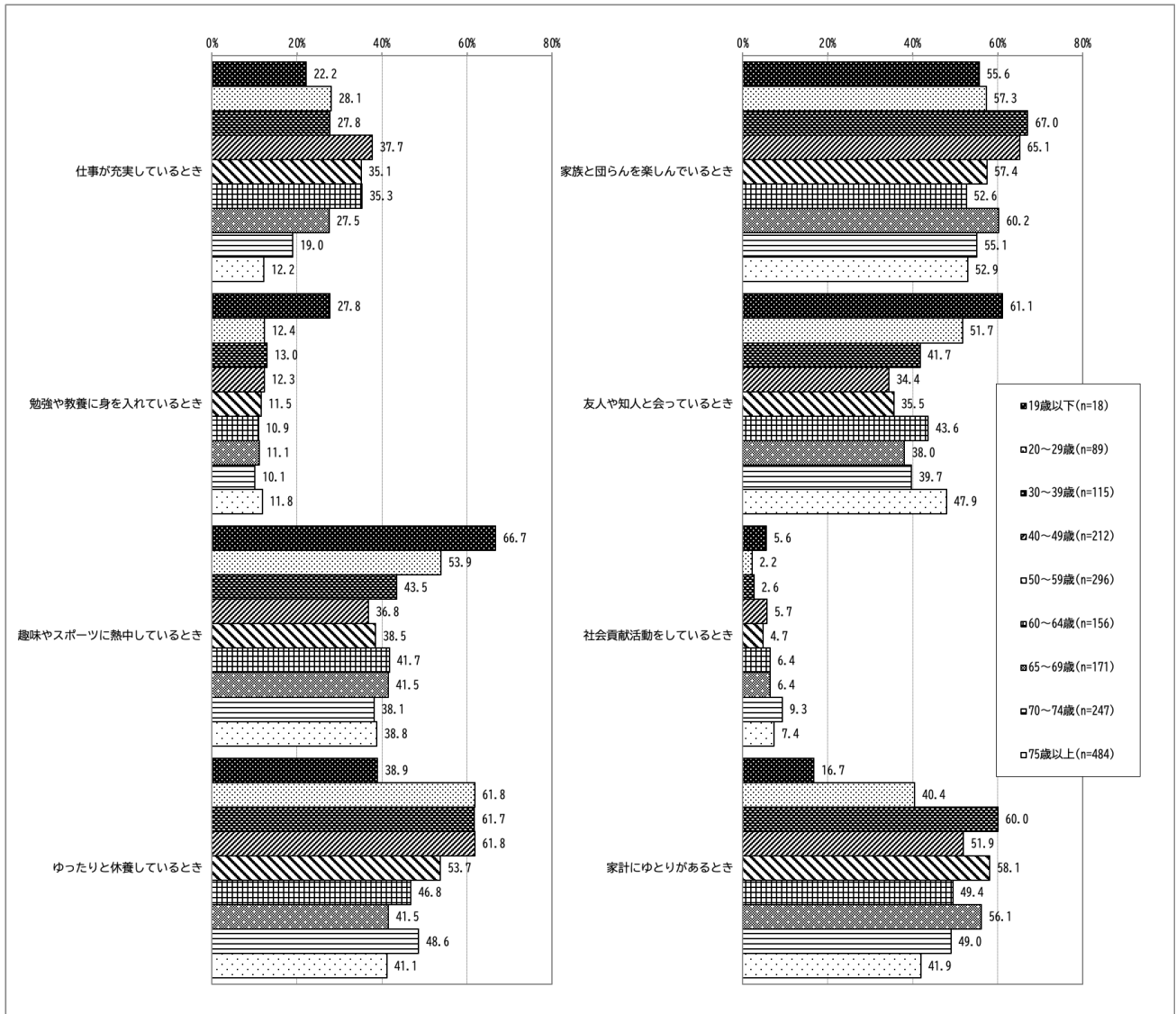
## 8.「幸せ」について

「家族と団らんを楽しんでいるとき」が57.0%と最も多く、次いで「家計にゆとりがあるとき」が49.8%、「ゆったりと休養しているとき」が49.4%となっています。



年代別の上位3位の「幸せを感じる時」は以下のとおりです。

	19歳以下 (n=18)	20～29歳 (n=89)	30～39歳 (n=115)	40～49歳 (n=212)	50～59歳 (n=296)	60～64歳 (n=156)	65～69歳 (n=171)	70～74歳 (n=247)	75歳以上 (n=484)
1位	趣味やスポーツに熱中しているとき (66.7%)	ゆったりと休養しているとき (61.8%)	家族と団らんを楽しんでいるとき (67.0%)	家族と団らんを楽しんでいるとき (65.1%)	家計にゆとりがあるとき (58.1%)	家族と団らんを楽しんでいるとき (52.6%)	家族と団らんを楽しんでいるとき (60.2%)	家族と団らんを楽しんでいるとき (55.1%)	家族と団らんを楽しんでいるとき (52.9%)
2位	家族と団らんを楽しんでいるとき (61.1%)	家族と団らんを楽しんでいるとき (57.3%)	ゆったりと休養しているとき (61.7%)	ゆったりと休養しているとき (61.8%)	家族と団らんを楽しんでいるとき (57.4%)	家計にゆとりがあるとき (49.4%)	家計にゆとりがあるとき (56.1%)	家計にゆとりがあるとき (49.0%)	友人や知人と会っているとき (47.9%)
3位	友人や知人と会っているとき (55.6%)	趣味やスポーツに熱中しているとき (53.9%)	家計にゆとりがあるとき (60.0%)	家計にゆとりがあるとき (51.9%)	ゆったりと休養しているとき (53.7%)	ゆったりと休養しているとき (46.8%)	ゆったりと休養しているとき／趣味やスポーツに熱中しているとき (41.5%)	ゆったりと休養しているとき (48.6%)	家計にゆとりがあるとき (41.9%)

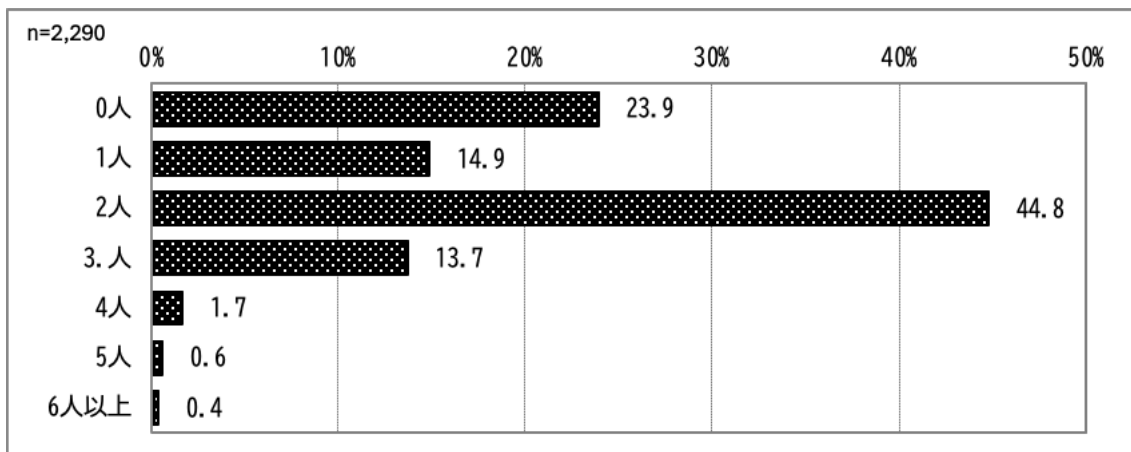


## 9.結婚観・子育て観について

### (1)子どもの人数

「2人」が44.8%と最も多く、次いで「1人」が14.9%となっています。

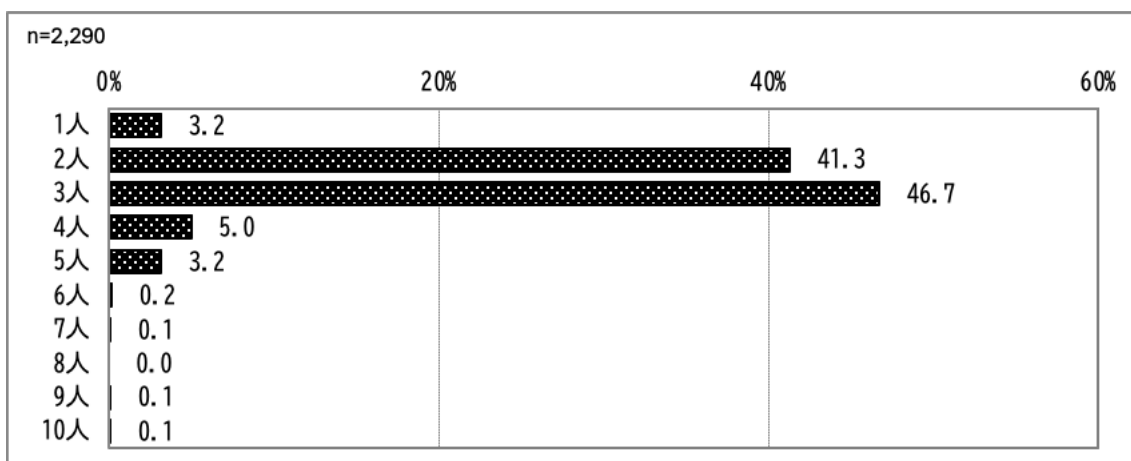
なお、「0人」が23.9%となっています。



### (2)理想とする子どもの人数と現実的に欲しい人数

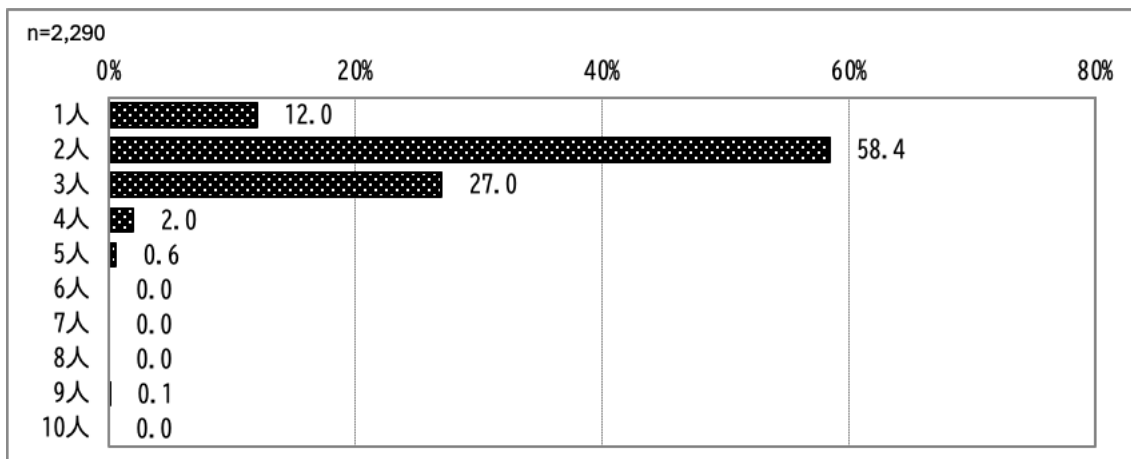
#### ①理想とする人数

「3人」が46.7%と最も多く、次いで「2人」が41.3%となっています。



#### ②現実的に欲しい人数

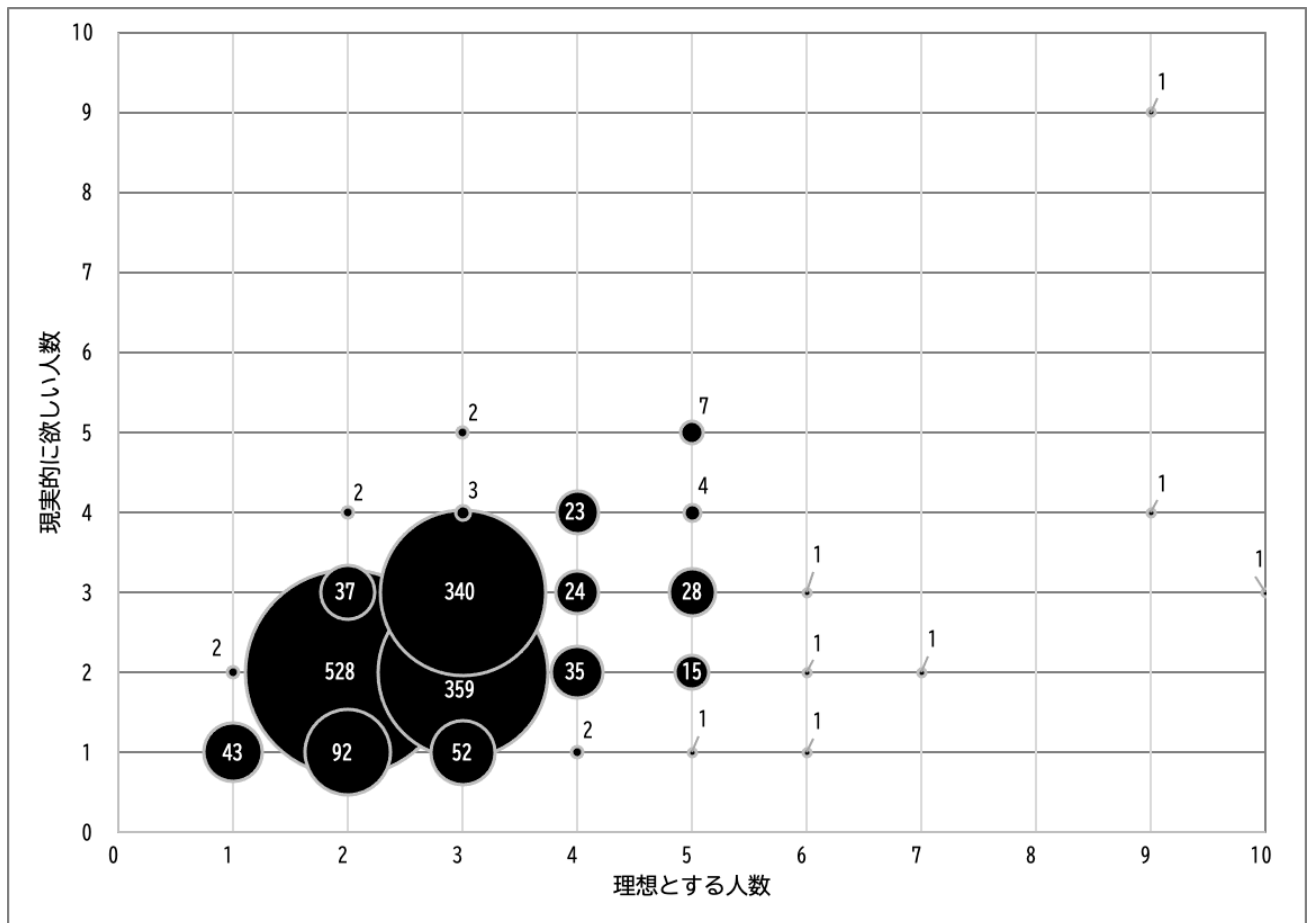
「2人」が58.4%と最も多く、次いで「3人」が27.0%、「1人」が12.0%となっています。



### ③理想とする子どもの人数と現実的に欲しい人数の差

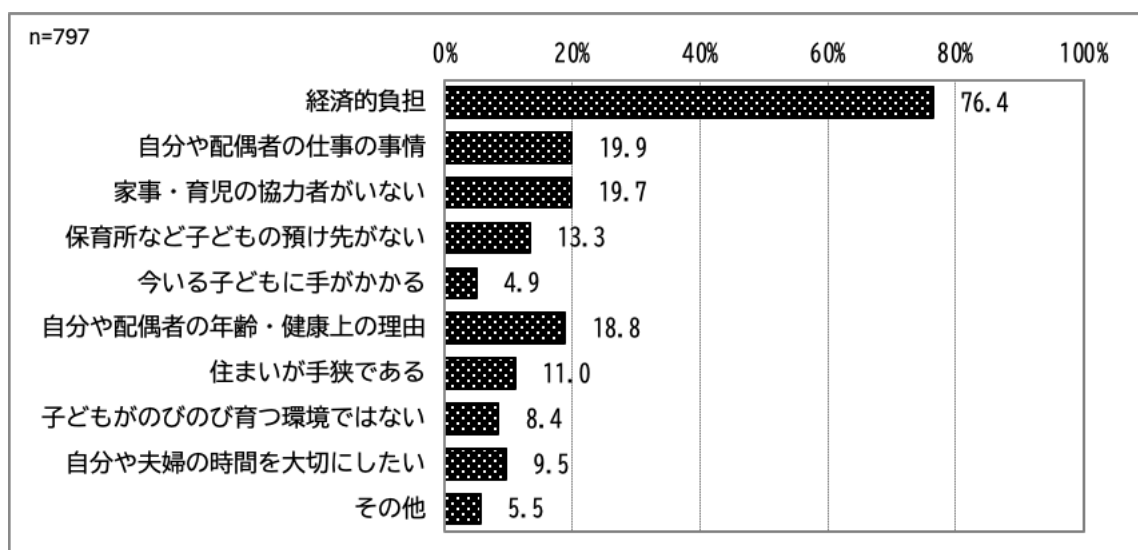
理想とする子どもの人数と現実的に欲しい人数について、一致している人が多くなっています。

一致していない状況では、「理想とする子どもの人数が3人に対して、現実的に欲しい人数が1人」「理想とする子どもの人数が2人に対して、現実的に欲しい人数が1人」が多くなっています。



### (3)理想とする子どもの人数よりも現実的に欲しい人数が少ない理由

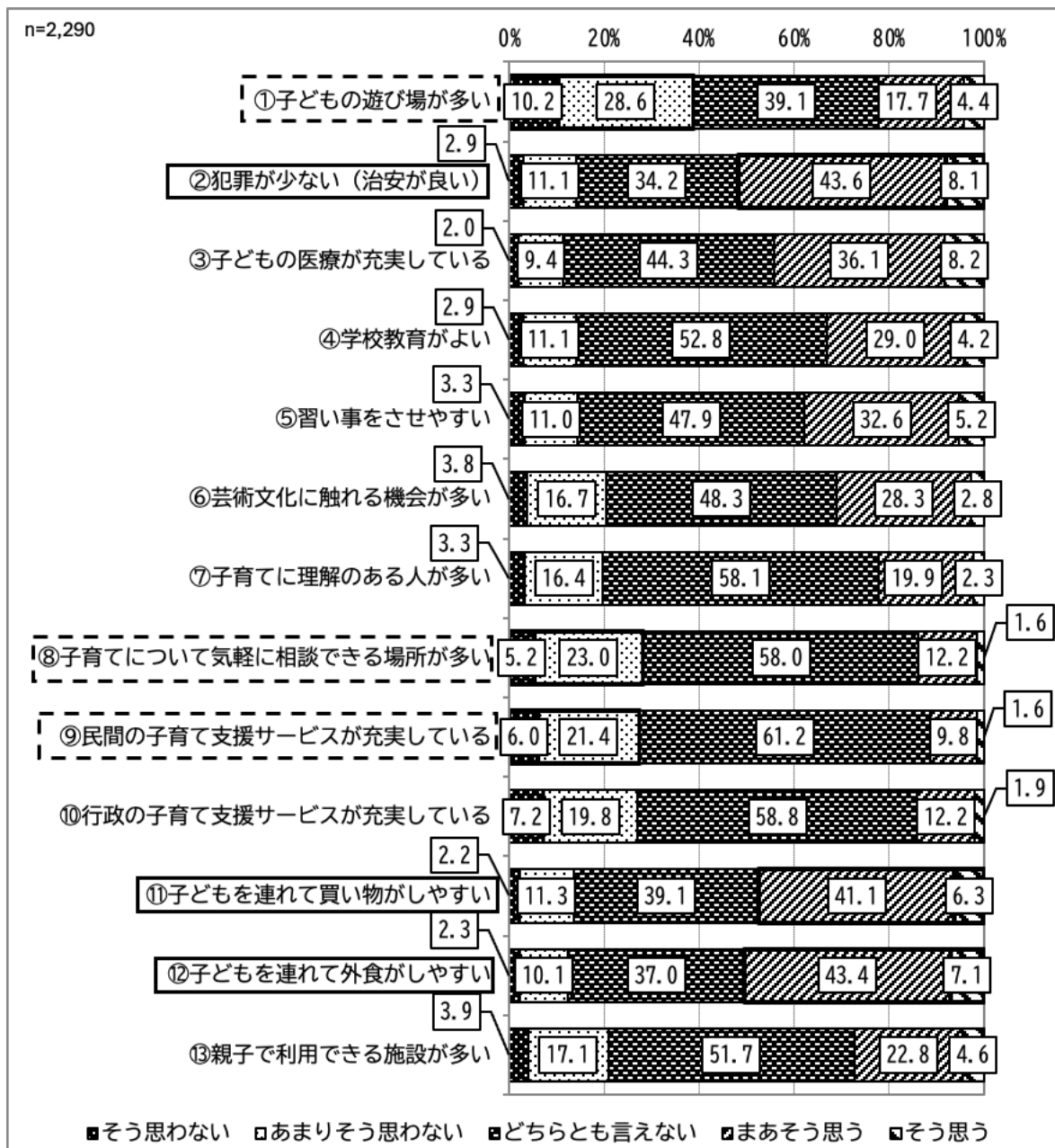
「経済的負担」が76.4%と最も多く、次いで「自分や配偶者の仕事の事情」が19.9%、「家事・育児の協力者がいない」が19.7%となっています。



#### (4) 檀原市の子育て環境について

『そう思う』(「そう思う」「まあそう思う」の合計)について、「②犯罪が少ない(治安が良い)」が51.7%と最も多く、次いで「⑫子どもを連れて外食がしやすい」が50.5%、「⑩子どもを連れて買い物がしやすい」が47.4%となっています。

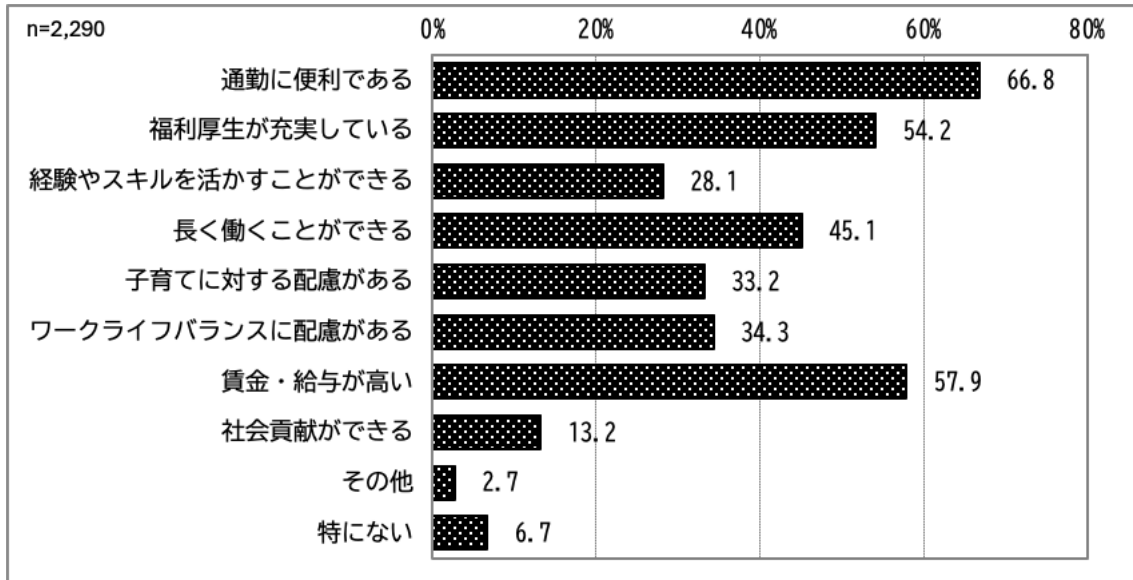
一方、『そう思わない』(「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計)について、「①子どもの遊び場が多い」が38.8%と最も多く、次いで「⑧子育てについて気軽に相談できる場所が多い」が28.2%、「⑨民間の子育て支援サービスが充実している」が27.4%となっています。



## 10.仕事について

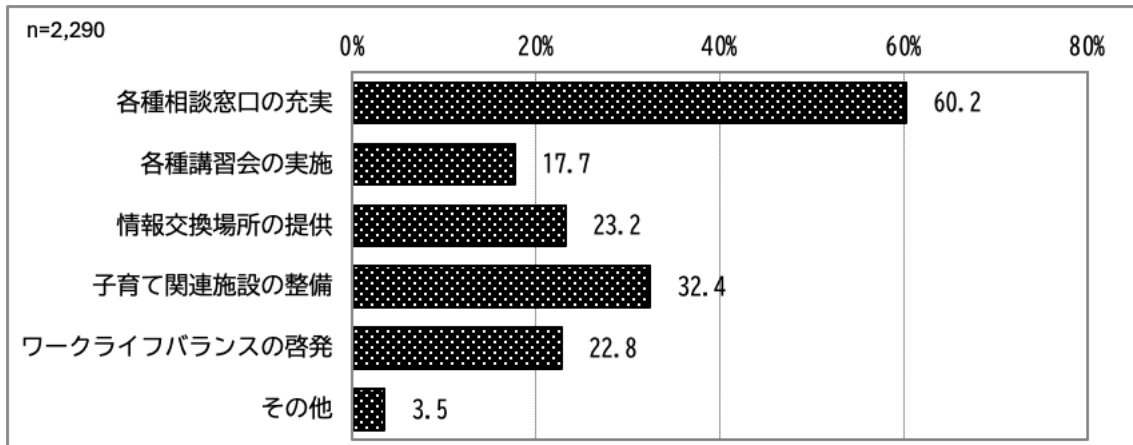
### (1)就業先に求めること

「通勤に便利である」が66.8%と最も多く、次いで「賃金・給与が高い」が57.9%、「福利厚生が充実している」が54.2%となっています。



### (2)仕事全般に関して、行政に求めること

「各種相談窓口の充実」が60.2%と最も多く、次いで「子育て関連施設の整備」が32.4%、「情報交換場所の提供」が23.2%となっています。

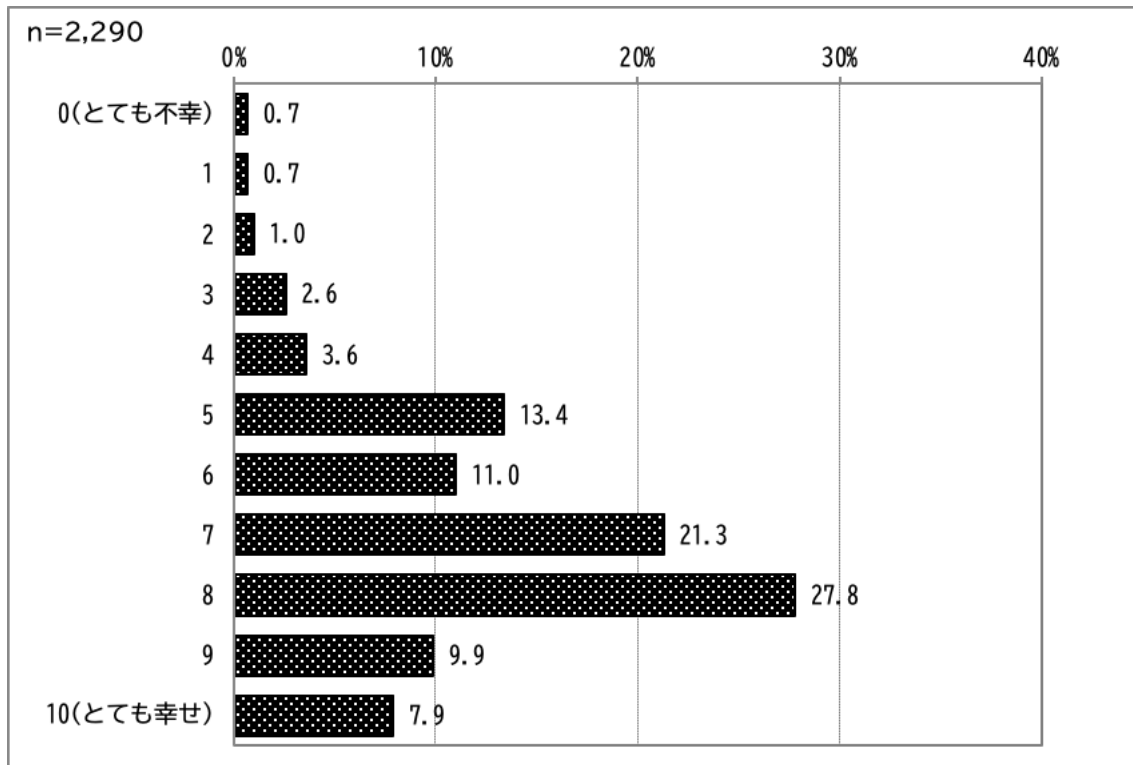


## 11.暮らしている地域における幸福度・満足度について

### (1)地域における幸福度・満足度

#### ①現在、どの程度幸せに感じているか

「8点」が27.8%と最も多く、次いで「7点」が21.3%、「5点」が13.4%となっています。



#### 年代別平均点

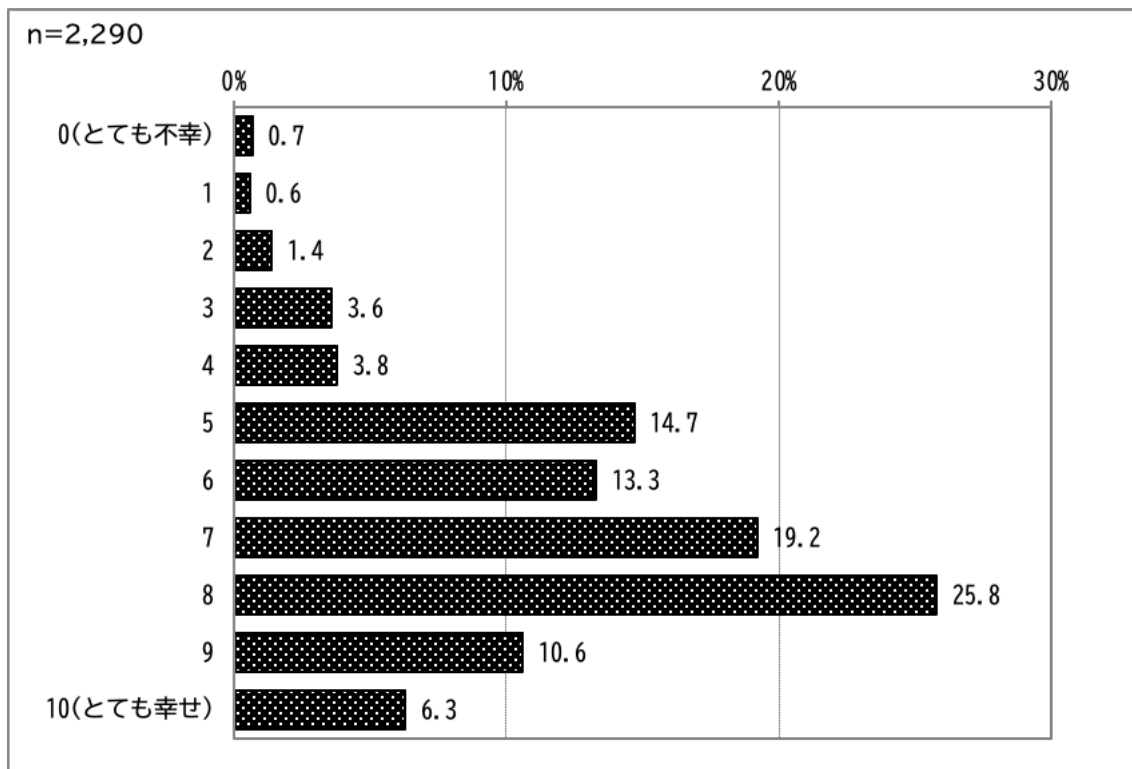
年代別の平均点をみると、「70～74歳」が7.14点と最も高く、次いで「75歳以上」が7.09点、「65～69歳」が7.03点となっています。

年代	平均点
19歳以下(n=28)	7.50
20～29歳(n=124)	6.79
30～39歳(n=181)	6.94
40～49歳(n=282)	6.83
50～59歳(n=422)	6.93
60～64歳(n=174)	6.84
65～69歳(n=174)	7.03
70～74歳(n=256)	7.14
75歳以上(n=485)	7.09
全体	6.98

※平均点は不明／無回答を除いて算出

②今から5年後、どの程度幸せだと思うか

「9点」が25.8%と最も多く、次いで「7点」が19.2%、「5点」が14.7%となっています。



年代別平均点

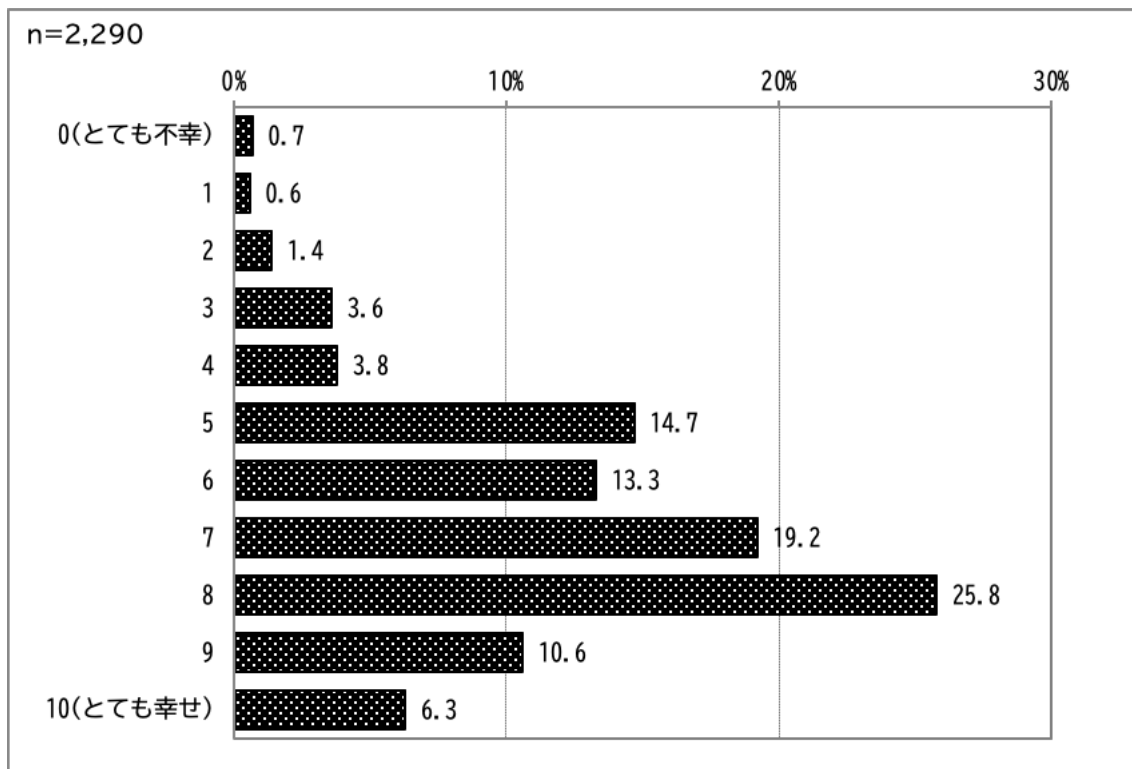
年代別の平均点を見ると、「20～29歳」が7.13点と最も高く、次いで「30～39歳」が6.94点、「40～49歳」が6.73点となっています。

年代	平均点
19歳以下(n=28)	7.00
20～29歳(n=125)	7.13
30～39歳(n=181)	6.94
40～49歳(n=283)	6.73
50～59歳(n=422)	6.58
60～64歳(n=175)	6.39
65～69歳(n=174)	6.53
70～74歳(n=256)	6.47
75歳以上(n=468)	6.35
全体	6.59

※平均点は不明／無回答を除いて算出

③現在、住んでいる地域の暮らしにどの程度満足しているか

「8点」が25.8%と最も多く、次いで「7点」が19.2%、「5点」が14.7%となっています。



年代別平均点

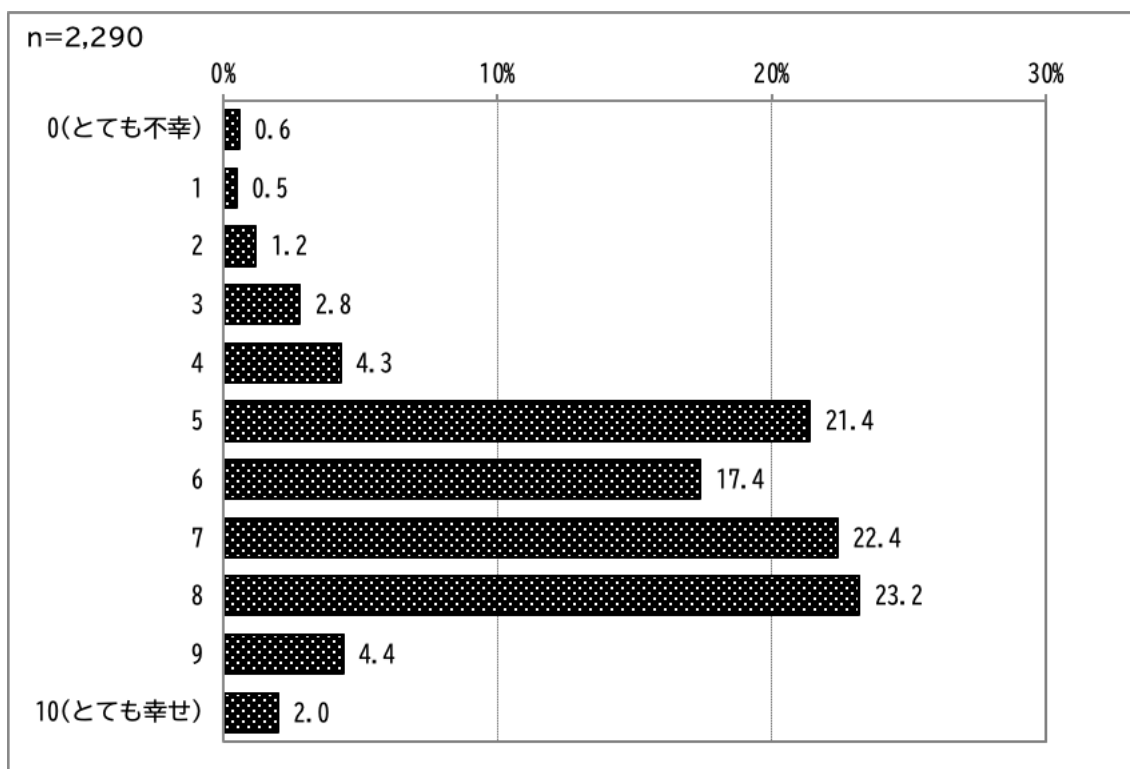
年代別の平均点を見ると、「65～69歳」が7.03点と最も高く、次いで「70～74歳」が6.96点、「50～59歳」が6.90点となっています。

年代	平均点
19歳以下(n=28)	7.25
20～29歳(n=125)	6.56
30～39歳(n=181)	6.63
40～49歳(n=284)	6.76
50～59歳(n=422)	6.90
60～64歳(n=175)	6.63
65～69歳(n=174)	7.03
70～74歳(n=257)	6.96
75歳以上(n=486)	6.82
全体	6.82

※平均点は不明／無回答を除いて算出

④町内(集落)の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思うか

「8点」が23.2%と最も多く、次いで「7点」が22.4%、「5点」が21.4%となっています。



年代別平均点

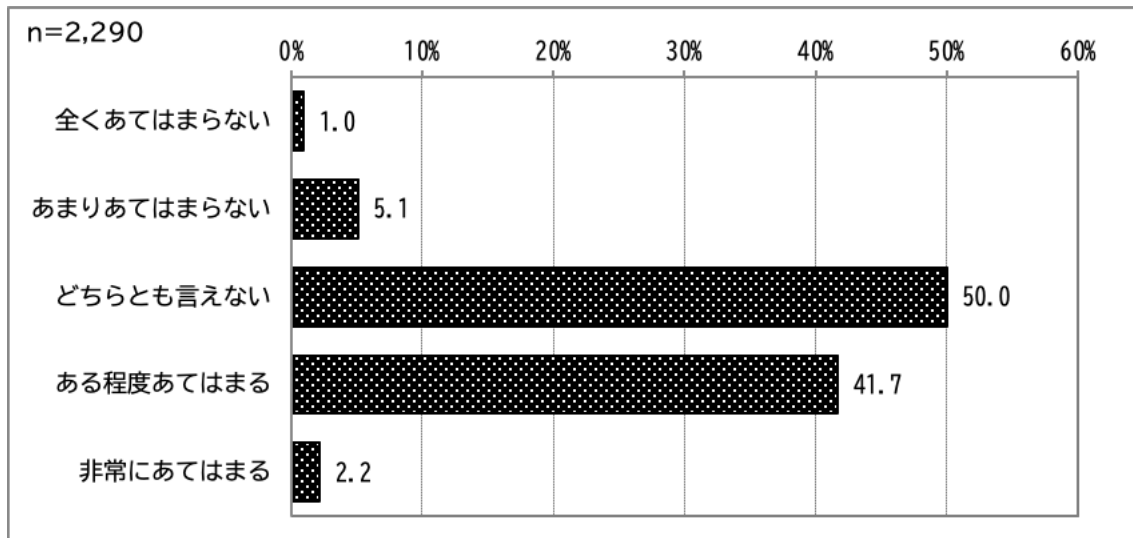
年代別の平均点を見ると、「65～69歳」、「70～74歳」が6.54点と最も高く、次いで「40～49歳」が6.44点となっています。

年代	平均点
19歳以下(n=28)	6.54
20～29歳(n=124)	6.11
30～39歳(n=178)	6.26
40～49歳(n=282)	6.44
50～59歳(n=418)	6.42
60～64歳(n=168)	6.38
65～69歳(n=170)	6.54
70～74歳(n=253)	6.54
75歳以上(n=460)	6.39
全体	6.41

※平均点は不明／無回答を除いて算出

⑤自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思うか

「どちらとも言えない」が50.0%と最も多く、次いで「ある程度あてはまる」が41.7%、「あまりあてはまらない」が5.1%となっています。



年代別平均点

年代別の平均点をみると、「20～29歳」が3.52点と最も高く、次いで「30～39歳」が3.45点、「40～49歳」が3.44点となっています。

年代	平均点
19歳以下 (n=28)	3.75
20～29歳 (n=124)	3.52
30～39歳 (n=176)	3.45
40～49歳 (n=279)	3.44
50～59歳 (n=421)	3.36
60～64歳 (n=172)	3.38
65～69歳 (n=173)	3.34
70～74歳 (n=250)	3.36
75歳以上 (n=472)	3.34
全体	3.39

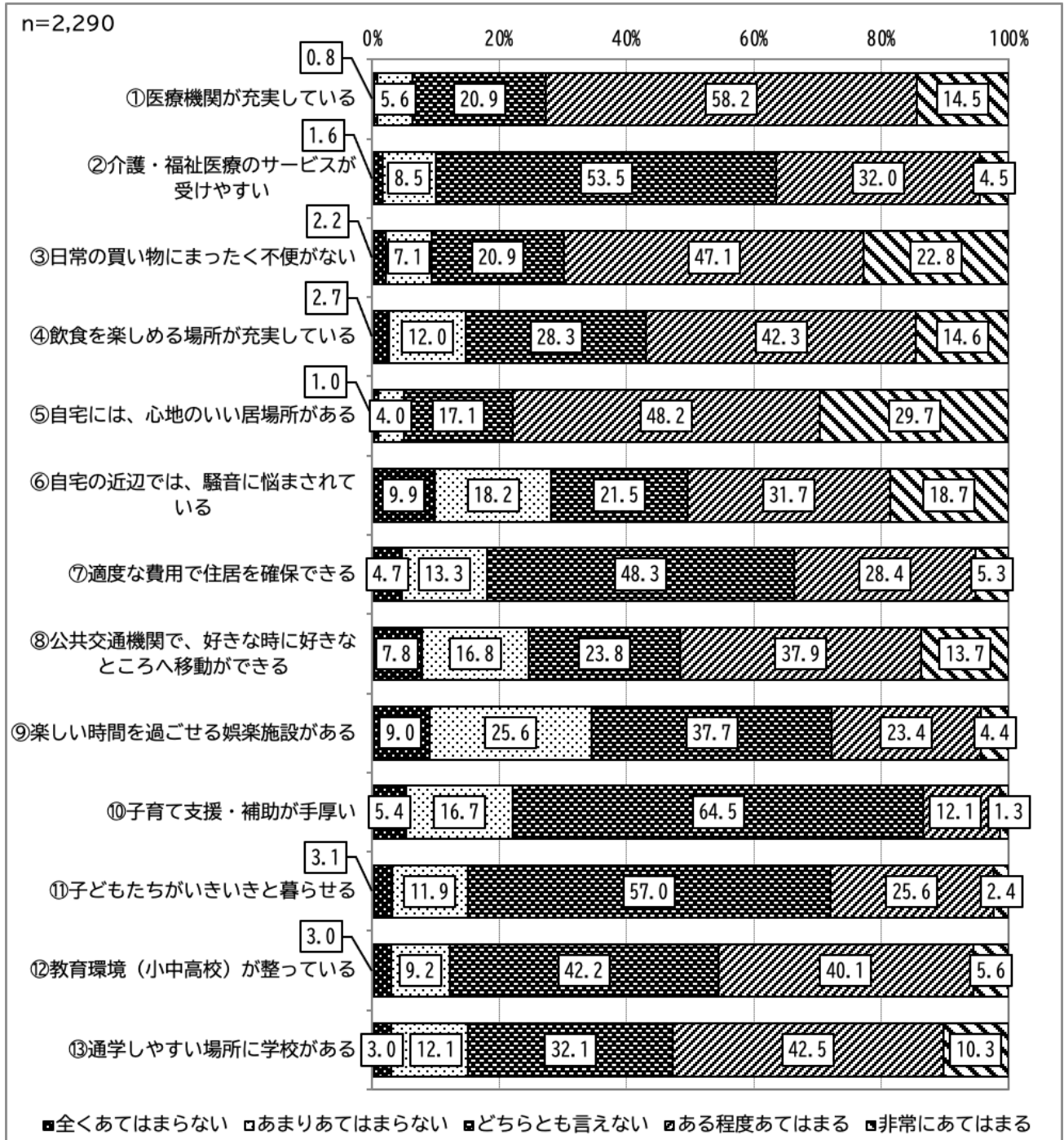
1 = 全くあてはまらない    2 = あまりあてはまらない    3 = どちらとも言えない  
 4 = ある程度あてはまる    5 = 非常にあてはまる

※平均点は不明／無回答を除いて算出

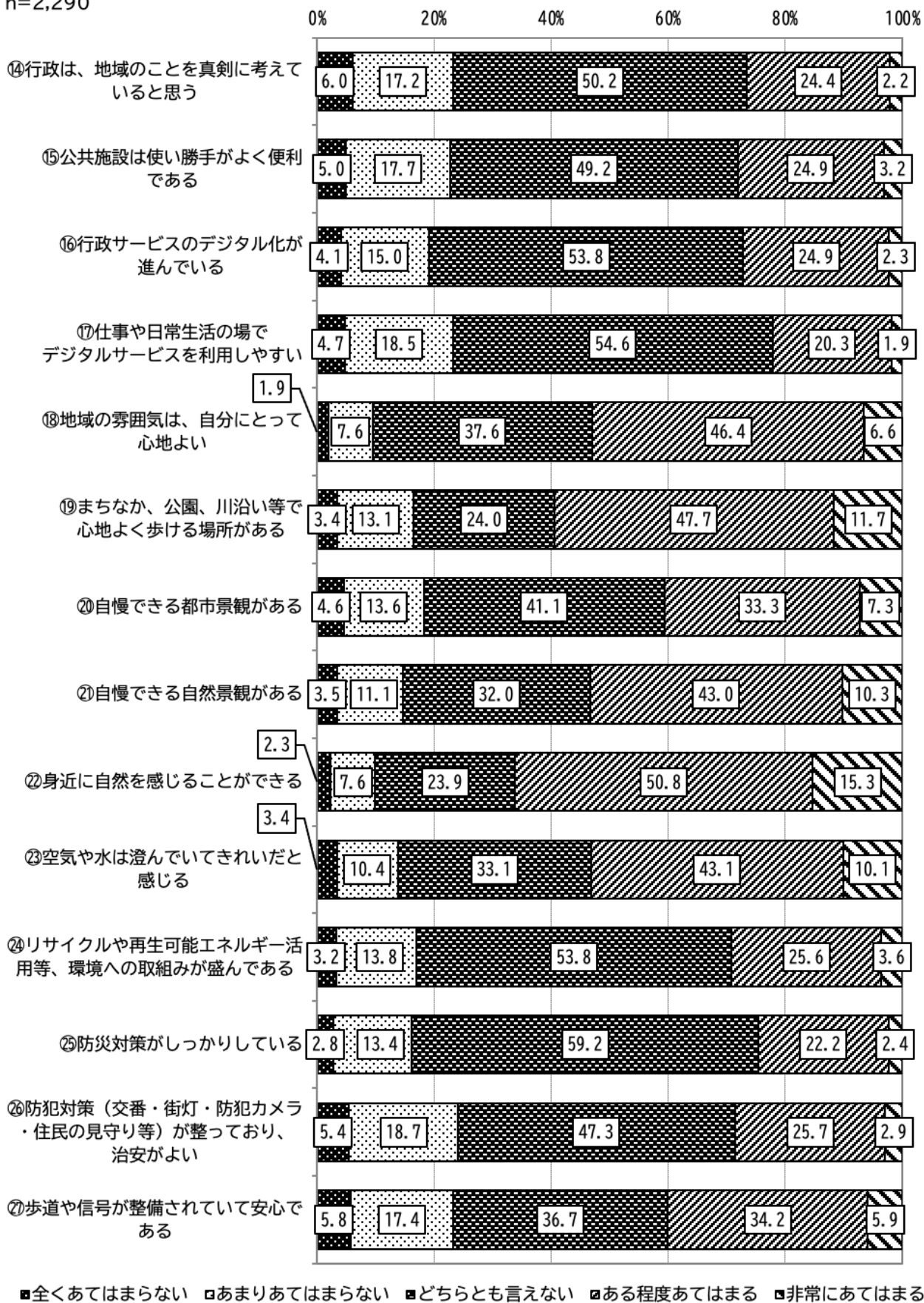
## (2)生活環境

『あてはまる』(「非常にあてはまる」「ある程度あてはまる」の合計)について、「⑤自宅には、居心地のいい居場所がある」が77.9%と最も多く、次いで「①医療機関が充実している」が72.7%、「③日常の買い物にまったく不便がない」が69.9%となっています。

一方、『あてはまらない』(「全くあてはまらない」「あまりあてはまらない」の合計)について、「⑨楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある」が34.6%と最も多く、「⑥自宅の近辺では、騒音に悩まされている」が28.1%、「⑧公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる」が24.6%となっています。



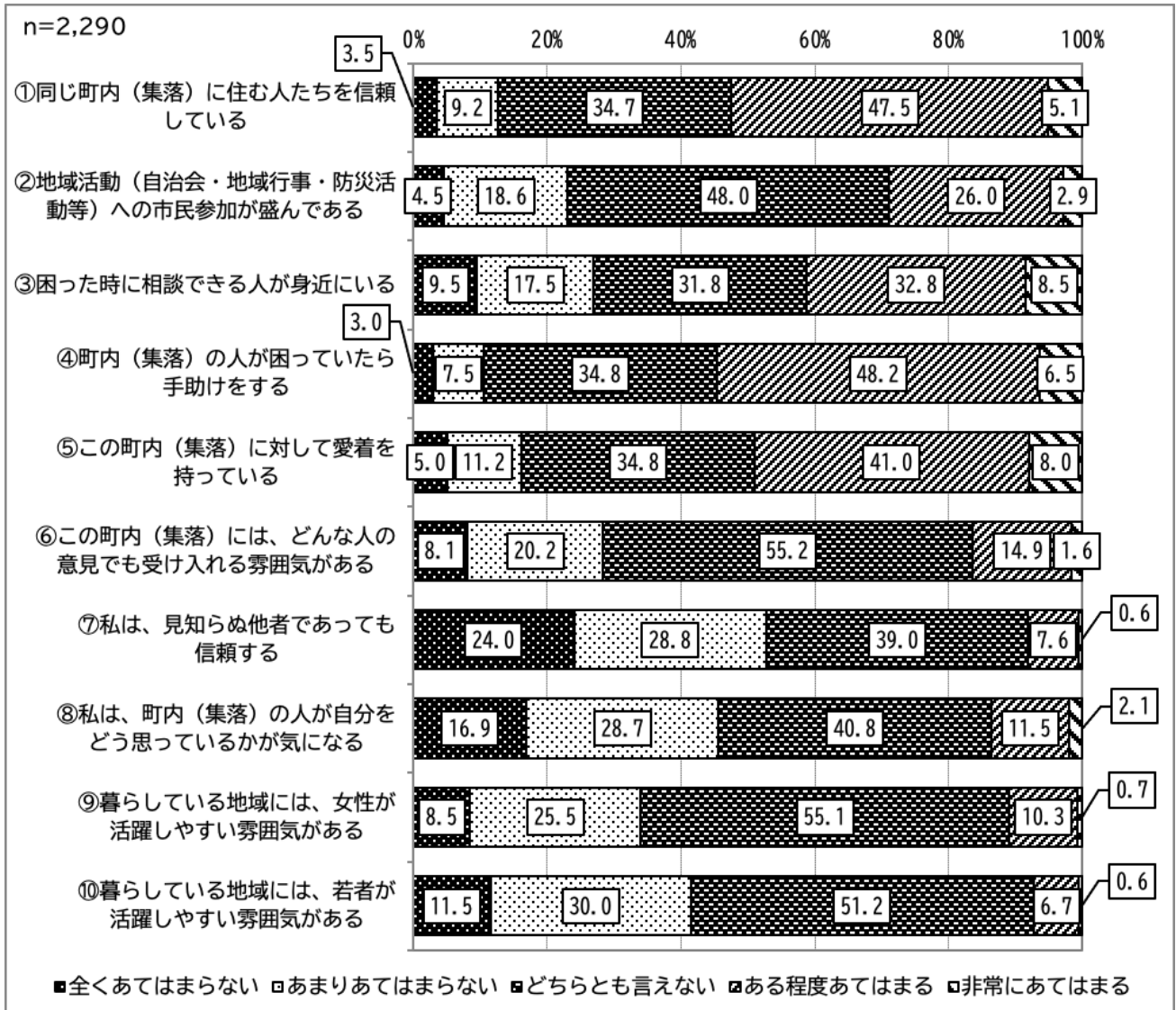
n=2,290



### (3) 地域の人間関係

『あてはまる』(「非常にあてはまる」「ある程度あてはまる」の合計)について、「④町内(集落)の人が困っていたら手助けをする」が54.7%と最も多く、次いで「①同じ町内(集落)に住む人たちを信頼している」が52.6%、「⑤この町内(集落)に対して愛着を持っている」が49.0%となっています。

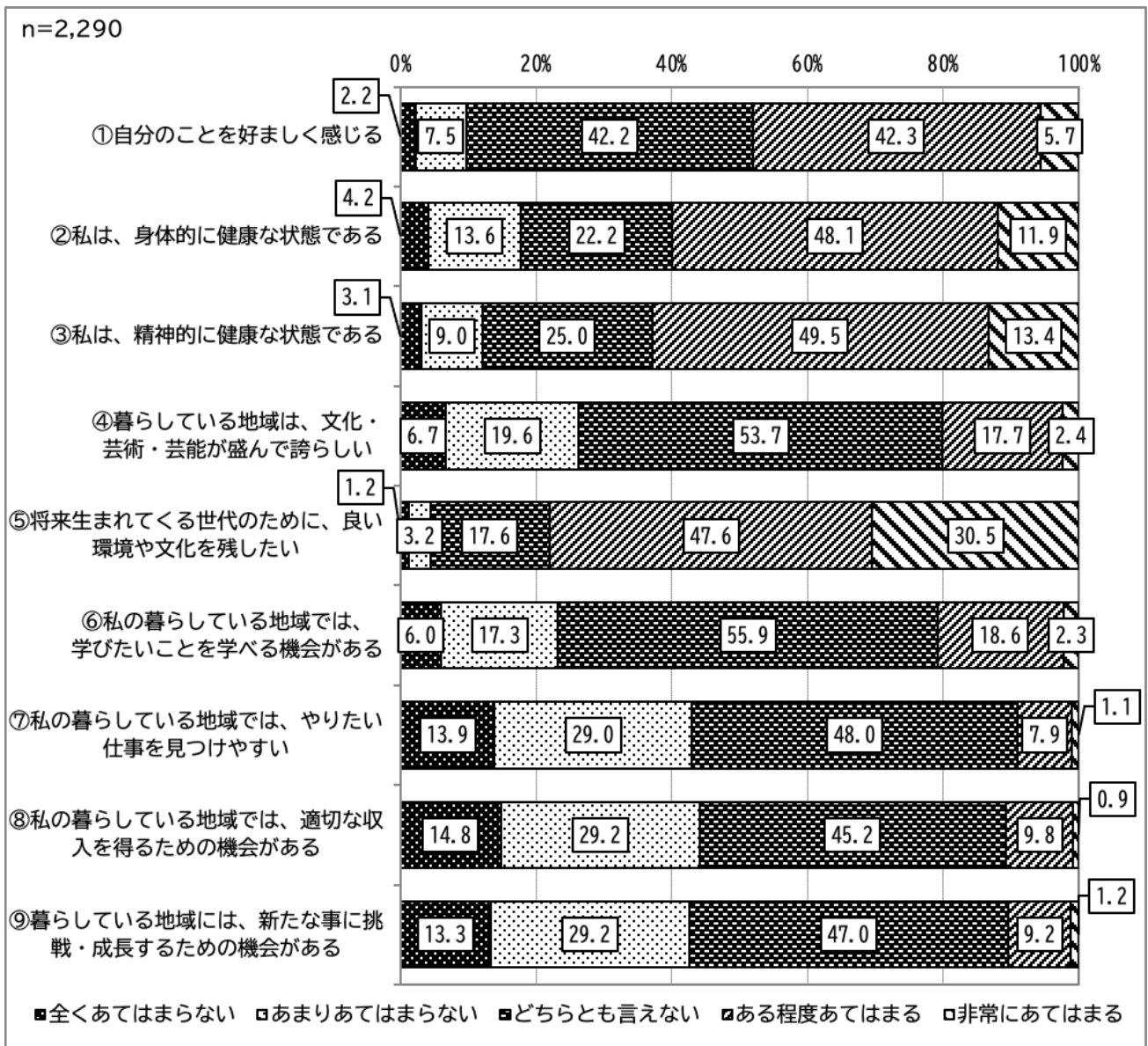
一方、『あてはまらない』(「全くあてはまらない」「あまりあてはまらない」の合計)について、「⑦私は、見知らぬ他者であっても信頼する」が52.8%と最も多く、次いで「⑧私は、町内(集落)の人が自分をどう思っているかが気になる」が45.6%、「⑩暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある」が41.5%となっています。



#### (4)自分らしい生き方

『あてはまる』(「非常にあてはまる」「ある程度あてはまる」の合計)について、「⑤将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい」が78.1%と最も多く、次いで「③私は、精神的に健康な状態である」が62.9%、「②私は、身体的に健康な状態である」が60.0%となっています。

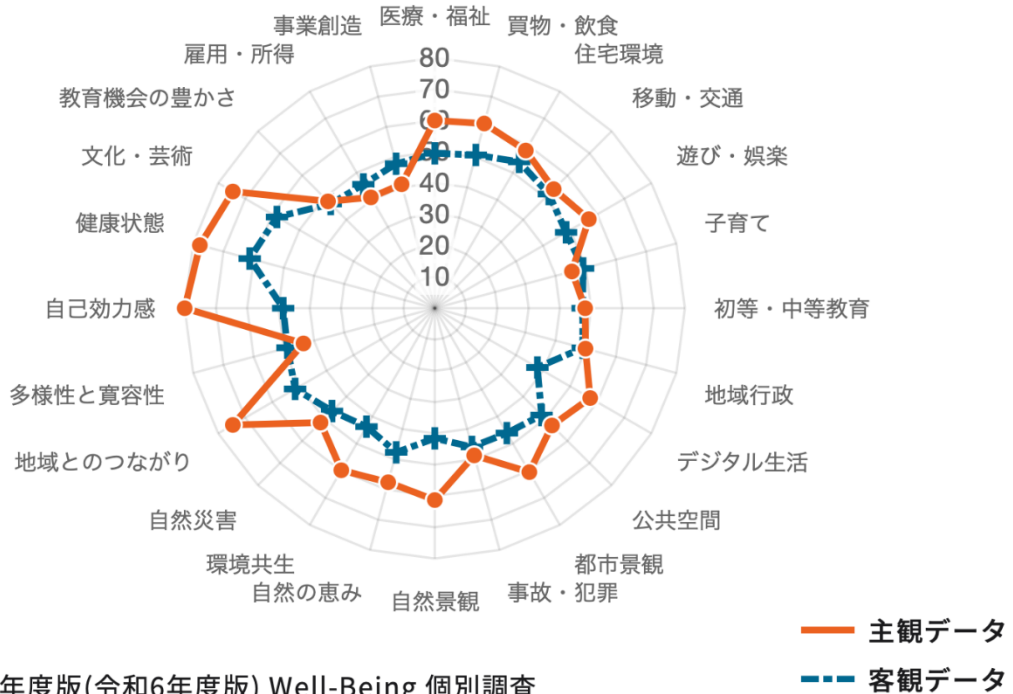
一方、『あてはまらない』(「全くあてはまらない」「あまりあてはまらない」の合計)について、「⑧私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある」が44.0%と最も多く、次いで「⑦私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい」が42.9%、「⑨暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある」が42.5%となっています。



### (5)地域幸福度 Well-being指標における主観指標と客観指標

主観指標…各自治体が集めたアンケートデータをもとに「幸福感(Well-being)」を算出したもの

客観指標…各種オープンデータをもとに「暮らしやすさ」を算出したもの



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査